

実施報告書

【2017年度】

グラスルーツからの
日米関係強化に関する
政府タスクフォース
(各地各様のアプローチ)

平成30年6月13日
外務省

目次

在アトランタ総領事館	P1
在アメリカ合衆国大使館	P12
在アンカレジ領事事務所	P17
在サンフランシスコ総領事館	P19
在シアトル総領事館	P30
在シカゴ総領事館	P53
在デトロイト総領事館	P76
在デンバー総領事館	P87
在ナッシュビル総領事館	P95
在ニューヨーク総領事館	P116
在ヒューストン総領事館	P132
在ボストン総領事館	P147
在ホノルル総領事館	P156
在ポートランド領事事務所	P164
在マイアミ総領事館	P165
在ロサンゼルス総領事館	P178

はじめに

我が国と米国は、自由、民主主義、基本的人権、法の支配などの基本的価値を共有する同盟国です。経済関係においても、日本企業による広範な対米投資は約4,210億ドルに達しており、約85万人を超える米国国内での良質な雇用を生み出し、米国経済の成長や各地域社会にも貢献してきました。

こうした「協力」を基調とした関係に対する理解を連邦議会及び政府関係者のみならず、より広く、米国各地の一般国民にも行き届くような形で深めていくためには、草の根レベル(グラスルーツ)での取組を積み上げていくことが重要です。

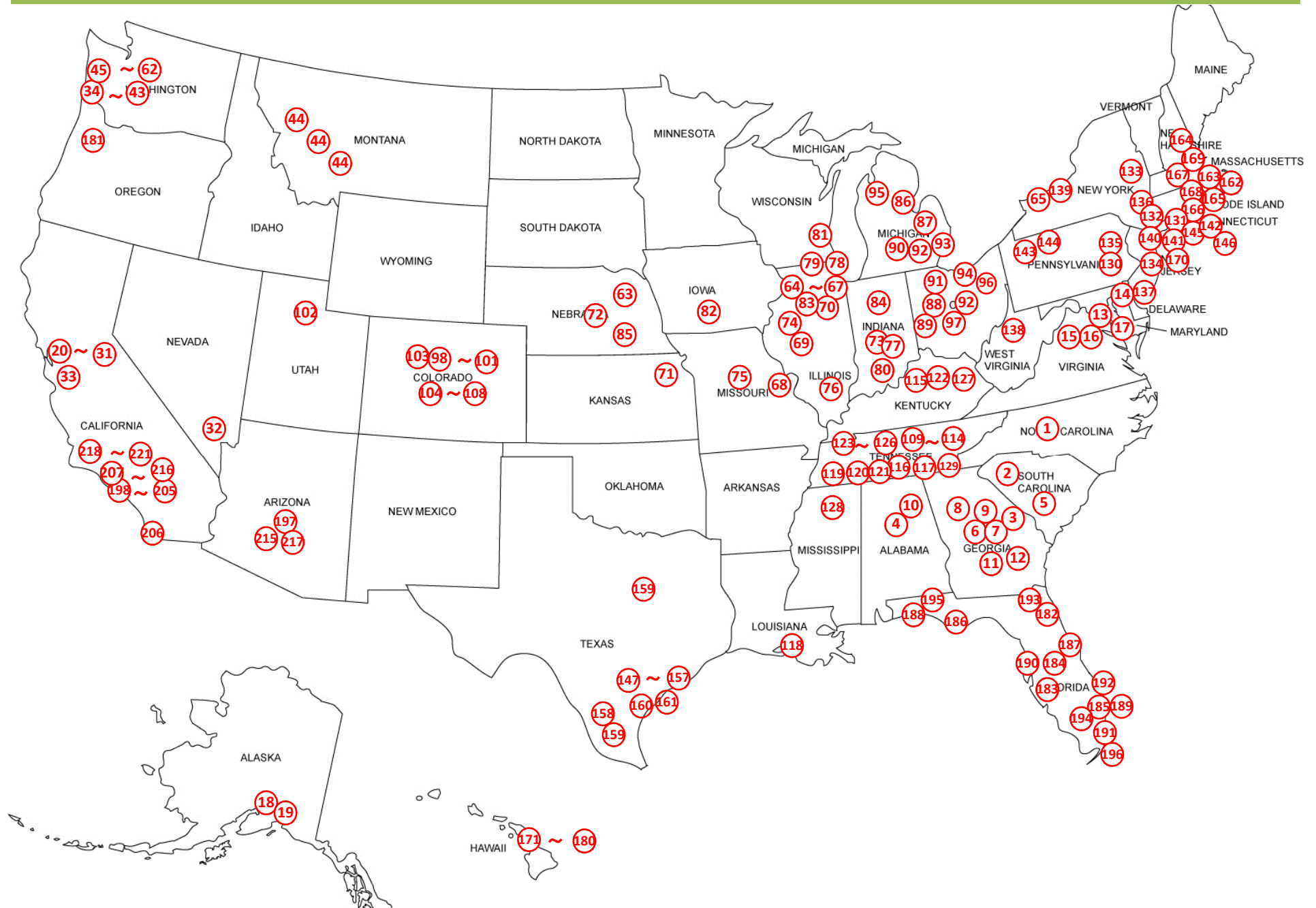
こうした中、在外公館のみならず、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)及び独立行政法人国際交流基金等の関係団体や、在米日本企業及び日本経済団体連合会(経団連)等と連携し、日米両国の緊密な関係について、我が国の文化・伝統に関する理解の裾野も広げながら米国の一般国民に分かりやすく訴えかける活動を強化していくことが喫緊の課題です。

こうした問題意識の下、連邦レベルにおける対日政策形成プロセスにも望ましい影響を与えていくことを念頭に、2017年4月以降、官民を挙げた州・地方レベルにおける取組の具体的な方策について検討する「グラスルーツからの日米関係強化に関する政府タスクフォース(各地各様のアプローチ)」を立ち上げ、計3回の会合及びフォローアップ会合を実施し、議論を重ねてきました。

本報告書は、それらの議論も踏まえ、各在米公館が2017年度(同年3月を含む)に米国各地において実施した様々な関連の取組をとりまとめたものです。

実施期間	: 2017年度(同年3月を含む)
実施件数	: 221件
のべ参加人数	: 約77万5,300名

米国各地におけるグラスルーツの取組



① シャーロット盆踊り大会(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2017年8月5日
- 実施場所 ノースカロライナ州シャーロット市
- 関係機関 シャーロット日本人会
- 訴求対象 シャーロット市及び近隣在住市民
- 開催規模 約5千名
- 概要・効果

シャーロット日本人会が主催する盆踊り大会に、総領事館広報文化ブースを設置し、浮世絵展示を実施したほか、2017年カケハシプロジェクトで訪日した地元の高校生が訪日経験を展示発表。

盆踊り大会に足を運んだシャーロット市民等に広く日本文化及び日米交流の実例を紹介できたことに加え、訪日した高校生が日米交流促進活動を行う場を提供することができた。



② グリーンビル盆踊り大会(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2017年8月19日
- 実施場所 サウスカロライナ州グリーンビル市
- 関係機関 サウスカロライナ日米協会
- 訴求対象 グリーンビル市及び近隣住民
- 開催規模 約900名
- 概要・効果

サウスカロライナ日米協会が主催する盆踊り大会に、総領事館広報文化ブースを設置し、浮世絵展示を実施。

盆踊り大会に足を運んだグリーンビル市民等に広く日本文化を紹介することができた。



③ ジョージア州地元要人対象イベント「Experience Japan」 (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2017年9月16日
- 実施場所 ジョージア州アトランタ郊外
グウィネット郡
(ジャパンフェスト会場内)
- 関係機関 ジョージア日米協会、
ジョージア日本人商工会
- 訴求対象 ジョージア州議会議員等
地元要人とその家族
- 開催規模 約50名
- 概要・効果



【概要】

米国南東部最大級の日本祭りであるJapanFestの機会を活用し、地元要人を対象に、ジョージア州進出日本企業の存在・活動を理解してもらう企業展示ツアー及び日本企業代表等との懇談、和食・日本酒といった日本の食文化、文楽等伝統芸能に触れる機会を提供するイベントを実施。

【効果】

通常ではJapanFestに足を運ばない議員・自治体首長等の参加が得られ、日本企業の活躍、和食・日本酒の魅力、日本文化の魅力を紹介することができた。

④ 南東部自動車会議における日米(南東部)自動車部品産業商談会(アトランタ総領事館)

■実施時期 2017年10月4～6日(3日間)

■実施場所 アラバマ州バーミングハム市
(バーミンガム・ジェファソン・コンベンション
・コンプレックス)

■関係機関 アラバマ自動車製造業協会、
ジェトロ・アトランタ事務所

■訴求対象 アラバマ州を中心とする南東
部の自動車産業関係者

■開催規模 約1千名

■概要・効果

【概要】

本年度で第10回を迎える南部自動車会議(アラバマ州、ミシシッピ州、テネシー州の各自動車製造業協会が持ち回り開催。ジョージア州及びサウスカロライナ州も

参加。南部の自動車関連企業(OEM及びサプライヤー等)が、新技術、生産戦略、リーダーシップ等について議論し、ネットワークを構築するイベント)で、ジェトロ・アトランタ事務所が、南部自動車会議の中で、日本企業の展示エリアを設置し、並行して個別企業間の商談会をアレンジ。

【効果】

自動車産業関係者に南東部における日本のプレゼンスを改めて印象付けるとともに、会議に出席したケイ・アイヴィー・アラバマ州知事に対し、在アトランタ総領事とジェトロ・アトランタ事務所所長から日本企業展示エリアと参加日本企業について説明し、アラバマ経済への日本企業の貢献をインプット。



⑤ ジョージア州アトランタ圏における運動会及びバーベキューの実施(アトランタ総領事館)

■実施時期 2017年10月28日

■実施場所 ジョージア州アトランタ市
(ブランドン・ホール高校)
(雨天のためグラウンドではなく体育館で実施)

■関係機関 ジョージア日米協会主催

■訴求対象 アトランタ圏在住の日本に関心を有する一般市民

■開催規模 約80名

■概要・効果

【概要】

ジョージア日米協会が開催する日米交流イベントの1つで、地元私立高校の協力(グラウンド又は体育館の提供)を得て実施。日本の運動会の定番競技である玉入れ、綱引き他、けん玉リレー、酔っ払いリレー、羽根つきリレーといった怪我を誘発しづらい競技を中心に紅白のチーム対抗戦が実施され、勝利チームには日米協会から記念品が贈呈された。その後、バーベキューランチが提供された。総領事館からは、総領事、館員及び館員家族が参加し、競技参加及び運営補助の協力を実施。

【効果】

子供連れの家族(日本人駐在員、米国人、国際結婚)、JETプログラム参加者及びその家族、アジア太平洋子ども会議に参加したジョージア州の児童等が、日本文化の一側面である運動会を体験することで、特に若年層(10歳以下の米国人乃至国際結婚家庭の子女15人)の日本への興味を高め、また、JETプログラム参加者の米国における日本関連活動への継続に弾みを付けた。



⑥ ジョージア州地元要人対象イベント「Experience Japan」 (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2017年11月1日
- 実施場所 ジョージア州アトランタ市
- 関係機関 カーター・センター
- 訴求対象 国際保健・公衆衛生・医療分野の専門家・学生
- 開催規模 約70名
- 概要・効果

【概要】

平和構築、保健、人権分野で活動する国際NGOカーター・センターと共催で、「Japan's Role in Global Health」と題するセミナーを実施。

【効果】

通常の総領事館イベントでは接触がほとんど見込まれない国際保健・公衆衛生・医療分野の専門家・学生等がセミナーに出席。

「日本×国際保健×アトランタ」を切り口に新たな日本への関心層を開拓することができた。



⑦ 第40回日本・米国南東部会合同会議に際する在外公館長表彰の実施(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2017年10月22日
- 実施場所 サウスカロライナ州
グリーンビル市
- 関係機関 サウスカロライナ州商務省
- 訴求対象 サウスカロライナ州知事等
同州の政治・経済界要人
- 開催規模 約180名



■概要・効果

【概要】

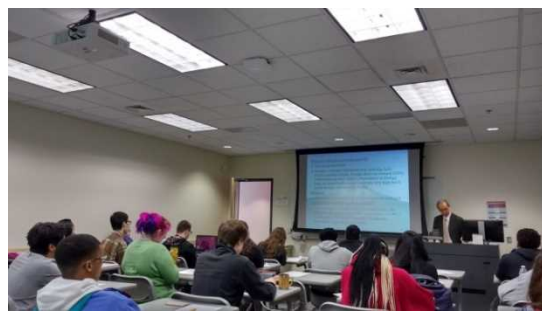
日本・米国南東部会に参加する7州が日本側と交互に持ち回りで開催する「日米・米国南東部会合同会議」の第40回という節目の会議がサウスカロライナ州で開催される14年に1度の機会に、日・サウスカロライナの交流をプレイアップすべく、サウスカロライナ州側に在外公館長表彰実施を打診、受章者の渡邊泰邦氏 (Fuji Film Manufacturing U.S.A.元社長、サウスカロライナ日米協会元共同会長) がサウスカロライナ州も認める日・サウスカロライナ州経済交流の立役者であることから、同州商務省が表彰式実施を快諾、同州主催レセプションの中で表彰を実施。

【効果】

表彰の場には、マクマスター・サウスカロライナ州知事夫妻、佐々江駐米大使、ジェフ・ダンカン連邦下院議員、ヒュー・レザーマン同州上院仮議長、ボビー・ヒット同州商務長官といった要人が一堂に会しており、日・サウスカロライナ州経済交流の長さや深さを同州要人に印象づけることが出来た。

⑧ 講師派遣事業「日本経済及び日米経済関係」 (アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年2月12日
- 実施場所 ジョージア州ケネソー市及びアトランタ市
- 関係機関 ケネソー州立大学及びジョージア工科大学国際ビジネス教育センター
- 訴求対象 大学生及び日本に関心を有する一般市民
- 開催規模 約100名



■ 概要・効果

【概要】

浦田秀次郎早稲田大学大学院アジア太平洋研究所教授による「日本経済：順調な回復、課題、対外経済政策、対米関係」と題する講演会を実施。日本経済の回復、アジア・太平洋地域に包括的で高いビジネス規範を導入するTPPの重要性、米国がTPPに復帰することへの期待、日米が公正で開かれた透明性の高いビジネス慣行を世界に広げていくために協力することの必要性等を発信。

【効果】

2016年8月にアジア学専攻が開始され日本・アジアに興味を持つ学生が増えつつあるケネソー州立大学における学生を対象とした講演会とアトランタ中心部に位置するジョージア工科大学における一般市民がアクセスしやすい講演会という組み立てで、異なる聴衆層の日本経済及び日米経済関係に係る理解を深めることができた。

⑨ ジョージア州議会によるジョージア州政府東京事務所設置45周年記念決議(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年3月1日
- 実施場所 ジョージア州アトランタ市
- 関係機関 ジョージア州上院、下院
- 訴求対象 ジョージア州知事、副知事、州上院議員、州下院議員
- 開催規模 約230名



■ 概要・効果

【概要】

ジョージア州議会の上院及び下院は、ジョージア州政府東京事務所設置45周年が示すジョージア州と日本との長年にわたる強固な友情を称える決議を採択。3月1日、各院が在アトランタ総領事館に決議を手渡す際



に、在アトランタ総領事がそれぞれの議場において、ジョージア州政府東京事務所設置45周年に祝意を表し、日本とジョージア州との経済関係が約640の日系企業が約3万6千人以上のジョージア州民を雇用するまでに拡大している、今後、より一層日・ジョージア州の関係が深化することを期待している旨のスピーチを実施。

【効果】

ディール ジョージア州知事(決議手交に先立ち面会)、ケーグル州副知事(上院議長)、上院議員(58人)、下院議員(180人)に、日本とジョージア州との関係の長さや深さ、日本の同州への投資の大きさを印象付けることが出来た。

⑩ バーミングハム桜祭り(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年3月17日
- 実施場所 アラバマ州バーミングハム市
- 関係機関 アラバマ日米協会
- 訴求対象 バーミングハム市及び
近隣在住市民
- 開催規模 約800名

■ 概要・効果

【概要】

アラバマ日米協会が主催する桜祭りに、総領事館広報文化ブースを設置し、浮世絵ワークショップを開催。

また、総領事館の学校訪問広報授業「スクールキャラバン」で「お囃子」講座を体験したアラバマ州の大学生等が、ステージ上でお囃子を披露。

【効果】

桜祭りに足を運んだバーミングハム市民等に広く日本文化を紹介することができた。



11) メーコン桜祭りパレード(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年3月18日
- 実施場所 ジョージア州メーコン市
- 関係機関 メーコン桜祭り実行委員会
- 訴求対象 メーコン市及び
近隣在住市民
- 開催規模 約1万名



■概要・効果

【概要】

メーコン桜祭り実行委員会が主催する桜祭り(3月16日～25日)のハイライトである18日のパレードに総領事が主催者提供のパレード用オープンカーに乗車する形で参加。また、同パレードには、日本企業YKK(1974年にメーコン市に工場開設)がフロート車(山車)を出して参加しており、メーコン市と富山県黒部市との姉妹都市交流40周年を記念して2017年10月に黒部市を訪問したメーコン市代表団に参加した地元高校生もYKK提供の緑のTシャツを着用して行進。

【効果】

桜祭りに足を運んだメーコン市内外の人々に広く日本とメーコン市との関係を印象付けることができた。

⑫ コンヤーズ桜祭り(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2018年3月24、25日
- 実施場所 ジョージア州コンヤーズ市
- 関係機関 コンヤーズ市
- 訴求対象 コンヤーズ市及び
近隣在住市民
- 開催規模 約2万名
- 概要・効果

【概要】

コンヤーズ市が主催する桜祭りに、総領事館広報文化ブースを設置するとともに、日本から招へいた書道家「中島姉妹」と「十和田流流鎗馬」(青森県十和田市)による書道と流鎗馬のパフォーマンスを披露。また、総領事もコンヤーズ市長と共に祭り会場のステージで挨拶。

【効果】

第38回を数えるコンヤーズ桜祭りは、日本企業「マクセル」のコンヤーズ撤退後、アメリカのフェスティバルと化し、日本との縁が桜祭りの由来であることが忘れられつつある中、目を引くパフォーマンス「書道」「流鎗馬」で、来訪したコンヤーズ市民等に日本を感じてもらい、日本への興味喚起を図ることができた。



13 2017年JETAA全米総会及びJET30周年リユニオン (在米国大使館)

■実施時期 2017年8月3日～6日

■実施場所 ワシントンDC

■関係機関

JET同窓会DC支部(JETAADC)

全米JET同窓会(USJETAA)

国際交流基金

(JET30周年同窓会のみ)

■訴求対象

JETAA各支部代表者及び
元JETAA参加者

■開催規模 約300名

■概要・効果

JET同窓会DC支部(JETAADC)主催のJETAA全米総会及び全米JET同窓会(USJETAA)主催のJET30周年同窓会、また大使館主催のレセプションを開催。JETAA全米総会では、JETAA各支部からの活動報告が行われ、JET30周年同窓会企画では、これまでの歴史と将来の更なる発展に向けた議論や報告が行われた。当日は、同窓生による各地域コミュニティでの取組等有益な情報を共有する機会となり、また、元JET参加者の連帯意識を強め、JETプログラムそのものの持つ大きな可能性を可視化することができた。さらに、本取組の広報活動として、大使館のSNSや現地公共ラジオ局及びメディアの広告を通じて、一連の行事の開催について事前に案内し、また、メディアに働き掛け、インタビュー記事の掲載を行ったことで、JETの認知度向上に繋げることができた。



⑭ メリーランド州経済団体主催イベントにおける日本酒プロモーション及びマグレブ建設プロジェクトのプロモーション(在米国大使館)

■実施時期 2017年10月4日

■実施場所 メリーランド州ボルチモア市

■関係機関 世界貿易センター・インスティテュート
(WTCI: World Trade Center Institute)

■訴求対象 メリーランド州及びワシントンDC近郊を含む中部大西洋地域のビジネス関係者、メリーランド州政府商務局・運輸局関係者

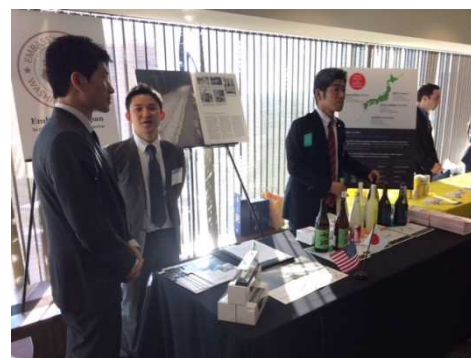


■開催規模 約300名

■概要・効果

【概要】

メリーランド州最大の経済団体であるWTCIが加盟企業・団体を対象として行ったワインテイasting・イベントに大使館のブースを出展し、日本酒のプロモーションを実施(日本大使館含め10か国の大使館が出展)。日本酒(4銘柄)は、日本酒造組合中央会の提供を受けたもの。利き酒師の資格を持つ館員が説明を行った。同時に、ブースにはJR東海を招待し、現在同州で進行中のマグレブ建設プロジェクトに関するプロモーションを実施した。



【効果】

当日は約80名がブースに立ち寄った。来訪者の中には、飲食店経営者や小売業者もあり、日本酒の取扱いに大きな関心を示していた。マグレブ・プロジェクトに関しても、日本酒を楽しみながら、JR東海による説明を熱心に聞く来訪者もあり、同社が準備したマグレブ模型約50個も全て配付された。本イベントを通じて、参加者であるメリーランド州のビジネス関係者に訴求できたのは勿論だが、主催者のWTCIとのやり取りを通じて、日・メリーランド経済関係を地元経済団体に直接アピールする人脈を形成することができた。

15 バージニア州小学校での桜の植樹式(在米国大使館)

■実施時期 2017年10月10日～11月20日

■実施場所 バージニア州
フェアファックス郡

■関係機関 ANAワシントンDC事務所
フォックス・ミル小学校
グレート・フォールズ小学校
グレン・フォレスト小学校

■訴求対象 上記各小学校の児童及び
保護者

■開催規模 約150名

■概要・効果

【概要】

日本の航空会社ANAが実施した桜の植樹イベント。ANAは桜祭りの主要スポンサーを務めており、スポンサー・イベントの一環として、22本の桜の苗木を米国国立公園局に寄贈。うち15本の苗木を地元小学校(3校)の児童と共に植樹した。大使館からは、フォックス・ミル小学校でのイベントに広報文化公使が参加し、ビデオインタビューに応じたほか、経済班発行のメールマガジン(Econ News)でも紹介することにより、本取組の広報活動を支援した。

【効果】

ワシントンDCにおける全米桜祭りは日米友好関係を祝する最大規模のイベントであり、桜は日米友好関係の象徴として地元によく認識されているところ、桜の数を物理的に増やすとともに、地元児童が実際の植樹作業を行うことにより、将来にわたる一層の親日感を醸成するのに貢献。



16 バージニア州のスーパーマーケットにおいて開催された日本産水産物販売会(在米国大使館)

- 実施時期 2017年10月13、14日
- 実施場所 バージニア州フェアファックス市
- 関係機関 Wegmans
魚力
- 訴求対象 ワシントンDC圏在住の日本産水産物購入に関心のある一般市民
- 開催規模 約500名
- 概要・効果



【概要】

日本の水産物販売会社「魚力」と現地スーパーマーケットのWegmansが協力して日本産水産物の販売会を実施。日本から空輸された生鮮及び急速冷凍技術によって冷凍された水産物(F4)に加えて、ラーメンや日本茶等の日本食も販売された。大使館はメーリングリストを活用して開催について案内するとともに、経済班発行のメールマガジン(Econ News)を使って結果を紹介することで当該イベントの広報活動を支援した。

【効果】

DCエリア周辺に在住する日本食に関心を有する者に対して、日本産の高品質な水産物を購入する機会を紹介することで、日本産水産物を購入し、その品質について認知するきっかけを提供できた。また、今回のイベント広報支援を契機に承知した魚力の冷凍技術を用いた魚(F4)について、魚力の協力により大使館で開催する天皇誕生日レセプションにおいても刺身で提供し、レセプション出席者に対しても日本産水産物及び冷凍技術を紹介する機会の創出につながった。

17 2018年ワシントン新春祭り(在米国大使館)

- 実施時期 2018年1月28日
- 実施場所 ワシントンDC
- 関係機関 ワシントン日本商工会
(ワシントン日本商工会財団)
- 訴求対象 ワシントンDC在住の日本に
関心を有する一般市民
- 開催規模 約2千名
- 概要・効果



ワシントン日本商工会(及びワシントン日本商工会基金)との共催により、日本の正月の伝統行事や遊びを紹介する場としてワシントン新春祭りを開催。当日は、餅つき、獅子舞、百人一首カルタ、三味線、羽根突き、各種お正月ゲーム、各種模擬店、おみくじ、駄菓子屋等の披露・実施。日本の正月文化と伝統芸能のパフォーマンスを紹介する新春祭りを開催することにより、現地一般市民等の日本に対する理解と関心を高め、また幅広い層の米国人などの参加を得ることにより、広範な対日関心を喚起することができた。

18 在アラスカ領事団による自国への観光促進イベントの実施 (アンカレジ領事事務所)

- 実施時期 2018年1月12日
- 実施場所 アラスカ州アンカレジ市
- 関係機関 アラスカ世界問題評議会主催
- 訴求対象 海外事情に関心を有する
一般市民
- 開催規模 約80名



■概要・効果

【概要】

在アラスカ領事団のメンバー5人(ノルウェー王国名誉領事(アラスカ世界問題評議会会長兼本イベントの進行役)、イタリア名誉領事、英国名誉領事、日本国領事事務所長、韓国副総領事)が、それぞれの国を訪問する観光客に勧めたいことについて話し、関連するウェブサイト等を紹介して、自国への観光を促進。

在アンカレジ領事事務所長は、観光客にとっての日本の主な魅力について紹介するとともに、日本政府観光局の英文ウェブサイトを紹介し、アラスカ州内の市や郡と姉妹都市関係にある日本の都市(秋田、下呂、千歳、帯広など)から取り寄せた英文パンフレットを含む日本への観光を促進する英文資料を参加者に配布。

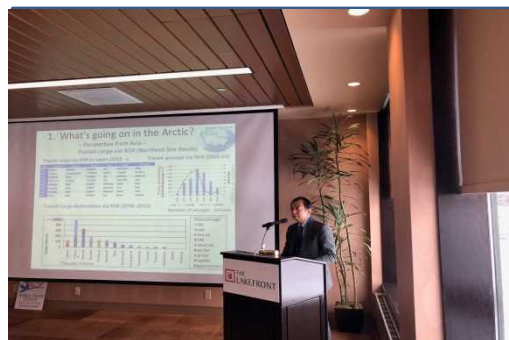
【効果】

潜在的な訪日観光客に対して、観光客にとっての日本の主な魅力、アラスカ州内の自治体と姉妹都市関係にある日本の自治体の観光地としての魅力を伝え、アラスカ州から日本への観光促進に一定の貢献をすることができた。

なお、同イベントの様子は、アラスカ世界問題評議会及び領事事務所のHPやアンカレジ公共ラジオ放送などを通じて、広報された。

①「2018年日本ビジネスに関する最新情報と展望」イベントの実施 (アンカレジ領事事務所)

- 実施時期 2018年2月14日
- 実施場所 アラスカ州アンカレジ市
- 関係機関 ワールド・トレード・センター
・アンカレジ主催
- 訴求対象 日本とビジネス関係の
構築・発展を企図する
地元実業界関係者
- 開催規模 42名



■概要・効果

【概要】

日本経済の現状及び展望を把握し、日本とアラスカの企業間のビジネスを促進する機会を探り、かかる機会を実現するために必要な支援についての情報を得ることを目的として開催。

在アラスカ・マカウスキー連邦上院議員事務所長、アラスカ海産物マーケティング研究所国際マーケティング調整主任、ジェトロ・サンフランシスコ事務所次長、アラスカ・ガスパイプライン開発公社在日エグゼクティブ・アドバイザー、在京米大商務官などが、プレゼンテーションを実施。

在アンカレジ領事事務所長が、締めくくりの昼食会において、北極を巡る日本に関連するビジネス動向及び展望についてプレゼンテーションを実施。

【効果】

ジェトロ・サンフランシスコ事務所から参加を得られたこともあって、日本経済の現状及び展望を把握すること並びに日本とアラスカの企業間のビジネスを促進する機会を実現するために必要な支援についての情報を得ることという目的はおおむね達成。

日本の民間企業からの参加もあり、アラスカ州の企業関係者との人脈形成につながり、企業間のビジネスを促進する機会を提供。

20 シンゼン・ユース・プログラム壮行会(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年7月21日
- 実施場所 サンフランシスコ総領事公邸
- 関係機関 北加日本文化コミュニティセンター(JCCCNC)
- 訴求対象 シンゼン・ユース・プログラム参加関係者
- 開催規模 約80名
- 概要・効果



シンゼン・ユース・プログラムは、日本の若者との親善交流を行うことを目的に、現地の日系人青年及びその家族が訪日するプロジェクトで、1995年にJCCCNCが総領事館と協力して開始されたもの。

今年8年振りに18名の日系人青年及びその家族ら合計90名が参加して同プログラムが行われる機会に総領事公邸にて壮行会を開催し、同プログラムの更なる発展に向けた貢献を行った。

21 J-POPアイドル・カラオケ・コンテスト(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年9月10日
- 実施場所 サンフランシスコ市内フォート・メイソン・センター
- 関係機関 Superfrog Project
- 訴求対象 日本語に関心がある若者
- 開催規模 約1千名
- 概要・効果



J-POPサミット・フェスティバル2017のメイン行事の1つとして、同フェスティバル主催者と共催で、日本語に関心がある若者を対象に日本語普及を目的とした「J-POPアイドル・カラオケ・コンテスト」を開催。

優勝チームには総領事館広報文化センター長より賞状を授与。現地における日本のポップカルチャーの普及に大きく貢献した。

22 Design Thinking × Japan～Re-imagine Japan tourism～ (サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年9月12日～14日(3日間)
- 実施場所 ベイエリア(SAPオフィス内)
- 関係機関 SAP
- 訴求対象 潜在的訪日観光客
- 開催規模 約220名
- 概要・効果

37カ国からのSAPアカデミー研修生(160名)と観光関連産業を始めとする日本企業参加者(約60名)が「デザイン思考」を用いて、訪日観光客の継続的な訪日の仕組みを検討するワークショップを開催。今後、本ワークショップでのアイデアの下、訪日観光客が増加することにより、日米の人的交流の強化がされることが期待される。



23 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年10月26日
- 実施場所 市内ワールド・アフェアーズ・カウンシル
- 関係機関 官邸国際広報室
ワールド・アフェアーズ・カウンシル(WAC)
- 訴求対象 現地有識者等
- 開催規模 約50名
- 概要・効果

「歩こうアメリカ、語ろうニッポン」事業として現地を訪問した大島正太郎元駐韓大使の講演会をWACと共催で実施。米国・イスラエル公共問題委員会顧問、在サンフランシスコ韓国総領事館館員、現地の大学教授等の有識者を含む参加者に対し、東アジアの安全保障、北朝鮮情勢、日本経済の情勢及びグローバル経済における役割等について発信することができた。



24 桜メント・プロジェクト(桜並木植樹計画)の桜植樹式 (サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年10月28日
- 実施場所
サクラメント市内サウスサイド・パーク
- 関係機関
サクラメント植樹基金・桜メント委員会
- 訴求対象 サクラメント市民
- 開催規模 約80名
- 概要・効果

州都サクラメント市内のロバート・マツイパークに約200本からなる桜並木を形成し、将来的に毎年桜が咲く時期に桜祭りを開催することを目指すプロジェクト。

今回は、マツイ連邦下院議員や州議会議員、市民ら約80名が植樹式に参加し、桜28本を植樹した。



25 宇山経済局審議官による講演会(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年11月13日
- 実施場所 サンフランシスコ州立大学
- 関係機関 サンフランシスコ州立大学
- 訴求対象 サンフランシスコ州立大学教員・学生
- 開催規模 約40名
- 概要・効果

米国や欧州で保護主義の動きが強まる中、TPP、日EU・EPA、RCEPといったメガFTAの交渉への参加を通じて自由貿易のルール作りを前進させていくとする我が国の経済外交の戦略を紹介するとともに、カリフォルニア州による多国間貿易システム促進に対する協力への期待を表明。現地の代表的大学の教員・学生に我が国の経済外交につき発信することができた。



26 学生向け茶道教室(サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年1月26、31日、2月2日

■実施場所 加州サンフランシスコ市
(裏千家ファウンデーション)
サンフランシスコ出張所)

■関係機関 裏千家ファウンデーション
サンフランシスコ出張所

■訴求対象 北カリフォルニア在住の学生

■開催規模 111名

■概要・効果

【概要】

現地の学生を対象に、本格的な茶室での茶道ワークショップを実施し、茶道の作法や日本人の礼儀作法に関するレクチャー、茶室の案内等を通じて、日本の精神文化を伝えた。3日間にわたり、参加生徒のレベルに合わせて日本語又は英語による6セッションを開催し、学校の外での日本語や日本伝統文化を体験する機会となった。

【効果】

今年小学生及び高校生111名が参加。若い世代に対し、一層の対日理解及び日本文化への興味を促すことができた。日本語を学んでいる学生が多く、茶道教室を通じて今後の日本語学習のモチベーションの向上や、学校や教師に対しても日本語教育促進・維持に繋がった。



27 北朝鮮核ミサイル・問題に関するパネルディスカッションへの参加 (スタンフォード大学)(サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年1月31日

■実施場所 スタンフォード大学

■関係機関 スタンフォード大学、在サンフランシスコ韓国総領事館

■訴求対象 スタンフォード大学の学生、教員、一般市民

■開催規模 約50名

■概要・効果

【概要】

永吉首席領事がスタンフォード大学フリーマン・スプグリ国際問題研究所の学生団体が主催する北朝鮮の核問題に関するパネルディスカッションにパネリストの一人として参加。同パネルディスカッションには、ジミン・キム在サンフランシスコ韓国総領事館副総領事、キョウ・ヒュン・キム客員助教授(元パク・クネ韓国大統領補佐官)が参加し、日米韓の各々の北朝鮮のミサイル・核問題に対する見方及び日米韓3カ国の連携強化の重要性等について議論した。

【効果】

緊迫した状況にある北朝鮮のミサイル・核問題に対する我が方の基本的な考え及び政策並びに国際社会の一致した対応及び日米韓3カ国の連携の重要性につき、学生、教員、一般市民に対して発信することができた。

28 講師派遣事業「アジア太平洋地域の貿易秩序と日本の貿易戦略」 (サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2018年2月5日
- 実施場所 加州サンフランシスコ市
(バイエリアカウンシル)
- 関係機関 バイエリアカウンシル
- 訴求対象 北カリフォルニア在住の
一般市民、ビジネス界、
領事団関係者等
- 開催規模 約60名



■ 概要・効果

【概要】

渡邊頼純・慶應大学教授が「アジア太平洋地域における貿易秩序の課題と日本の2018年の貿易戦略」をテーマに講演を実施。

【効果】

経済分野のシンクタンクであるバイエリアカウンシルの協力を得て本講演を開催したところ、同団体会員などビジネス関係者や各国領事団などの参加があり、新たな関係構築につながった。同事業では、かつては米国と通商摩擦を抱えていた我が国が二国間及び地域間の自由貿易協定を推進してきた実績と、米国がTPPを離脱し、国際社会で保護主義の雰囲気広がる中で、日本がTPPをリードし機運を維持している姿を効果的に聴衆に伝えることができた。また、必ずしもTPPを深く理解していない聴衆に対しても、TPPに加盟することが米国やカリフォルニア州にとってメリットが大きい点をアピールすることができた。

29 シリコンバレーレセプション2018「秩父ナイト」の実施 (サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年 2月23日

■実施場所 Hakone Estate and Garden

■関係機関 秩父地域(秩父市、横瀬町、
皆野町、長瀬町、小鹿野町)



■訴求対象

現地食関係者(ディストリビューター・インポーター・小売・レストラン)、IT企業(Google)、北加商工会議所、航空会社、旅行代理店、メディア関係者、各国外交団、JETRO



■開催規模 約60名

■概要・効果

【概要】

秩父地域は2015年から秩父地域地場産業振興センター等と連携し、米国・シリコンバレーエリアでの地場製品の販路拡大を進めてきた。現地日系スーパーでの試験販売を経て、秩父ブランドの更なる浸透、知名度向上による販路開拓を目指し、秩父産品を使用した創作料理や日本酒を振る舞う等、シリコンバレーレセプション「秩父ナイト」を開催した。

平素から総領事館が有する繋がりを最大限に活かし、イベント後の秩父産品の円滑な商流の確立や広報のため、食関係者のみならずメディアや各国外交団等幅広く声がけし、多数の出席を得た。また、食関係者に対して総領事館が事前に作成した商品リストを配布するなど、バイヤーにとって魅力的なイベントとなるよう努めた。

【効果】

現地バイヤーからの引き合いが行われるなど商談に向けた橋渡しとなった。また、秩父産品のモニター店として現地日系スーパーが協力することになるなど、販路拡大に貢献した。

現地日系フリーペーパー紙に後日本イベントの概要が掲載された。

③〇 映画「East Side Sushi」を通じた日本食レクチャー (サンフランシスコ総領事館)

■ 実施時期 2018年2月26日

■ 実施場所 加州バークレー市
(UCバークレー校)

■ 関係機関 在SFメキシコ総領事館、
UCバークレー校日本研究
センター、国際交流基金

■ 訴求対象 現地在住一般米国市民、学生、
ヒスパニック系コミュニティ等

■ 開催規模 約120名

■ 概要・効果

【概要】

総領事館管轄内オークランド市出身のアンソニー・ルセロ監督による、メキシコ移民の女性が米国で寿司職人になることを夢見て奮闘する姿を描いた映画「イーストサイド・寿司」の上映を行い、ヒスパニック系米国人を含む来場者に対し、日本の食文化の素晴らしさをアピールするとともに、同監督及び映画に協力した現地寿司職人中村智晴氏による日本食に関する講演を行った。さらに来場者を対象に寿司の試食会を実施、「和食」の魅力を肌で感じ取ってもらった。

【効果】

在SFメキシコ総領事館と共催し、同総領事館文化担当領事が参加したことで、日・メキシコの良い関係を観衆にアピールでき、将来的な文化交流イベントの開催にも前向きな反応を得ることができた。スペイン語のメディアによる本事業への取材があり、現地の若年層のヒスパニック系コミュニティに対し、日本のプレゼンスを高めることに繋がった。



31 アジアソサエティにおけるレクチャーシリーズ「北海道の魅力発信」(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2018年2月28日
- 実施場所 加州サンフランシスコ市
(北加アジア・ソサエティ)
- 関係機関 北加アジア・ソサエティ
- 訴求対象 現地在住の一般米国市民
JET同窓会
- 開催規模 約65名



■ 概要・効果

【概要】

北カリフォルニア・アジアソサエティがアジアの国々を文化、芸術、食を通じて紹介する事業。同ソサエティは、アジア系の人口が約3割を占めるサンフランシスコ市において、積極的にアジア諸国を紹介する発信事業を行っている。今般の事業では、日本を取り上げ、特に季節にちなみ「北海道」と「雪祭り」をテーマに、観光、食、文化紹介を通じた地方の魅力を発信した。北海道に滞在歴のある米国人(JETプログラム参加者)による北海道に関する講演、ネットワーキングで北海道にちなんだ軽食と飲料を提供、また観光パンフ等の配布を行った。

【効果】

アジア系人口に占める日系人の割合が高くない現地において本事業を通じて日本のプレゼンスを高めた。日本文化や日本への旅行に関心がある層に対して、更なる親日家の育成と訪日客誘致につなげることができた。

またアジア・ソサエティと共催したことにより、同団体の会員や支援者であるアジア系米国人等との関係構築に繋がった。JETプログラム参加者の米国における日本関連活動への継続に対する意欲を高めた。

32 ネバダ日本語弁論大会の開催(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2018年3月3日
- 実施場所 ネバダ州ラスベガス市
スプリング・バレー高校
- 関係機関 南ネバダ日本語教師会
国際交流基金
- 訴求対象 南ネバダ地域で日本語を学習
する中高生及び大学生
- 開催規模 約100名



■概要・効果

【概要】

総領事館と南ネバダ日本語教師会の共催により、南ネバダ地域の日本語学習者を対象に毎年実施している日本語スピーチコンテスト。第14回目となる本大会には32名の中高生及び大学生が出席し、日頃の日本語学習の成果を披露した。大会には総領事館、国際交流基金ロサンゼルス日本文化センター及び地元日系企業がスポンサーとして協力。総領事館からは首席領事が審査委員長として出席した。

【効果】

ラスベガスは総領事館が所在するサンフランシスコ・ベイエリアと比較して日本関連のイベントが限られており、ましてや日本語を披露する機会には本大会以外に無いため、本大会は参加者にとって日本語学習の具体的な目標及び動機付けとなっている他、保護者や学校関係者に対して日本語教育の良さをアピールする良い機会となっている。参加者からは、「緊張したが、大勢の前で日本語でスピーチすることで自分に自信がついた」、「他の参加者のスピーチを聞いて良い刺激を受けた」、「将来日本で働きたいので、日本語の勉強を続けたい」と言った声が聞かれた。また、本大会にはコミュニティの関係者(日本語教育関係者、地元日系企業、日米協会関係者等)が多く関与しており、日系コミュニティが比較的大きくないラスベガスにおいて、コミュニティ内の連携及び協力関係を深める良い機会となった。

33 小学生日本語お話大会(サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2018年3月4日

■実施場所 サンフランシスコ市
(北加日本文化コミュニティ・センター)

■関係機関 北加日米会
北加日本語教師会

■訴求対象 北カリフォルニア在住の
一般市民

■開催規模 約180名

■概要・効果

【概要】

現地の公立小学校及び日本語学校などで、外国語として日本語を学習している小学生40名が参加した。学年及び家庭内での日本語話者の有無により4つのカテゴリーに分かれて、日本語のスピーチを発表した。審査委員は現地日米関連団体関係者や日本語教師等で構成し、永吉首席領事が審査委員長を務めた。また、現地の日系企業や日系小売店の協力等を得て、参加者全員に参加賞状及び参加記念品を、入賞者には賞状や賞品を授与した。

【効果】

本大会は今年で46回目を迎え、現地校に通う児童にとっては、日頃の努力の成果を発揮し、日本語学習意欲を高める非常に良い機会となっており、学校や教師に対しても日本語教育促進・維持に重要な役割を果たしている。当日は、日本語を理解しない米国人や外国人の両親や友人なども多く参加し、日本への興味を高めることに繋がった。日系コミュニティに対しては、日本の文化や伝統を現地に残していこうとする意識や意欲を高める効果もあった。



34 シアトル桜祭・日本文化祭(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年4月21日～23日(3日間)
- 実施場所 シアトル市シアトルセンター
(1965年万博跡地)
- 関係機関 シアトル桜祭・日本文化祭実行委員会、シアトル市
- 訴求対象 ワシントン州郡長、州議員、地域コミュニティ全般
- 開催規模 約2万8千名

■概要・効果

文化交流使(藤間蘭黄氏)の発信機会を形成。

書道・茶道・華道・武道等のデモンストレーション・展示、現地日系人及び日本人音楽家等による和太鼓・日本舞踊等の異文化体験と相互理解を通じて日米友好関係促進に寄与。



35 八戸市・田子町・おいらせ町産品PRレセプション (シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年5月31日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 青森県八戸市・田子町・おいらせ町
- 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、
現地メディア
- 開催規模 約90名



■概要・効果

八戸産水産品と日本酒等のPRイベントを開催。フェデラルウェイ市議会議員の出席も得つつ、来年(2018年)に八戸市とフェデラルウェイ市とで姉妹都市提携25周年を迎える契機に、両市の関係をより深めたいとの挨拶。



36 Japan Fair 2017(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年7月8日～9日(2日間)
- 実施場所 ベルビュー市メイデンバウワー
センター
- 関係機関 ベルビュー市、ジャパンフェア
2017実行委員会他
- 訴求対象 ワシントン州副知事、州議員、
地域コミュニティ全般
- 開催規模 約2万名



■概要・効果

開会レセプションでは、ワシントン州副知事に加え、ベルビュー市長ほか現地政治関係者との関係を構築。



シアトル日本商工会と連携し、現地進出日系企業がブース展示。日本文化関連団体による各種日本文化の発信。

37 第31期JETプログラム歓迎レセプション(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年7月21日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 JETAA(JET同窓会)、日米協会
- 訴求対象 第31期JETプログラム参加者、
県人会コミュニティ、教育関係者
- 開催規模 68名
- 概要・効果

新規JETプログラム参加者を対象に、プログラムの概要、日本での生活等に関する講義の実施。

新規JETプログラム参加者間の連携の強化及びJETAA会員及び関係団体とのネットワークの構築。

現地教育関係者やメディア等を通じて同プログラムに関する広報活動の実施。



38 シアトルー神戸姉妹都市締結60周年関連行事 (シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年7月27日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 兵庫県神戸市、シアトル姉妹都市協会他
- 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、
現地メディア
- 開催規模 50名(公邸行事のみ)ほか多数
- 概要・効果

シアトル市長等の参加を得つつ、関連行事の初日に公邸にてシアトル市-神戸市の姉妹提携60周年記念レセプションを開催。神戸市主催ビジネスセミナーやシアトル市港湾局による祝賀会、マリナーズ試合での始球式、シアトル市内で各国コミュニティ団体とともにパレード参加(20万人以上が見物し地元TVが生中継)など、両市の活発・緊密な姉妹関係を現地で印象付けた。



39 福岡県人会110周年記念関連行事(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年8月17日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 福岡県、ワシントン州福岡県人会
- 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、姉妹都市関係者
- 開催規模 約50名(公邸行事のみ)
- 概要・効果

福岡県副知事ほかの県人会周年行事の機会を捉え、公邸にて現地コミュニティ関係者を招き、歓迎レセプションを開催。

福岡県人会110周年行事が開催されたほか、2019年に提携60周年を迎える北九州市-タコマ市の姉妹都市関係者などとの新たなネットワークの構築を支援し、姉妹関係を現地で印象付けた。



40 JUMP: JAPAN US MILITARY PROGRAM(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年9月10日
- 実施場所 二世退役軍人会(NVC)メモリアル・ホール
- 関係機関 笹川USA、二世退役軍人会、ワシントン州日米協会(JASSW)
- 訴求対象 日系コミュニティ、米軍当局者、有識者
- 開催規模 320名
- 概要・効果

笹川USAの資金協力の下、NVC(シアトル周辺に居住する元日系兵士たちの親睦会)とJASSWにより、我が国陸上自衛隊と米陸軍第1軍団を対象とした歓迎会を実施し、併せてコミュニティ関係者を招待して交流会を実施。

地域コミュニティと日米防衛当局者との交流を促進すると共に日米同盟の重要性を発信。



④1 NVCLレセプション(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年9月30日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 二世退役軍人会(NVC)
- 訴求対象 二世退役軍人会のメンバー、日系コミュニティ
- 開催規模 約70名
- 概要・効果

NVCメンバー、その家族、日系コミュニティ関係者を招待。なお、総領事公邸にNVCの一般会員全員を招待したのは今回が初めて。

第二次大戦時の経緯等もあり、長年にわたり難しい関係にあったNVCと我が国との和解を促進。



④2 AIイノベーションミートアップ行事(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年10月4日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 ワシントン州商務局、シアトル大都市圏IT・AI企業
- 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、IT関係者、メディア
- 開催規模 約110名
- 概要・効果

日本からAI関連のミッション団が現地を出張した機会を捉え、交流行事を開催。

2016年6月に署名された日本とワシントン州間の協力覚書に基づき、州商務局からも支援を受けており、同覚書の成果の一つとして挙げられるところ、次回会合も予定。

現地日系新聞(日・英)及びビジネス系メディアで幅広く取り上げられた。



43 国際農業者交流協会米国派遣農業者研修修了式 (シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年10月10日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 JAEC(公益社団法人国際農業者交流協会)、BCC(ビックバンドコミュニティカレッジ)
- 訴求対象 ワシントン州議員、州農務局、ホスト農家、地域コミュニティ
- 開催規模 約100名

■概要・効果

本年度で52年目を迎えた米国各地の農業研修を実施しているJAEC、ワシントン州の受入れ大学であるコミュニティカレッジと連携し、18か月にわたる米国内各地での研修の修了式を実施。

研修生の農業技術・知識の研修に加えて、受入大学、ホスト農家等関係者全員が異文化体験と相互理解を通じて日米友好関係促進に寄与。



44 熊本県-モンタナ州姉妹都市提携35周年関連行事 (シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年11月12日～16日(5日間)
 - 実施場所 モンタナ州の3都市
 - 関係機関 熊本県、モンタナ州政府
 - 訴求対象 モンタナ州知事、州議員、地域コミュニティ全般
 - 開催規模 35名(総領事館主催交流行事)他
- ### ■概要・効果

蒲島熊本県知事一行が、姉妹州/県関係35周年を記念しミズーラ市、ヘレナ市(州都)及びボーズマン市の3都市を訪問し、熊本地震からの復旧状況等について情報発信。

州政府と連携し、総領事館主催交流行事を開催したほか、州議事堂内での祝賀式典にて、ジュディ・ラビノヴィッチ名誉教授の平成29年度外務大臣表彰式を実施。



45 ワシントン州日本文化市民会館「文化の日」イベント (シアトル総領事館)

■実施時期 2017年11月12日
■実施場所 ワシントン州シアトル市
(ワシントン州日本文化市民会館)



■関係機関 総領事館、ワシントン州日本文化市民会館

■訴求対象 日系及びアジア系コミュニティの一般市民(子供を含む。)



■開催規模 子供連れを中心に約600名

■概要・効果

【概要】

ワシントン州日本文化市民会館は、百年以上の歴史を有する全米最古の日本語学校であるシアトル日本語学校の校舎が母体となり、日本文化の継承及び日系移民史の保存を目的に2003年に設立された非営利団体。日本文化紹介行事や数々の講演会や歴史保存プロジェクト等が行える施設としては、現地日系コミュニティの中で唯一最大。

「文化の日」イベントは、茶道、書道、太鼓、柔道、空手、紙芝居、着物展示、日本風カレー販売など、多彩な文化紹介を行った他、シアトルに戦前から存在した日本町に関する写真展示が行われた。

総領事館からは、ふろしきワークショップを行うとともに観光、留学、JETプログラム紹介の広報を行った。

【効果】

本イベントには、日系だけでなく、インド系や中国系など地元アジアコミュニティの一般市民が興味をもって参加するケースもあり、草の根レベルでの市民交流に大いに貢献している。総領事館ブースにも多くの来場者があり、70名の参加者が実際にふろしきの包み方を体験した。

46 宝塚歌劇団シアトル公演(シアトル総領事館)

■実施時期 2017年12月2、3日

■実施場所

ワシントン州

①ベルビュー市シアトル日本語補習校校舎
(サマミッシュ高校)

②シアトル市コーニッシュ・シアター



■関係機関

総領事館(後援名義)、

日本語補習校(シアトル日本商工会)、

コーニッシュ・シアター

■訴求対象

①日本語補習校生徒(小学4年以上)、父兄

②現地日系コミュニティ等一般参加者

■開催規模 約860名



■概要・効果

【概要】

1959年に宝塚歌劇団がシアトルを訪問し約3千人規模を動員し公演を行って以来、58年ぶりの宝塚団員OGによるパフォーマンス。コーニッシュ・シアター公演ではチケットは前売りで完売。冒頭、総領事が紹介され、総領事館からの後援名義や広報に対して謝意が表明された。

補習校では、社会授業の一環として、小学3年～高校3年までを対象に、補習校校舎の劇場を借りて子供にもなじみの深い「アナと雪の女王」といった楽曲も含めてパフォーマンスが披露された。

【効果】

会場には熱狂的な米国人ファンが東海岸を含む他州からも駆けつけるなど大変好評を博していた。補習校でのパフォーマンスには、日本人父兄が米国人配偶者を連れて鑑賞する姿が多く見られた。

女性のみにより編成される歌劇団は世界でも唯一であり、特にリベラルな米国西海岸では注目が高い。100年を超える歴史を有し、芸術や演劇を専攻する米国人学生からもポジティブな反応があった。

47 新年祝賀レセプション及び在外公館表彰（シアトル総領事館）

■実施時期 2018年1月19日

■実施場所 ワシントン州シアトル市
（総領事公邸）

■関係機関 日本総領事館

■訴求対象

州政府・地方都市政府関係者、米国及び
日系人会・県人会代表、シアトル日本商工
会会員、有識者、文化関係者等

■開催規模 約230名

■概要・効果

【概要】

州政府・地方政府関係者や日米関係に係る現地コミュニティ代表者を幅広く招待した総領事館主催の新年会を開催。総領事から、日ワシントン州間の長い交流の歴史に触れながら、ビジネスや文化交流での橋渡し、在留邦人の支援に取り組んでいく旨挨拶。

市議会関係者の他、現地日系人会や日本商工会会長の他、経済界、大学、文化関係者等の代表が参加。また、ワシントン大学ジャクソン国際学部の著名な教授（2名）の長年の功績に対する公館長表彰を授与。

【効果】

230名の出席を得て盛大に開催され、総領事館と現地日系コミュニティの関係強化を図るとともに、参加者同士のネットワーキングの場としても高い評価を受けた。

ワシントン大学では、若手日本研究者の減少を危ぶむ声も聞かれており、公館長表彰を通じて、ワシントン大学における日本研究の重要性を認知し、コミュニティの関心を高めることにつながった。



48 AIイノベーション・ミートアップ・イベント(シアトル総領事館)

■実施時期 2018年1月24日

■実施場所 ワシントン州シアトル市

■関係機関

総領事館、州政府商務局、
イノベーション・ファインダーズ・キャピタル

■訴求対象

米国スタートアップ企業、日系IT企業、
州政府政策担当者

■開催規模 約110名

■概要・効果

【概要】

日本のベンチャー・キャピタルであるIFCが、ワシントン州で米国と日本のIT企業を結びつけるミートアップ会合を2016年から開催しており、今回で7回目。総領事館からピッチイベント(AI技術の紹介)とネットワーク・レセプションを開催。冒頭、総領事が挨拶。

日本やシリコンバレーから約15社のIT関連企業の出席の他、現地スタートアップ企業14社が参加し、AI技術全般に関する熱心な議論が交わされた。

【効果】

本件は、2016年6月に署名された日本とワシントン州の協力覚書に基づくイベントとして、州政府の高い関心を引き寄せ、ボンレンダー商務長官等州政府高官が参加。州政府から、2018年5月に訪日ミッションを予定している旨発表。

ワシントン州からの投資・コンサルタント企業4社が参加し、将来的な日・ワシントン州間のビジネスに関する支援可能性について関心を高めることにつながった。

州内シアトル以外の地方の郡・都市の経済担当も参加し、今後IT分野でワシントン州内で日本企業との協力に関心を有する地域を拡大させることができた。



49 Holocaust Remembrance Day at the Museum of Flight (シアトル総領事館)

■実施時期 2018年1月27日

■実施場所 航空博物館

■関係機関

NVC(二世退役軍人会)、
Holocaust Center for Humanity、
ワシントン大学

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約330名

■概要・効果

同イベントは、国連が定める「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー (UN International Holocaust Remembrance Day)」の1月27日に実施。第2次世界大戦中、祖国ドイツ・オーストリアを追われ米国に亡命し、後に対独戦で活躍した主にユダヤ人青年で構成された部隊である「リッチーボーイズ」と、太平洋戦線で活躍した日系二世兵士で編成されたMIS (Military Intelligence Service、陸軍情報部)をテーマとした講演会・パネルディスカッション。

本イベントは、現地日系退役軍人会(NVC)とホロコーストセンターが、総領事館やワシントン大学教養学部民族研究学科等の協力を得て客年より実施している一連のプロジェクト「The Holocaust and Japanese American Connections」の4回目となるもの。本イベントにはこれまで延べ1,500人以上が参加しており、我が国や現地日系コミュニティーとユダヤ系コミュニティーの関係強化を図る上で極めて画期的なプロジェクト。イベントでは、総領事の出席が紹介された。



50 サイバーセキュリティに関する日米イスラエル協力セミナー (シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年2月8日
- 実施場所 ワシントン州シアトル市
(総領事公邸)

- 関係機関
総領事館、米国ユダヤ人協会(AJC)、
ワシントン州日米協会、国際交流基金、
日米センター(CGP)

- 訴求対象
米国IT関連企業、航空分野等サイバーセ
キュリティに関心を有する現地日系IT企業、
現地IT技術者等

- 開催規模 約80名

- 概要・効果

【概要】

AJCのアジア太平洋研究所と連携して、日米イスラエル間の協力をアピールすることを目的として、3国からサイバーセキュリティの専門家を招いたセミナーを開催。冒頭総領事による挨拶。

日米協会を通じて幅広く広報を行ったところ、関心ある米国企業代表、地元日系企業からも総合商社や三菱MRJ、双日など航空機分野に従事する企業等が参加。

2020年のオリンピック開催に向けて、日本が直面するサイバーセキュリティ上のリスク、シアトルのAIキャピタルとしての地位、イスラエルの先進的なサイバーセキュリティの状況を踏まえ興味深い対話を実施。

【効果】

参加したイスラエル専門家(在日イスラエル大使館商務官)から、安倍総理とネタニヤフ首相との会談への言及がなされ、日イスラエル間の協力について参加者の認識を高めた。

米国専門家からAIキャピタルとしてのシアトルの先進ぶりについて言及があり、シアトルでのビジネスチャンス日系企業にアピールすることができた。

米国におけるユダヤ系コミュニティを代表するAJCと連携を今後とも継続、強化していく方向が確認できた。



51 敬老ノースウエスト旧正月新年会(シアトル総領事館)

■実施時期 2018年2月9日

■実施場所 Westin Bellevue Hotel

■関係機関 敬老ノースウエスト

■訴求対象 日系・アジア系コミュニティー

■開催規模 約600名

■概要・効果

同団体は1975年、当時高齢化しつつあった日系一世のケアを目的に、「一世コンサーンズ」として発足した。しかしその後、ケアの対象が一世から二世、三世へと代替わりする中で、一世に限らない世代を越えた幅広いシニア



ケアを提供すべく「日系コンサーンズ」に改名、さらにケア対象を広くアジア系にも広げたことから、「敬老ノースウエスト」に名称変更された。現在、同団体では、ナーシングホームとリハビリ施設を兼ねた「シアトル敬老」の他、高齢者デイケアの「心会」、教養講座「日系ホライズン」、介護付き住宅「日系マナー」等を運営。さらに、最近では送迎サービスや在宅ケア等も始めるなど、新たなプログラムにも積極的に取り組んでいる。同団体の職員は約280名、ボランティア約300名を擁し、事務所は「シアトル敬老ナーシングホーム」内に置かれている。

本イベントは昨年から始まった同団体最大のファンドレイジングのイベントであるが、現地日系福祉団体である同団体に積極的に協力することで、現地日系・アジア系コミュニティーへの働きかけ・関係強化を図る上で極めて有益な成果が上がっている。

52 ワシントン州日本語教師会年次総会(シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年2月10日
- 実施場所 ワシントン州ボセル市ボセル高校
- 関係機関 ワシントン州日本語教師会
- 訴求対象 現地日本語教師
- 開催規模 約35名
- 概要・効果

ワシントン州の小学校、中学校、高校で日本語を教える教師らが集まり、情報交換すると共に、課題について話し合う。総領事が出席し、冒頭挨拶。特別講師を招き、日本語教育に関する講義を受ける。

教師らがパワポを用いて普段行っている日本語指導に関する発表を行う。

普段、こうして教師らが集まる機会は限られているため、参加者が情報交換できる有意義な機会となった。

総領事館にとっても、教育現場の現状を把握すると共に、ネットワークを広げる良い機会となった。

53 日本と米国の移民政策に関するセミナー(シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年2月20日
- 実施場所 ワシントン大学構内大会議室
- 関係機関 日米協会、ワシントン大学
- 訴求対象 ワシントン大学法曹関係者、
州判事・弁護士、米国人学生
- 開催規模 約60名

■概要・効果

昨今の移民問題につき日米の抱える課題を比較・検討。

総領事から移民の様々な影響について触れた冒頭挨拶を行い、米国法曹界関係者に対して効果的に情報発信。



54 JET帰国者歓迎レセプション(シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年2月16日
- 実施場所 ワシントン州シアトル市
(総領事公邸)
- 関係機関 日本総領事館、
JETAA(JET同窓会)



- 訴求対象
JETプログラム帰国者、JET卒業生、
日系人会、県人会、姉妹都市、教育関係者



- 開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

平成29年度のJETプログラム帰国者を対象に、現地在住のJET関係者(卒業生等)や県人会等日系コミュニティの代表を集めたレセプションを開催。冒頭総領事による挨拶。

JET卒業生の代表者から、帰国後のキャリアパスなどについて話してもらい、帰国者が米国で新たな生活を開始するための情報提供や適切な支援を得られるようなネットワーク作りの一助とするプログラムを盛り込んだ。

レセプション開催に合わせて、米国北西部地域のJETAAのメンバー用にピンバッジを作成し、配布した。

【効果】

帰国メンバー(8名)に対し、現地JET関係組織を紹介し、母国で所属すべき新しいコミュニティとの関わりを深める場を提供できた。

日米友好関係に顕著な功績のあるカレン・フレイザー元州上院議員の参加も得られ、JET卒業生からのユーモアを交えたプレゼンテーションもあり、会は盛り上がった。

県人会の中には、会員の高齢化による会の運営が困難になってきている組織もあるところ、JET関係者と県人会との橋渡し機会を提供することができた。

55 防災に関するシンポジウムの実施(シアトル総領事館)

■実施時期 2018年2月23日

■実施場所 ワシントン州シアトル市

■関係機関 シアトル総領事館、
ワシントン大学、東北大学

■訴求対象 ワシントン州政府、州内の郡、
シアトル市等の関係行政機関、
ワシントン大学、モンタナ大学、
太平洋岸北西部経済地域
(PNWER)等の関係機関、
マスコミ(シアトルタイムズ、
ノースウエスト公共ラジオ
(NWPR))等

■開催規模 約80名

■概要・効果

【概要】

シアトル総領事館がワシントン大学、東北大学と連携して開催。日本と同じ環太平洋火山帯に位置し、巨大地震発生の可能性が高く、防災に対する関心が高まっている現地において、日本から招聘した9名の専門家らによる講演を行い、東日本大震災等の経験等日本の防災に関する知見を共有。東北大学災害科学国際研究所、仙台市のほか、液状化被害を経験した浦安前市長、日本トイレ研究所代表も参加し講演を実施。夕方には公邸で関係者を招待してレセプションを実施。

【効果】

州政府から危機管理部門の責任者が参加したほか、太平洋等に面し、津波発生時に甚大な被害が予想される7つの郡、シアトル市、ワシントン大学など、行政機関、大学等から想定を上回る約80名の参加者を得て、我が国における防災分野での経験を共有することができた。災害時にトイレが機能しなくなることなど、実践的な防災対策についても話し合われた。



56 シアトル日系人会役員就任式及び昼食会(シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年2月24日
- 実施場所 ワシントン州シアトル市
- 関係機関 シアトル日系人会
- 訴求対象 日系コミュニティー関係者
- 開催規模 約60名

■概要・効果

同団体は、戦前のシアトル日本人会の流れを継承し1949年に発足。2007年まで、シアトル日本語学校(戦前から続く米本土最古(1901年創立)の日本語学校)を運営してきたが、役員の高齢化を理由

に、日系ヘリテージ協会(日本文化市民センター)に管理運営権を譲渡した(現在は日本語学校維持会の形で管理運営に関与している)。

本イベントは同団体の年次総会で毎年、総領事が出席し、挨拶を行っている。高齢化により会員数は減少しているものの、コミュニティーを代表する団体として現在でも幅広い尊敬を集めており、日系団体として現地で最も長い歴史を有する同団体との良好な関係の維持は、現地日系コミュニティーとの関係強化を図る上で極めて重要。



57 ひな祭りイベント(於:武庫川女子大学スポケーン分校)
(シアトル総領事館)

■実施時期 2018年3月6日

■実施場所 ワシントン州スポケーン市
武庫川女子大学スポケーン分校

■関係機関 武庫川女子大学スポケーン
分校

■訴求対象 地元の小学校、スポケーン
市教育関係者、スポケーン
西宮市姉妹都市関係者

■開催規模 約500名

■概要・効果

【概要】

1920年代後半に、親日家の宣教師・S. L. ギューリック博士の提唱によって日米親善を図るため始まった「人形交流」を受け継いで、16年前から武庫川女子大学スポケーン分校のひな祭りイベントで地元の小学校に日本人形を贈呈している。これを通して地元小学校との交流を図るだけでなく、姉妹都市関係者や市の教育関係者と交流し、スポケーンにおける日本のプレゼンスを高める。

イベントに参加予定のコンドン・スポケーン市長、西宮市・スポケーン市姉妹都市関係者、市内の在留邦人及び日系人と懇談の機会を設ける。

【効果】

約500名が参加する大規模行事となり、賑やかな会場で地元の小学校に日本人形が贈呈された。また、小学校の生徒が日本語を交えて歌を歌い、会場は大いに盛り上がった。

武庫川女子大の学生が紙芝居等を用いて人形交流の歴史を説明し、人形を通じた日米友好活動の存在を知ってもらう良い機会となった。

コンドン・スポケーン市長と面談し、スポケーンに関する情報収集を行うとともに、新たなネットワーク構築の機会となった。また、地元の在留邦人や日系人とも交流し、スポケーンにおける日本文化のプレゼンスについて状況を把握することができた。



58 ジャパンナイト(於:ジョンスタンフォード・インターナショナルスクール(シアトル総領事館))

- 実施時期 2018年3月9日
- 実施場所 ワシントン州シアトル市、
ジョンスタンフォード・インターナショナルスクール
- 関係機関 ジョンスタンフォード・インターナショナルスクール
- 訴求対象 学校関係者、市民
- 開催規模 約400名

■概要・効果

【概要】

昨年大好評だったアザラシ型ロボット・パロを総領事館のブースに展示し、参加者との交流を図った。

2020東京オリンピック・パラリンピック関連資料、日本観光促進関連パンフレットを配布し、日本PRに努めた。

【効果】

昨年に引き続き、アザラシ型ロボット・パロは参加者に大人気で、多くの参加者が総領事館のブースに立ち寄った。

ブースに立ち寄った多くの参加者が2020東京オリンピック・パラリンピック関連資料に関心を示しており、この機会に訪日を考えているとの声も寄せられた。

本校は、現地で、母国語とは異なる第2言語で通常科目の全て又は一部を指導する教育「イマージョン教育」を通じて日本プログラムを実施している数少ない公立学校であり、今回のイベントでは、本プログラムに魅力を感じ、将来本校に子供を入学させたいと考えている保護者も多く参加していた。日本に好印象を持つ保護者らと交流できたことは、新世代の親日家形成の観点からも効果的であった。



59 イマージョンキャンプ(シアトル総領事館)

■実施時期 2018年3月10日

■実施場所 ワシントン州シアトル市チーフセルス高校

■関係機関 総領事館、シアトル市及び近郊の高校、
ワシントン日本語教師会

■訴求対象 日本語を学ぶ現地の高校生

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

ワシントン州は日本研究・日本語教育が大変盛んな地域であり、多くの高校で日本語教育が実施されているが、近年は教育予算削減や多言語の躍進により日本語授業が削減される動きも見られる。また、英語からかけ離れた日本語は習得が困難であり、途中で習得を諦める学生も少なくない

ことから、当事業では生徒の日本語学習意欲を向上させるため日本語・日本文化(書道・茶道・太鼓・琴・剣道・和食・生け花等)に触れる機会を提供するとともに、参加者の保護者や教育関係者に日本語教育をアピールすることも目的としている。

【効果】

合計98名の日本語を学ぶ高校生が参加し、ワシントン日本語教師会メンバーの教師及びボランティアが発案したカリキュラムに基づいて、書道・茶道・太鼓・琴・剣道・和食・生け花等の日本文化を日本語で学ぶ機会を提供することができた。開催者らの様々な工夫により、全てのプログラムにおいて、生徒の関心を引くことができた。

昨年よりも参加校が増え、学生同士の交流促進につながった。

日本語教育を支援する教師、ボランティアらの結束を強め、引き続き現地での日本語教育を盛り上げていく意思を確認し合うことができた。



60 シアトル神戸ジャズオー디션(シアトル総領事館)

■実施時期 2018年3月19日

■実施場所 シアトル市Dimitriou's Jazz Alley

■関係機関 シアトル-神戸姉妹都市協会、ワシントン州兵庫県事務所等

■訴求対象 姉妹都市関係者、一般市民

■開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

2018年夏に神戸にて開催予定のジャズフェスティバルに参加するシアトル代表者をコンテスト形式で決定するオー디션。

高校生部門、成人部門の優勝者2名が5月12日に神戸市で開催される「第19回神戸新開地ジャズヴォーカルクィーンコンテスト」にゲストとして出演する権利が与えられる。



【効果】

ジャズ関係の一般参加者が多い中、総領事より開催挨拶を行い、日本・神戸とシアトルの関係の深さをアピールできた。

優勝者2名(上記写真参照)は、訪日を非常に楽しみにしている様子だった。

今後音楽を通じた日米交流を促進するにあたり、効果的イベントであった。

61 ホロコースト記念音楽コンサート(シアトル総領事館)

■実施時期 2018年3月25日

■実施場所 シアトル市内

■関係機関 ユダヤ人及び
日系人関係者

■訴求対象 現地有識者

■開催規模 約50名



■概要・効果

Music of Remembrance(現地NPO法人)主催によるユダヤ人ホロコースト追憶イベントと日系人強制収容記念イベントのタイアップした音楽コンサート。同イベントでは坂本龍一氏作曲のピアノ曲をバックグラウンド・ミュージックに総領事による詩朗読(永瀬清子氏作の反戦詩「降りつむ」)も行われ、好評を博した。

62 トモダチ・ガラ(シアトル総領事館)

- 実施時期 2018年3月31日
- 実施場所 シアトル市内
Hyatt Lake Washington
- 関係機関 ワシントン州日本文化市民会館
- 訴求対象 現地有識者及び日系コミュニティメンバー
- 開催規模 約450名



■概要・効果

日本文化の継承・普及を目的に2003年に設立された非営利団体・文化施設。事務所、会議室、武道館、図書館、骨董品店(宝石箱)、金継ぎの庭等からなり、コミュニティにより広く活用されている。また、同センターでは数々の歴史保存プロジェクトや多彩な日本文化紹介行事も行われている。

同イベントは同センター最大のファンドレイジングのイベントで本年で15回目。毎年、コミュニティへの功労者に対してトモダチ賞が贈られており、これまで故ダニエル・イノウエ上院議員、ノーマン・ミネタ元運輸長官等の著名人に加え、ボーイング社、任天堂、マリナーズ等の企業・文化団体が表彰を受けている。本年は藤崎一郎元駐米大使及びフィリス・キャンベルJPモーガン・チェイス・ノース・ウエスト会長が受賞。

政治家を始め現地有識者を招待することで、現地日系コミュニティの存在を知らしめるとともに、かかる有識者との更なる関係強化の機会としている。

63 ネブラスカビジネスセミナー・オマハ姉妹都市委員会年次総会での講演(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年4月20日
- 実施場所 ネブラスカ州オマハ市
- 関係機関 JETROシカゴ、ネブラスカ州政府、オマハ市
- 訴求対象 ネブラスカ州内ビジネス関係者、オマハ市民
- 開催規模 約250名(全行程あわせて)
- 概要・効果

【概要】

ネブラスカ州オマハ市を訪問し、ネブラスカ州内のビジネス関係者向けのビジネスセミナーで総領事が日米経済関係について講演を行った。また、リケッツ・ネブラスカ州知事と面会し、オマハ市姉妹都市協会年次総会(日本では静岡市が姉妹都市)に州知事とともに参加。日本とオマハの関係についてのスピーチを行った。



【効果】

ビジネスセミナーは、①今年9月に州知事が日米中西部会参加のため経済ミッションを引率して訪日すること、②2018年の第50回目の日米中西部会はオマハ市で開催されることを背景に、日本との関係に特化してネブラスカ州側で企画されたもの。同州の日本企業からの直接投資、日本との貿易促進についての関心の高さがうかがわれた。

リケッツ州知事は日本を同州にとっての重要な経済パートナーとして認識しており、姉妹都市協会年次総会は静岡市を含むオハマ市と姉妹都市提携を結ぶ6ヶ国6都市の関係者が参加している中、リケッツ州知事のスピーチでは日本とネブラスカの経済関係の強さと9月に経済ミッションを引き連れて訪日することが紹介された。また州知事が日本人留学生による茶道のデモンストレーションに参加して抹茶を楽しみながら学生と懇談する一面もあり、人の交流、文化交流の側面でも良い機会となった。

64 シカゴ日本祭(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年6月3日～4日(2日間)
- 実施場所 イリノイ州アーリントン・ハイツ市
- 関係機関 シカゴ日本祭共同実行委員会
(日米評議会、シカゴ日本人会、
シカゴ日本商工会議所等)
- 訴求対象 日本・日本文化に関心を有する
シカゴ圏の地域住民
- 開催規模 約4,200名



■概要・効果

【概要】

シカゴ近郊における最大の日本祭。
オープニングセレモニーにおける総領事の
挨拶及び日本人ジャズピアニスト大江千里
(NY在住)による演奏。総領事館ブースの
出展。



様々なデモンストレーション(茶道、華道、
和太鼓、日本舞踊、琴、柔道、空手、合気道
等)、ワークショップ(書道、折り紙等)、展示
(盆栽、日本刀等)、着物の着付け、鎧・兜の
試着体験、コスプレ・コンテスト等を通じて日
本及び日本文化を地域住民に幅広く紹介。



【効果】

来場した多数の地域住民に対して、伝統
文化から現代のポップカルチャーに至るまで幅広く日本文化を紹介する
ことにより、同地域における対日理解の促進と親日感の醸成に貢献した。

日本祭の企画、運営、実施を通じて、現地の日本関連諸団体や地元企
業、地域コミュニティを含めた日米交流のネットワーク強化に繋がった。

総領事の挨拶及び総領事館ブースを通じて、日本政府のコミットメント
とプレゼンスを示すとともに、日本とシカゴ圏・イリノイ州との友好関係を
効果的にアピール。

65 武井外務大臣政務官による日本酒・焼酎の普及促進 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年7月24日
- 実施場所 シカゴ総領事公邸
- 関係機関 JETROシカゴ、日本シカゴ商工会議所等
- 訴求対象 一般市民(特に共和党支持者)
- 開催規模 約50名
- 概要・効果

【概要】

武井外務大臣政務官(当時)のシカゴ訪問の機会を捉え、シカゴ市関係者、日系食品業者、有識者、現地日米協会、日本商工会議所、日系人団体関係者等、ゲスト約50名を公邸に招き日本酒及び焼酎のPRを行ったもの。日本酒を扱う現地卸会社3社が出展し各社2種類、計6種類の日本酒が提供された。また、宮崎県の焼酎である黒霧島4本も提供された。

提供業者と提供された酒

TENZING :天と地(新潟県)、一ノ蔵(宮城県)と栗黒ビール(宮崎県)

Vine Connection :李白(島根県)と坤滴(京都府)

Kobrand Wine&Spirits :万流(山形県)と七本槍(滋賀県)

【効果】

出席者からは、「政府が主体となって日本酒のプロモーションを行うイベントは現地の日本酒普及に非常に有益。このような機会は大いに歓迎する」、「焼酎は初めて試飲したが、とても気に入った。今後日本酒と共に注目していきたい」などの感想が寄せられた。また、日本食の提供も好評であった。

本イベントでは、武井政務官から日本酒と焼酎のPRを直接行ったことから、日本政府として日本酒・焼酎の普及促進活動を行っていることを、食料産業関係者のみならず、幅広い分野の関係者に周知する効果もあり、ゲストの関心を集めた。



66 アンダーソン日本庭園夏祭り(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年8月19日～20日(2日間)
- 実施場所 イリノイ州ロックフォード市
- 関係機関 アンダーソン日本庭園
- 訴求対象 日本・日本文化に関心を有するイリノイ州西部及び近郊の地域住民
- 開催規模 約2千名
- 概要・効果

【概要】

アンダーソン日本庭園夏祭りは北米屈指の日本庭園で行われる日本祭。

オープニングセレモニーにおいて総領事が挨拶。会場に総領事館広報ブースを設置し、国際交流基金所有の鎧兜の試着体験を行うとともに、各種広報資料や観光パンフレットを配布し、日本紹介を実施。

【効果】

本年6回目を迎えた夏祭りには、天候にも恵まれ、初日から多数の地域住民が来場。多数の人々が総領事館の日本紹介ブースを訪れ、鎧甲を鑑賞・撮影するとともに、パンフレットを手にとり説明を求める等、普段日本と関わりが少ない一般市民に直接日本を紹介する良い機会となった。

イリノイ州ロックフォード市はシカゴ市内から車で約2時間半の距離に位置しており、近隣住人は日頃から日本との接点があるとは言いがたいが、日本語教育を行う地元高校もあり、また、総領事館管轄内有数の日本語教育実施校であるウィスコンシン大学マディソン校からもアクセスが容易な場所に位置しており、対日理解促進の潜在的可能性がある。

本件夏祭りを通じて日本の魅力と日本文化を積極的に発信することにより、日本語学習者に対する啓発及び近隣住民の対日理解促進を図ることができた。



67 米国連邦下院議員と同議員選挙区内への進出日本企業との意見交換(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年8月21日
- 実施場所 在シカゴ総領事公邸
- 関係機関 日本シカゴ商工会議所、JETROシカゴ
- 訴求対象 クリシュナムルティ連邦下院議員
- 開催規模 15名



■概要・効果

【概要】

クリシュナムルティ(Raja Krishnamoorthi)連邦下院議員(民;イリノイ州8区)を公邸に招き、シカゴ日本商工会(JCCC)や同議員の選挙区内に進出する日系企業関係者(12社)との意見交換会を実施。

同議員の選挙区であるシカゴ市郊外の地域(シカゴ空港付近)は、交通の利便性を理由に、多数の日系企業事業所が存在し、米国連邦下院議員の選挙区としては、最多の日系企業事業所数及び雇用者数を誇る。

同議員と日本企業関係者間で、現地での事業内容、ビジネス環境、今後の地域コミュニティと企業の関係のあり方等について、昼食を交わしながら議論し、お互いの交流を深めた。

【効果】

長年シカゴに在住するJCCC関係者から「連邦議員と日本企業の意見交換の場はこれまでほとんどなく、非常に有意義な会合であった。機会を設けていただき大変感謝している」との感想が述べられた。

クリシュナムルティ議員からは「この意見交換の機会を皮切りに、選挙区内の日本企業との交流を深め、日本企業の事業展開に適したビジネス環境の構築に努めていきたい。」とのコメントが寄せられた。

68 第41回セントルイス日本祭(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年9月2日～4日(3日間)
- 実施場所 ミズーリ州セントルイス市
- 関係機関 セントルイス日米協会、諏訪セントルイス姉妹都市協会、セントルイス日本人会、日系米国人市民同盟セントルイス支部等
- 訴求対象 日本・日本文化に関心を有するミズーリ州近隣の地域住民
- 開催規模 約3万8千名以上
- 概要・効果

【概要】

セントルイス日本祭は1977年以来続く米国中西部最大の日本祭。前日にパフォーマー、日本人・日系人団体、日系企業の代表者等を集めたレセプションを開催。オープニングセレモニーにおいて総領事が挨拶。

様々なデモンストレーション(和太鼓、盆踊り、エイサー、神輿、飴細工、氷細工等)、ワークショップ(茶道、樂焼き、書道、折り紙、紙芝居、合気道、柔道、空手、剣道等)、展示(生け花、鯉のぼり、灯籠流し等)を通じて日本及び日本文化を地域住民に幅広く紹介。

【効果】

ミズーリ州のみならず、近隣州から来場した何万人もの地域住民に対し、各種のデモンストレーション、ワークショップ、展示等を通じて日本及び日本文化を紹介し、米国中西部におけるグラスルーツでの対日理解促進に大きく貢献。

日本祭の開催を通じて現地の日本関連諸団体を含めた日米交流のネットワーク強化を図ることができた。総領事の挨拶及び前日のレセプション主催を通じて米国中西部に対する日本政府のコミットメントとプレゼンスを示すとともに、日本とミズーリ州との友好関係を効果的にアピール。



69 地方キャラバン イリノイ州ピオリア市(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年9月18日
- 実施場所 イリノイ州ピオリア市
- 関係機関 ピオリア市、ピオリア経済開発公社、ピオリア商工会議所、ピオリア市進出の日系企業
- 訴求対象 州・連邦政府関係者、ピオリア地域ビジネス関係者、教育関係者
- 開催規模 約50名(全行程あわせて)
- 概要・効果

【概要】

ピオリア市及び周辺地域のビジネス関係者と共に、ピオリア市に進出する日系企業であるPMP Fermentation Products Inc(扶桑化学工業)及びコマツ・アメリカの工場を視察。その後、昼食をはさみ、ピオリア地域における日系企業の貢献、日本とイリノイ州及びピオリア地域の更なる経済関係促進機会について関係者がプレゼンテーションを行った。セミナー後は、イベント参加者のネットワーキングのためのレセプション及び夕食会を行った。

【効果】

今回「地方キャラバン」の第1回目として、ピオリア市長をはじめ、ピオリア圏の地域関係者から多大な支援を受け、本イベントを成功裡に開催することができた。経済セミナーでは州議会議員、連邦議員補佐官、ピオリア地域の経済・高等教育関係者が集まり、日系企業の活動について理解を深めてもらうとともに、日ピオリアの強固な経済関係を発信することができた。

当日は地元メディアより総領事に対しラジオ及びテレビインタビューが行われたほか、地元のラジオ局(WMBD)の朝の番組(クレイグ・アンド・ダン・ショウ)に生出演し、日本とピオリア地域の経済関係等について説明した。インタビュー及びイベントの様子はピオリア市の公共ラジオ放送や地元紙で報じられた。



70 シカゴ・グルメの機会における和食・日本酒紹介事業 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年9月22日～24日(3日間)
- 実施場所 イリノイ州シカゴ市
- 関係機関 東京都、JETRO等
- 訴求対象 飲食関係者(レストラン・ホテル・卸売り業界関係者、フード・コメンテーター等)、メディア関係者(フード記者、トラベル・ライター等)
- 開催規模 約1万1千名
- 概要・効果

【概要】

10周年を迎えるシカゴ圏最大の食のイベント「シカゴ・グルメ」に本邦から料理研究家である柳原尚之(平成27年度文化交流使)を招き、パネル・ディスカッション、和食レクチャー・デモンストレーション、ラジオ出演等を通じて和食と日本酒の魅力を発信。シカゴ中心部の野外音楽堂のメイン・ステージにて柳原氏ほか日本人シェフ等5名によるジャパニーズ・ディナーを実施。

パネル・ディスカッション及びジャパニーズ・ディナーにおいて総領事が挨拶。総領事館も東京都等とともにシカゴ・グルメ会場に日本ブースを設置し、和食・日本酒及び観光地としての日本の魅力につき広報。

【効果】

シカゴ圏の飲食関係者が一堂に集う本イベントにおいて和食・日本酒の魅力を発信することにより、現地レストラン等において、和食及び和食材を使用した料理や日本酒を提供するための機運を高めることに貢献。

和食専門家等によるパネル・ディスカッションやレクチャー、日本ブースでの情報発信を通じて、和食及び日本酒に対する関係者の理解促進に寄与。

総領事の挨拶及び日本ブースを通じた広報により、和食及び日本酒のプロモーションに対する日本政府のコミットメントとプレゼンスを示した。60



71 第20回大カンザスシティ日本祭(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年10月7日
- 実施場所 カンザス州オーバーランド・パーク市
- 関係機関 米国中部日米協会、ジョンソン郡コミュニティ・カレッジ
- 訴求対象 日本・日本文化に関心を有する大カンザスシティ圏(カンザス州とミズーリ州の境界周辺)の地域住民
- 開催規模 約5千名
- 概要・効果

【概要】

旧カンザスシティ総の呼び掛けで始まった米国中部最大の日本祭。

オープニングセレモニーにおいて総領事が挨拶。

様々なデモンストレーション(和太鼓、琴、三味線、日本舞踊、エイサー、飴細工等)、ワークショップ(日本語、折り紙、書道、合気道、剣道等)、レクチャー(茶道、着物、日本庭園等)、展示(生け花、盆栽、鳥居等)を通じて日本及び日本文化を地域住民に幅広く紹介。

【効果】

米国中部の近隣州から来場した多数の地域住民に対して、和太鼓等のパフォーマンスのみならず、大小の教室を利用した各種ワークショップやレクチャーを通じて日本に関する知識を体験として身に着ける複合的な機会を提供。

米国中部におけるグラスルーツでの対日理解促進に大きく貢献するとともに、現地の日本関連諸団体や地元企業を含めた日米交流のネットワーク強化にもつながった。総領事の挨拶を通じて米国中部に対する日本政府のコミットメントとプレゼンスを示すとともに、日本と米国中部との友好関係を効果的にアピール。



72 ネブラスカ州知事主催政治集会「Steak Fry」(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年10月8日
- 実施場所 ネブラスカ州シェルトン市内農場 (PG Farms)
- 関係機関 ネブラスカ州政府
- 訴求対象 一般市民(特に共和党支持者)
- 開催規模 約1,300名
- 概要・効果

【概要】

リケッツ・ネブラスカ州知事(共)の政治集会に総領事がリケッツ州知事からの招待で参加。同州農業及び畜産業の振興をテーマとして、会場となった農場では、参加者にステーキが提供された。

一般参加の野外レセプションでは、リケッツ知事及び共和党所属の3知事(ウィスコンシン州、ミズーリ州及びケンタッキー州)が登壇し、再選支持を訴えるスピーチを行った(アイオワ州知事も出席予定であったが、急遽欠席)。リケッツ知事及びウィスコンシン州知事によるスピーチでは、州経済関係の文脈で、日本との経済関係の重要性ならびに中西部会参加に伴う訪日貿易ミッションへの言及と、総領事による本行事出席が紹介された。

【効果】

ネブラスカ州及び中西部における日系企業の貢献や対日経済関係の重要性について、一般参加者及び同州政治家が多く集まる場での知事スピーチに取り上げられたことで、対日理解促進及び対日関心層拡大の機会となった。また、スピーチ内で総領事の本行事出席が言及され、レセプションにて一般市民を含む同州関係者との交流を行ったことは、日米協会等の団体が存在しない地方における日本のプレゼンス向上につながった。



73 地方キャラバン インディアナ州コロンバス市(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年10月24日
- 実施場所 インディアナ州コロンバス市
- 関係機関 JETROシカゴ、コロンバス市、コロンバス市進出の日系企業
- 訴求対象 コロンバス市内ビジネス関係者、コロンバス市民
- 開催規模 約20名(全行程あわせて)
- 概要・効果

【概要】

コロンバス市に進出する日系企業であるTOYOTA Industrial Equipmentの工場を視察。その後地元メディアを集めて総領事が市長と日本とコロンバスの関係について対談を行いその模様は翌日記事になり報じられた。会談後、市内の日本食レストランにてコロンバス市内のビジネス関係者間で意見交換を行った。

【効果】

インディアナ州でのキャラバンをペンス副大統領の地元であるコロンバス市から開始できたことは、今後引き続き同様のイベントを企画・実施する上でも大きな成果。

市長をはじめ参加者からは、本イベントは、地域の経済関係者が一堂に会するよい機会となり地域内での日本企業・関係者との交流関係促進という観点でも大変有意義なものであったという感想が寄せられた。市長は2年の在任中初めて外国政府関係者と招いたとのことであった。

総領事と市長の会談についてのメディアによる報道が行われたことに加え、本イベントについては州都インディアナポリスのメディアでも紹介され、コロンバス市内を越え、州内に報道されたことは有益であった。



74 地方キャラバン イリノイ州ロシェル市(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年11月10日
- 実施場所 イリノイ州ロシェル市
- 関係機関 JETROシカゴ、ロシェル市、イリノイ州政府
- 訴求対象 ロシェル市内ビジネス関係者、ロシェル市民
- 開催規模 35名(全行程あわせて)
- 概要・効果

【概要】

ヘリコプターにて上空から市内のインフラや産業施設の集積度を俯瞰した。その後ロシェル市内の米国企業であるSilgan.inc(加工食品用金属缶製造)、Mighty Vine(トマトの温室水耕栽培)を視察した。市内のホテルにて昼食をかねてロシェル市内のビジネス関係者間で意見交換を行った。ロシェル市が運営する施設「テクノロジーセンター」を視察後、市庁舎にて、地元メディアによる記者会見を行った。

【効果】

イリノイ州ではピオリア市に続く2カ所目の開催。イリノイ州政府と協力してイベントを開催できたのは一つの成果。州政府と一体になって取り組んだことで、ロシェル市側にとってもプロモーション効果の広がり観点で非常にメリットがある。

州政府や市政府の招待により、日本企業のみならず、日本企業とビジネスを行っている現地の米国企業も多数参加。このような企業を総領事館で把握することは困難であり、州政府や市政府と協力することで可能になったネットワーキングであった。当日は祝日にもかかわらず多くの参加者が集まり、同地域の日本企業に対する期待感の高さを示すものであった。



75 地方キャラバン ミズーリ州セントルイス市他(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年11月17日～20日
- 実施場所 ミズーリ州セントルイス市、ジェファーソンシティ市、コロンビア市
- 関係機関 ミズーリ州政府、コロンビア市、ミズーリ大学、セントルイス大学
- 訴求対象 セントルイス大学
- 開催規模 約60名(全行程あわせて)
- 概要・効果

【概要】

ミズーリ州セントルイス市、セントチャールズ市(注)、ブリッジトン市、コロンバス市、ジェファーソンシティ市を訪問。日系企業の訪問としてセントチャールズ市ではNovus International(飼料添加物生産)、ブリッジトン市ではZoltek Corporation(炭素繊維生産)を視察した。セントルイス市ではセントルイス大学で外交を学ぶ学生に対し総領事が日米関係について講演した。

コロンバス市では市長と面会し、日・ミズーリ関係について説明。ミズーリ州立大学を訪問し、国際交流関係者と意見交換を行った。グライテンズ・ミズーリ州知事との面会を行い、視察した日系企業や大学での意見交換の内容を含め、日・ミズーリ関係について意見交換。

(注)セントチャールズ市には、11月29日にトランプ大統領が訪問し共和党提案の税制について講演。

【効果】

セントルイス大学での講演では、講演後の質疑応答も活発に行われ、受講者の日米関係への理解が深まりに寄与。

ミズーリ州知事やコロンビア市長は、対日関係について非常に好意的であった。

ミズーリ州は長野県との姉妹交流関係にあり、2018年4月に開校予定の長野県立大学はミズーリ州立大学と留学プログラム等で提携することになっており、今後同地域での新たな対日関係の構築に期待。



76 地方キャラバン イリノイ州エフイングハム市マウント・バーノン市 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年11月28日、29日
- 実施場所 イリノイ州エフイングハム市及びマウント・バーノン市
- 関係機関 エフイングハム市及び同市地域振興協会、ジェファーソン郡経済開発公社、マウント・バーノン市、州政府、州南部進出の日系企業、JETROシカゴ
- 訴求対象 州・連邦政府関係者、州南部地域のビジネス関係者及び教育機関
- 開催規模 約100名(全行程あわせて)
- 概要・効果



【概要】

28日、地元関係者とともにワウパカ社(日立金属子会社)を視察。その後、市長及び地域振興協会のメンバーを交えた夕食会を行った。29日、州政府関係者及び地元関係者とともに日系企業と強い関わりのある地元企業2社及びアイシンの工場を視察。途中、Rend Lake Collegelにて労働力と教育についてオープン・ディスカッションを行った。当日はラウナー・イリノイ州知事が参加し、日本とイリノイ州の更なる関係強化を促した。夕刻、地元の美術館でイベント参加者とのネットワーキングのためのレセプション及び夕食会を行った。

【効果】

今回はジェファーソン郡経済開発公社を始めとする関係機関の協力の下、州南部で初めてキャラバンを開催した。トランプ支持者の多いジェファーソン郡(得票率は70%)にて州・連邦政府関係者、州南部地域のビジネス関係者に地元の日系企業の活躍及び地域との良好な関係について理解を深めてもらうとともに、地元の方々との関係構築ができた。当日は地元メディアより総領事及び知事へのテレビインタビューも行われ、地元紙等で大きく報じられた。地方キャラバンについては州政府にも取組の趣旨を説明した結果、前回のロシェルでの開催よりイリノイ州政府の協力も得ていたところ、この度ラウナー州知事参加に至った。州側が「グラスルーツ・キャラバン」という言葉を用いて、日本の取組を発信していることの影響は大変大きい。

77 草の根地方キャラバン インディアナ州エバンズビル市他 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年12月11日～12日
- 実施場所 インディアナ州エバンズビル市・プリンストン市
- 関係機関 エバンズビル市、プリンストン市、南西インディアナ経済開発公社、JETROシカゴ、経済産業省
- 訴求対象 州・連邦政府関係者、教育関係者、地域ビジネス関係者等
- 開催規模 約60名(全行程あわせて)



■ 概要・効果 【概要】

11日、エバンズビル市長、トヨタ自動車インディアナ(TMMI)社長をはじめ、現地のビジネス関係者7名と夕食を交えた意見交換を行った。12日早朝、エバンズビル市内に建設中の医療研究施設を視察。プリンストン市に移動し、TMMIにおいて、現地のビジネス関係者と共に同工場の視察を行い、工場視察に引き続き、TMMI内の会議室にて昼食を交えたビジネスセミナーを行った。セミナー後には、地元メディア(テレビ2社、ラジオ1社)による総領事へのインタビューが行われた。

プリンストン市庁舎付近の施設にて、プリンストン市職員、プリンストン内の高校の教師・生徒等とのネットワーキングイベントを行った。

【効果】

エバンズビル市を中心とする南西インディアナは、トヨタのプレゼンスが大きいということに留まらず、インディアナ州としても経済開発の重点地域に指定しており、今後更なる発展が期待される地域。同地域と日本との関係の中心であるTMMIに関係者が集い、工場を視察しビジネスセミナーを実施できたことは、まさに日本企業の地域経済貢献への地元での理解を深めるという目的から考えても非常に有益であった。ビジネスセミナーの参加者全員で工場を視察したことで、プレゼンテーションにも説得力が増し、日本企業が果たしている大きな役割への理解向上に資するものであった。

78 米国連邦下院議員と同議員選挙区内への進出日本企業との意見交換(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年2月1日
- 実施場所 在シカゴ総領事公邸
- 関係機関 日本シカゴ商工会議所
- 訴求対象 シュナイダー連邦下院議員
- 開催規模 11名



■概要・効果

【概要】

シュナイダー(Brad Schneider)連邦下院議員(民;イリノイ州10区)を公邸に招き、シカゴ日本商工会(JCCC)や同議員の選挙区内に進出する日系企業関係者(5社)との意見交換会を実施。

同議員の選挙区であるシカゴ市郊外の地域(シカゴ空港付近)は、交通の利便性を理由に、多数(60事業所、8,200名の雇用)の日系企業事業所が存在する。また、米国製薬企業の研究開発拠点も多く、日本企業も武田製薬、アステラス製薬が米国本社を置いている。

同議員と日本企業関係者間で、現地での事業内容、ビジネス環境、今後の地域コミュニティと企業の関係のあり方等について、昼食を交わしながら議論し、お互いの交流を深めた。

【効果】

参加した各日本企業から、連邦議員と日本企業の意見交換の場はこれまでほとんどなく非常に有意義な会合であった、機会を設けていただき大変感謝している旨のコメントがあった。アステラス製薬からはワシントンDCの政府渉外担当者が参加するなど、日本企業からのこのような機会のニーズは高いと感じられた。

79 講師派遣事業「日本経済及び日米経済関係」 (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年2月6日及び7日

■実施場所 イリノイ州シカゴ市

- ①シカゴ大学
- ②ユニオンリーグ・クラブ・シカゴ
- ③公邸

■関係機関

- ①シカゴ大学ハリス公共政策大学院
- ②シカゴ日米協会 ③シカゴ日系コミュニティ関係団体

■訴求対象

- ①シカゴ大学学生及び教授 ②シカゴ日米協会会員 ③シカゴ日系コミュニティ

■開催規模 ①、②、③ともに約40名

■概要・効果

【概要】

シカゴ大学、シカゴ日米協会及び公邸にて、「日本経済—順調な回復、課題、対外経済政策、対米関係—」をテーマとした講演会を実施。

シカゴ大学ではハリス公共政策大学院と共催により実施。冒頭、同大学経済学部にも所属する吉田孝太郎教授よりご挨拶いただいた。

シカゴ日米協会では、冒頭、浦田先生による講演が行われた後、ネットワーキング構築のためのレセプションが行われた。

公邸では、冒頭、浦田先生による講演が行われた後、日系コミュニティが直面する諸問題に関するパネルディスカッションが行われた。

【効果】

日本経済及び日米経済関係につき、学生、ビジネス関係者、日系人コミュニティなど幅広い層の理解促進に役立つ機会となった。参加者より、日中のビジネス関係や一帯一路構想について質問が出るとともに、「日本の対内投資が少ない要因について考える契機となった。」や「日本が発展する上でのFTAの重要性が分かった。」との声が寄せられた。



①シカゴ大学での講演



②シカゴ日米協会での講演

80 草の根地方キャラバン インディアナ州フォートウェーン市 (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年2月15日及び16日

■実施場所 インディアナ州
フォートウェーン市

■関係機関
フォートウェーン市、
北東インディアナ経済開発公社、州政府、
北東地域進出の日系企業、
国際姉妹都市委員会、教育関係者、
JETROシカゴ

■訴求対象 州・連邦政府関係者、
北東部地域住民、ビジネス・教育関係者

■開催規模 約80名（全行程あわせて）

■概要・効果

【概要】

15日、地元インディアナ大学・パデュ大学・フォートウェーン校を訪問し、大学関係者と意見交換を行った。その後、市長及び地域振興協会のメンバーを交えた夕食会を行った。

16日、地元関係者とともに日系企業Oji Intertech社（王子製紙子会社）及び京セラ SGS Precision Tool社を視察。その後昼食を兼ねたセミナー（「北東インディアナ・日本サミット」）を行った。当日はシェリンガー・インディアナ州商務長官が参加し、日本とインディアナ州の更なる関係強化を促した。

【効果】

今回は北東インディアナ経済開発公社を始めとする関係機関の多大な協力の下、州北東部で初めてキャラバンを開催した。州・連邦政府関係者、フォートウェーン市を含む州北東地域のビジネス関係者に地元の日系企業の活躍及び地域コミュニティとの良好な関係について理解を深めてもらうとともに、地元の方々との関係構築ができた。

当日は地元メディアより総領事へのインタビューも行われ、地元紙4社で会合の様子が大きく取り上げられた。



81 講師派遣事業「日米関係と日米安全保障体制」 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年2月28日
- 実施場所 ウィスコンシン州
ミルウォーキー市
- 関係機関 マルケット大学
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約200名
- 概要・効果



【概要】
地元名物政治ジャーナリストとの対談形式で、公開動画放送の機会に久保文明東京教授法学部教授による、安全保障体制を中心とした日米関係の講演会を実施。来場者の職業は公務員、サービス業、教員、その他元製造業、医療関係者、社会福祉関係者、弁護士等幅広い層であった。

【効果】
地元名物政治ジャーナリストとの対談形式、公開動画放送という媒体で実施したことにより、幅広い層への情報発信・理解促進の機会となった。また、講演終了後、講師へ質問するために多くの来場者が集まるなど、参加者の関心の高さがうかがわれた。

会場において、「このような機会をまた設けて欲しい。」「日米関係への理解が深まった」等の好意的な声が聞かれたとともに、アンケートでは、「日本が常識があり協力的なパートナーである認識を再確認した。」等の声が寄せられた。

82 講師派遣事業「日米関係と日米安全保障体制」 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年3月1日
- 実施場所 アイオワ州デモイン市
- 関係機関 ドレーク大学
- 訴求対象 学生、一般市民
- 開催規模 約110名



■概要・効果

【概要】

ドレーク大学ジャーナリズム及び政治学部と共催で久保文明東京教授法学部教授による「An Unparalleled Partnership; the US-Japan Relations in an Uncertain World」との標題での講演会を実施。また、講演前に政治学部の学生有志と懇談の場を持つとともに、地元紙の論説委員から取材がなされた。



出席者は学部生が多く、アイオワ州の小都市・農村地出身者も含む中西部出身者であり、ほとんどが日本との接点のない学生であった。

【効果】

日本との接点がない学生が多かった分、日本からのハイレベルな講師派遣に対する反響は大きく、日米同盟体制への理解を浸透させることができた。

参加者からは「日米同盟の形態を初めて理解した。」「ドレーク大学でこのような高いレベルの講師の講演を聴講できて幸運である。」「日本の視点を聞ける稀な機会であり、再度同様の機会があればぜひ参加したい。」との声が寄せられた。

83 講師派遣事業「日米関係と日米安全保障体制」 (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年3月2日

■実施場所 イリノイ州シカゴ市

■関係機関

①シカゴ大学ハリス公共政策大学院

②シカゴ・グローバル評議会

■訴求対象

①学生 ②一般市民

■開催規模 ①約40名 ②22名

■概要・効果



【概要】

シカゴ大学では、ハリス公共政策大学院の大学院生及び東アジア研究所を対象に、久保文明東京教授法学部教授による「An Unparalleled Partnership: US-Japan Relations in an Uncertain World/ in an Era of New Challenges」という標題の講演会を実施。参加者の中にはアジア系や日本人の学生も含まれた。

シカゴ・グローバル評議会では、ラウンドテーブル形式で同シンクタンクの上級メンバーやフェロー(含む厚木基地での勤務経験があり、国防長官室勤務が予定されている海軍中佐)等が出席し、日米関係及び日米同盟の重要性について議論が行われた。

【効果】

優秀な学生及び研究者が集まるシカゴ大学で実施したことにより、今後政策分野に進出していく多様な学生や東アジア研究所担当者へ訴求することができた。

また、シカゴ・グローバル評議会においては、知識層を中心とした参加者と密度の高い議論が行われ、その内容が政策決定に反映されていくことが期待できる。

84 草の根地方キャラバン インディアナ州ピーターズバーグ市他 (シカゴ総領事館)

■実施時期 2018年3月18日～20日

■実施場所 インディアナ州ピーターズバーグ市
・フレンチリック市・ワシントン市

■関係機関 州政府関係者、ピーターズバーグ市、
ワシントン市、地元企業関係者、
インディアナ州南部経済開発団体、
JETROシカゴ



■訴求対象 州・連邦政府関係者、議会関係者、
地域行政関係者、地域住民

■開催規模 130名 (全行程あわせて)



■概要・効果

【概要】

18日、ピーターズバーグ市長及び現地のビジネス関係者と意見交換。

19日、同市内で日立建機の機械を利用した露天掘り炭鉱及びインディアナポリス市とエバンスビル市を結ぶ予定の高速道路(I-69)周辺の開発予定地を視察。また、I-69開通に伴い再開発を進めるRadius地域と呼ばれるインディアナ州南部8郡の行政関係者、議会関係者等に対しセミナー(「Radius-Japan 対話」)を行うとともに、意見交換を行った。

20日、ワシントン市において、M&C Tech社(森六ケミカルズ及び中部化学の子会社)の開所式に出席し挨拶を述べるとともに、州知事と同工場を視察。

【効果】

I-69の建設が進む中、Radius地域等の沿線自治体関係者等を対象にセミナーを開催したことは、日系企業誘致への関心を高めるよい機会となった。また、実際にI-69沿いに投資を行ったM&C Tech社の開所式に出席し、州知事等の来賓に、日本と同州及び同地域の関係の重要性及び日本企業の地域経済貢献への理解を深めることができ非常に有益であった。 74

85 ネブラスカ州スコッツブラフ市の日系人コミュニティ訪問 (シカゴ総領事館)

- 実施時期 2018年3月24日～26日
- 実施場所 ネブラスカ州スコッツブラフ市、
リンカーン市
- 関係機関 スコッツブラフ市、
日系コミュニティ関係者
- 訴求対象 日系コミュニティ、地域行政関係者、
地域住民
- 開催規模 300名（全行程あわせて）



■概要・効果

【概要】

1900年代初頭以降日本人が入植し、日系人コミュニティが所在するスコッツブラフを訪問。最盛期には約800名が暮らしていたが、現在、同地の日系人数は相当減少している。しかし、今回のイベントに合わせて同地にルーツをもつ日系人らが全米から参集し、200名以上が参加する昼食会を実施。また、会場となったLegacy of Plains Museumでは、日系移民の展示も同時に行われ、日系人らが1920年代に建てた「日本ハウス」を移築する計画が、その場で公表された。（日系移民の展示については、本年9月の第50回日米中西部会の際にも展示される方向で、関係者間で調整中。）

【効果】

全米各州からの参集があり、地元報道にも取り上げられたことにより、同地の日系コミュニティに対する理解が深まった。州政府で検討が開始された日米中西部会に合わせた日系移民の展示が実現した場合、より一層の効果が期待される。

同地における日系コミュニティの存在はこれまで殆ど知られていなかったが、シカゴ日系コミュニティの代表者3名を同行させたことにより、コミュニティ間の今後の連携に道を開いた。

86 サギノー日本祭り(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年9月17日
- 実施場所 ミシガン州サギノー市
- 関係機関 サギノー市日本文化センター
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約500名
- 概要・効果



【概要】

徳島市との姉妹都市交流によって建築された本格的な数寄屋造りの茶室「阿波鷺能庵」がある日本庭園を会場とした日本祭りを共催。

ステージでは和太鼓、沖縄エイサー、剣道、阿波踊り、日本舞踊のパフォーマンスが披露されたほか、書道・折り紙・日本の伝統遊び等の体験コーナーが設けられた。

また、茶室では茶道(表千家・裏千家)のデモンストレーションが英語解説付きで行われ、事前チケットが完売するほど、関心の高さが伺えた。

【効果】

家族連れを中心とする多くの来場者が日本文化を楽しむ様子が覗えた。

当日はローカルTVの取材も入り、総領事及びサギノー日本文化センター所長で両市の交流に長年尽力しているモスナー陽子女史(平成28年秋の叙勲受章者)へのインタビューが行われ、祭りの模様と合わせて当日放送され、地元の人々の手によって長年支えられている日米草の根交流を広報する良き機会となった。

87 ノバイ日本祭り(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年10月1日
- 実施場所 ミシガン州ノバイ市
- 関係機関 JSDウィメンズクラブ、デトロイト日本商工会、ミシガン・南西オンタリオ日米協会、ノバイ市ほか
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 3千名以上
- 概要・効果

【概要】

日本語補習校が所在し在留邦人が集中するミシガン州ノバイ市にて、同州最大規模の日本祭りを共催。会場では茶道や書道のデモンストレーションのほか、射的や縁日コーナーが設けられ、多くの一般市民が訪れた。

デトロイト総領事館では会場の一角で、公邸料理人による和菓子ワークショップを実施し、和菓子を切り口とした日本文化紹介を行った。

【効果】

対日理解促進を図るとともに、日本のプレゼンスと在留邦人の生活拠点となっている地元コミュニティへの謝意を示す機会となった。



88 在日米軍経験者レセプション(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年10月19日
- 実施場所 オハイオ州デイトン市
- 関係機関 特になし
- 訴求対象 ライト・パターソン空軍基地関係者他
- 開催規模 約50名
- 概要・効果

上記基地の在日米軍経験者を中心に、同地域選挙区選出の議会関係者、タフト元オハイオ州知事、日系コミュニティ関係者が参加するネットワーキングイベントを実施。在日米軍経験者に対して日本の良き思い出を思い出してもらおうとともに、参加者に対して改めて日米同盟の重要性を再認識する機会となった。また、同地域において原伸郎・JPモルガン・エグゼクティブディレクターが進める桜植樹プロジェクトについても紹介し、日系コミュニティによる地域への貢献状況を紹介した。



89 桜1000本植樹プロジェクト(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年10月19日
- 実施場所 オハイオ州デイトン市
- 関係機関 特になし
- 訴求対象 同地域の政治経済文化関係者、一般市民
- 開催規模 約50名
- 概要・効果

オハイオ州デイトン地域において原伸郎JPモルガン・エグゼクティブディレクターが中心となって進めている桜植樹プロジェクト「オペレーション1000チェリーツリー計画」の千本目の植樹記念式に出席した機会を捉え、同氏に総領事表彰を授与。

当日の様子や総領事による挨拶(原氏は日米相互理解の拡大に貢献したコミュニティリーダーであること、モンゴメリー郡で日系企業は3千人を雇用していることなど)は地元紙に掲載された。



90 デトロイト美術館における日本ギャラリーオープニングイベント 「Japan Cultural Days」(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年11月2日、4～5日(3日間)
- 実施場所 ミシガン州デトロイト市
- 関係機関 デトロイト日本商工会(JBSD)、
デトロイト美術館(DIA)
国際交流基金
- 訴求対象 一般市民、州政府・デトロイト市
市議会関係者他
- 開催規模 7千名以上
- 概要・効果

【概要】

デトロイト市財政破綻直後に現地日系企業がDIAに寄付した計320万ドルのうち25%を使い、DIAに常設日本ギャラリーがオープンした。オープニング式典(2日)ではミシガン州知事のほか滋賀県副知事(ミシガン州と姉妹州県)、豊田市長(デトロイト市と姉妹都市)等自治体関係者も駆けつけ、テープカットセレモニーや鏡開き等を含む式典が盛大に行われた。4～5日にかけては日本及び米国内から招聘した7組8名の職人、4組57名の文化団体、3名の講師による伝統工芸品・かるた・武術・日本舞踊・和菓子・煎茶等の多岐に亘るテーマの公演・レクチャー・デモンストレーション・ワークショップがDIA内で行われた。

【効果】

両日合わせて来館者7千人を超える大盛況となり、現地一般市民の日本文化への関心の高さが伺えた。ギャラリーオープンは地元大手新聞やTVでも報道され、日系企業コミュニティによる地元への経済・文化的貢献をPRする良き機会となった。



91 アジア系米国人グループ主催経済セミナーでの講演 (デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年11月14日
- 実施場所 オハイオ州クリーブランド市
- 関係機関 Asian American Pacific Islander Advisory Council
(ケーシック・オハイオ州知事の諮問機関)
- 訴求対象 アジア系米国人、オハイオ州ビジネス関係者他
- 開催規模 100名以上
- 概要・効果

【概要】

日系企業のオハイオ州への貢献状況、経団連のコロンバス訪問、トランプ大統領の訪日結果などを総領事が講演し、日本とオハイオ州の強固な関係について参加者にインプット。

また、講演の後には、クリーブランドを含むオハイオ州とミシガン州における日系企業への支援・日本文化の普及等の取組について、ジャクソン・クリーブランド市長名の表彰状が授与された。

【効果】

オハイオ州におけるアジア系米国人との間のネットワークを強化する上でも非常に有益であった。



92 講師派遣事業「日米関係」(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2018年1月31日～2月2日
- 実施場所 オハイオ州コロンバス、クリーブランド
ミシガン州アナーバー市
- 関係機関 オハイオ州立大学、ケースウェスタンリザーブ大学、
クリーブランド外交評議会、ミシガン大学
- 訴求対象 一般市民・学生
- 開催規模 約300名



■ 概要・効果

【概要】

阿川尚之・同志社大学特別客員教授による「世界の大きな変化と日米関係」と題した講演会をオハイオ・ミシガン各地の有力大学等で行った。

【効果】

地政学的観点からみた日米同盟の重要性について、わかりやすいプレゼンテーションで多くの聴衆にインプットすることができた。特に今回、講師派遣事業では初めて共催団体となったクリーブランドの2件(ケースウェスタンリザーブ大学・外交評議会)では参加者の多くが日本についてなじみがなく、阿川教授の明確な論旨かつ平易な英語による解説が特に好評であった。ほかの2件(ミシガン大、オハイオ州立大)については、日本研究センターとの共催ということで日本に関心の高い層が集まり、活発な意見交換がなされた。必ずしも外交や東アジア情勢への関心が高くない現地において、効果的な発信機会となった。

93 講師派遣事業「日本経済及び日米経済関係」
(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年2月9日

■実施場所 ミシガン州アナーバー市

■関係機関 ミシガン大学

■訴求対象 一般市民・学生

■開催規模 約25名

(当日は、午後から大学が休校となるほどの大雪)



■概要・効果

【概要】

浦田秀次郎・早稲田大学大学院教授による「日本経済－順調な回復・課題・対外経済政策・対米関係－」と題した講演会をミシガン大学で行った。

【効果】

日米経済関係や日本の経済政策について、現地の教育関係者に適切にインプットすることができた。

94 オハイオ日本語スピーチコンテスト(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年3月10日

■実施場所 オハイオ州ダブリン市

■関係機関 中央オハイオ日米協会(JASCO)、オハイオ州立大学日本研究センター、セントラル・オハイオ日系企業懇話会(COJAC)、オハイオ州立大学日本文化会(JSO)、国際交流基金、ダブリン市

■訴求対象 学生・一般市民

■開催規模 約150名

■概要・効果

【概要】

オハイオ州在住の日本語学習者を対象とした日本語スピーチコンテストを実施し、各部門の第1位には奨学金を贈呈、高校生部門の第2位にも記念品を贈呈するほか、同日同会場に隣接する会場でオハイオ州に所在する日系企業及び日系企業をクライアントに持つ企業のブースを出し、日本語を勉強している生徒・学生と日本語運用能力を有する人材の確保を希望する企業との出会いの場としてキャリア・フェアを行った。



【効果】

各部門においてレベルの高いスピーチが披露され、日頃の日本語学習を発表する場として、日本語学習者及び日本語教師たちにとってのインセンティブ強化となった。総領事館からは首席領事が審査員として出席し、冒頭挨拶において日本企業によるオハイオでの貢献について言及し、日本語教育の推進に尽力している学校関係者・日系企業・文化団体等に対し謝意を述べ、日本政府としても全面的にこれを支援している姿勢を示すことができた。

95 ミシガン日本語クイズボウル(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年3月11日

■実施場所 ミシガン州イプシランティ市

■関係機関 ミシガン日本語教師会(JTAM)、デトロイト日本商工会(JBSD)、ミシガン南西オンタリオ日米協会、ミシガン日本語教師会、JSDウィメンズクラブ

■訴求対象 学生・一般市民

■開催規模 約300名

■概要・効果

【概要】

チームによるトーナメント方式での日本及び日本語に関連するクイズ大会を実施。対象はK-12レベルの学生で、本件開催により現地における初等・中等教育レベルにおける日本語教育の活性化及び日本・日本文化への関心喚起を通じて対日理解の促進を図った。

【効果】

普段は交流の無い日本語を学ぶ他校の高校生同士が交流する貴重な場となり、お互いに良い刺激を与え合う良き機会を提供することができた。また、日本語教師会メンバーより、本イベントは学生のモチベーションを高めるのに大変役に立っているとのコメントがあった。

総領事館の広報ブースにも多くの学生が訪れ、特にK-12の子供を持つ保護者層に対するJETプログラム・文部科学省奨学金の広報機会となった。

また、開会式において館員が行った挨拶において、ミシガン州内の日本語学習者数、またミシガンが全米第5位の日本語教育者数を有していることに触れたところ、会場からは驚きの声と拍手が上がり、日本語教育関係者や学習者への激励の良い機会となった。



96 総領事のオハイオ州セントメリーズ等訪問(デトロイト総領事館)

■実施時期 2018年3月19日～20日

■実施場所 オハイオ州セントメリーズ市等

■関係機関 なし

■訴求対象 地元政府

■開催規模

■概要・効果

【概要】

総領事がセントメリーズ市等を訪問し、日本企業の貢献、日米経済関係、日本文化、姉妹都市交流等についてインプット。

【効果】

もともと日本との交流の経験を有する、日本に好意的な地域ではあったが、市長を含む市の幹部との間で個人的な関係を構築でき、日本企業によるオハイオでの貢献など、日本の重要性を改めてインプットできたことは有意義であった。

また、セントメリーズ市においては同市のコミュニティ・インクルーブメント・コーポレーション(CIC)総会において総領事が日系企業によるオハイオ経済への貢献及び同市と兵庫県淡路市による姉妹都市交流についてのスピーチを行った様子が、The Evening Leader紙(同市ローカルメディア)に掲載されるなど高い広報効果が得られた。



97 総領事と日系企業のオハイオ州スマートシティプロジェクト視察 (デトロイト総領事館)

- 実施時期 2018年3月27日
- 実施場所 オハイオ州コロンバス市
- 関係機関 日系企業
- 訴求対象 地元政府、経済開発団体
- 開催規模 約50名

■概要・効果

【概要】

総領事がコロンバスにおいて進められているスマートシティプロジェクトに日系企業を招いて視察し、同プロジェクトと日系企業とのマッチングを実施。



【効果】

ミシガン州に進出している多くの日系企業にとっては、オハイオ州におけるスマートシティプロジェクト等の取組については網羅的に把握しておらず、実施後は日系企業から「断片的に把握している情報を現地でまとめて確認することができて有益であった。個社ごとに視察などを行うと州政府に過剰に期待を持たせるようなおそれもあり、今回のような集団での訪問は、その観点からも好都合であった。」などの声が寄せられた。

また、オハイオ州側からも、総領事館が多くの主要企業を連れてきたことについて感謝がなされ、双方にとって意味のある行事であった。

98 和風作りワークショップ及び和風フェスティバル (デンバー総領事館)

■実施時期 2017年9月26日～10月1日(6日間)

■実施場所 現地小学校2校、高校1校、大学1校(ワークショップ)
現地公園(和風フェスティバル)

■関係機関 コロラド日米協会、デンバー市
政府、デンバー市観光局、
サクラ財団、国際交流基金

■訴求対象 現地米国人学生及び一般米国人

■開催規模 計1千名以上

■概要・効果

【概要】

日本から招待した和風職人が和風に関する概要を説明しながら和風の作り方などを教えるワークショップを現地の学校で開催し、計600名の米国人学生が、和紙と竹を使って和風作りを行った。また、デンバー市内の公園において和風フェスティバルを開催し、約400人の一般米国人が和風に親しんだ。

【効果】

和風フェスティバルでは、連風のほか、江戸時代より受け継がれてきた様々な江戸風があがる様子を、多くの米国人が楽しみ、日本の伝統文化への関心と理解を高めることができた。



99 月見会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年9月30日
- 実施場所 シャトクア公園(コロラド州ボルダー市内)
- 関係機関 JETAAロッキーマウンテン支部
- 訴求対象 現地一般米国人
- 開催規模 約30名
- 概要・効果

JETAA活動について紹介することを始め、和楽器演奏、盆踊り指導、月見を通じて、JETAA会員のみならず、コロラド州ボルダー市近郊の一般市民に日本文化を理解してもらうことができた。



100 米空軍士官学校講演会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年11月2日
- 実施場所 米空軍士官学校(コロラド州コロラド・スプリングス市内)
- 関係機関 米空軍士官学校
- 訴求対象 米空軍士官候補生
- 開催規模 約20名
- 概要・効果

総領事が同学校の授業において、日本の外交政策・日米関係等につき講演を行った。

米空軍士官候補生に日本の外交政策・日米関係等について理解を深めてもらうことができた。



101 第31回コロラド・ワイオミング州 日本語弁論大会 (デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年11月4日
- 実施場所 ファースト・バプテスト教会
(コロラド州デンバー市内)
- 関係機関 コロラド日本語教育会、コロラド日米協会、国際交流基金
- 訴求対象 現地米国人学生及び一般米国人
- 開催規模 約210名
- 概要・効果

現地で日本語を学ぶ学生が日頃の日本語学習の成果を披露する弁論大会。日本語学習者の目標の一つとなっており、日本語学習意欲を喚起するとともに、日本への関心と理解を高めることができた。



102 ユタ大学講演会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年11月7日
- 実施場所 ユタ大学(ユタ州ソルト・レイク・シティ市内)
- 関係機関 ユタ大学
- 訴求対象 ユタ大学の学生及び教員
- 開催規模 55名
- 概要・効果

総領事が同大学において、日本の外交政策・日米関係につき講演を行った。参加者に日本の外交政策・日米関係について理解を深めてもらうことができた。



103 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年11月29日～12月1日
- 実施場所 コロラド州デンバー市、コロラドスプリングス市、オーロラ市
- 関係機関 官邸国際広報室
- 訴求対象 現地米国人学生、一般米国人、在日米軍勤務経験者等
- 開催規模 350名

■概要・効果

島内元ブラジル駐箚特命全権大使を団長とする一行が現地の大学、基地等を訪れ、各訪問先において講演会等のイベント開催し、日本の強み・魅力や「元気な今の日本」をアピールすることができた。



104 デンバー大学での講演会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2018年1月25日
- 実施場所 コロラド州デンバー市
(デンバー大学国際学部中・米協力センター)
- 関係機関 デンバー大学国際学部中・米協力センター
- 訴求対象 デンバー大学の学生及び教員等
- 開催規模 約80名
- 概要・効果

【概要】

デンバー大学(中・米協力センター)において、総領事が日米関係について講演を行った。

【効果】

デンバー大学の学生及び教員等に対し、日米関係等について理解を深めてもらうことができた。



105 デンバー大学での講演会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2018年2月22日
- 実施場所 コロラド州デンバー市
(デンバー大学国際学部)
- 関係機関 デンバー大学国際学部
- 訴求対象 デンバー大学の学生及び教員
- 開催規模 約10名

■概要・効果

【概要】

デンバー大学国際学部の「国際世論と外交政策」の授業の中で総領事が日米関係について講演を行った。

【効果】

デンバー大学の学生及び教員に対し、日米関係等について理解を深めてもらうことができた。

106 雛祭り(デンバー総領事館)

- 実施時期 2018年3月4日
- 実施場所 コロラド州アーバダ市
(シンプソン・ユナイテッド・メソジスト教会)
- 関係機関 シンプソン・ユナイテッド・メソジスト教会

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約500名

■概要・効果

【概要】

コロラド州の日系人コミュニティの拠点の一つであるシンプソン・ユナイテッド・メソジスト教会が主催する文化行事。雛人形や生け花を始め、武道の披露や日本の伝統楽器の演奏など様々なパフォーマンスが披露される。日本人、日系人だけでなく、一般のアメリカ人も多数参加し、地域社会に根付いた日本の伝統文化紹介行事として、親しまれている。会場内において、総領事館から外務省広報資料「にぽにか」等を配布した他、世界遺産シリーズ模型を展示した。

【効果】

外務省広報資料「にぽにか」等の配布や、世界遺産シリーズ模型の展示により、日本への関心を高めてもらうことができた。



107 国際交流基金巡回展 “パラレル・ニッポン”現代日本建築展の開催(デンバー総領事館)

- 実施時期 2018年3月5日～4月27日
- 実施場所 コロラド州デンバー市
(コロラド大学デンバー校建築学部)
- 関係機関 コロラド大学デンバー校建築学部、国際交流基金
- 訴求対象 学生、教員、一般市民
- 開催規模 約700名

■概要・効果

【概要】

1996年から2006年に竣工した日本の代表的な建築について、写真で紹介する展示会を開催した。京都大学の竹山聖教授による同大学での講演会の際に、本巡回展の披露を行うことで相乗効果を図った。

【効果】

現代日本建築について写真で紹介し、同大学学生・教員、一般市民に現代日本建築の素晴らしさについて理解を深めてもらうことができた。



108 アーバダ・ロータリー・クラブでの講演会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2018年3月7日
- 実施場所 コロラド州アーバダ市
- 関係機関 アーバダ・ロータリー・クラブ
- 訴求対象 アーバダ・ロータリー・クラブの会員である一般米国人
- 開催規模 28名

■概要・効果

【概要】

アーバダ・ロータリー・クラブの夕食会において、総領事が日米関係について講演を行った。

【効果】

アーバダ・ロータリー・クラブの会員に対し、日米関係等について理解を深めてもらうことができた。



109 在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業 (ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年3月30日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市内(公邸)
- 関係機関 テネシー州退役軍人サービス省
- 訴求対象 在日米軍経験者、日米関係協力者他
- 開催規模 約30名
- 概要・効果

当日、州内広域に暴風雨警報等が発令されたことを受け、連邦・州議会議員や暴風域在住者の欠席が生じたが、グラインダー・テネシー州退役軍人サービス省(TNDVS)長官他、在日米軍経験者を含む約30名の参加を得た(去年は約60名)。

総領事挨拶では、在日米軍経験者の日米同盟及び日本の安全保障への貢献や、6周年を迎えた東日本大震災に関し、米軍によるトモダチ作戦を始めとする米軍の援助が災害復興への道筋を作ったことに感謝の意を述べた。さらに日米防衛ガイドラインの改定に触れつつ、日米安全保障体制の重要性を強調。加えて、日テネシー州関係について、約190社の日系企業が州内で約5万人を雇用し州経済に大きく寄与している点に言及した上で、在日米軍経験者が、日米間の架け橋の役割を担っていることに感謝し、更なる日米交流への協力を求めた。

グラインダー長官は、2回目の会合に謝意が表され、日系企業は州経済全体に大きく貢献していることに加え、退役軍人との関係においても、翌日に日系企業が退役軍人を対象とした就職説明会を開催する等、日系企業とのパートナーシップが深化しており、今後も一層の連携を深めることを望む旨述べる等、参加者に州政府と足並みをそろえ日米関係の重要性を再認識してもらう機会となった。会場では、琴及び尺八の生演奏を行い、食後、餅つきも実施。また、首相官邸YouTubeチャンネルに掲載のトモダチ作戦を展開した在日米軍への謝意を表した「Friends - we thank you!」等を放映した他、総領事による東日本大震災5周年の際の現地「テネシアン紙」に対する寄稿記事、桜祭りやジャパン・ウィークに関するパンフレット及びJUMPの案内等を配布した。



110 第1回ジャパン・ウィーク(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2017年3月30日～4月9日(11日間)

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市内各地

■関係機関 テネシー州退役軍人サービス省、
テネシー日米協会(JAST)、
JASTヤング・プロフェッショナル、Tennessee Foreign
Language Institute、JETAA、テネシー世界評議会、
ベルmont大学、チークウッド植物園、
ナッシュビル日本映画祭、寿司アカデミー

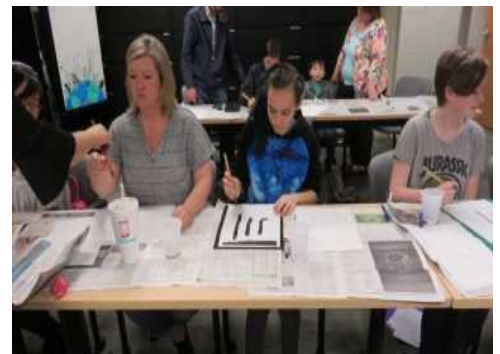
■訴求対象 在日米軍経験者、JET帰国者・協力者、一般市民、学生他

■概要・効果

ナッシュビル桜祭りが米国南部における最大の日本祭りに成長したことを受け、桜祭りに向けて、日本・日米関係に関する情報を更に発信し、日本文化に触れる機会を創出することを通じ、対日理解を促進すべく、3月30日から4月9日にわたり「第1回ジャパン・ウィーク」を企画・開催。

日米安全保障同盟、日米経済関係、日本文化(日本庭園、自然、映画)、日本語・教育、日本食等、多様な観点から、現地の学生から在日米軍経験者、JETAA等、幅広い市民層を対象に草の根レベルの情報発信を行い、短期間の準備ながら多くの参加を得た。

総領事館は、協力各組織への呼びかけ・調整を主に担い、総領事が当地主要紙である「テネシアン紙」に寄稿記事を投稿したほか、総領事を始め、関係館員・職員が全行事に出席し、情報発信及び交流に努めた。なお、中心となったナッシュビル桜祭りは、昨年との50%増の約4.5万名の参加を得た。



111 第9回ナッシュビル桜祭り(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年4月8日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市内
- 関係機関 ナッシュビル市役所、
テネシー日米協会 (JAST)、
ナッシュビル姉妹都市委員会
国際交流基金
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約4万5千名
- 概要・効果



今年9回目を迎えた総合的な日本フェストであるナッシュビル桜祭りは、近年、日本祭としては南部最大のものとなっている。また、その一環として、日米友好の印である桜の木を毎年約100本ずつ市内に植樹し、これまでに約900本の桜がナッシュビルに日米友好の輪の根をつけている。祭は、5キロ程の「桜ウォーク」により幕を開け、開会の挨拶の後、ステージにおける太鼓を始めとする日本文化関連の演奏やデモンストレーション、約130のブースにおける日本文化関係の催しや物品紹介等が盛況を極めた。日本食への関心も高く、フードトラック・屋台数は30以上に増強したが、早々に売り切れが続出する状況であった。総領事館も全体の運営支援に加え、文化を中心に日本関連情報の効果的な発信を行うべく、餅つき、浴衣試着、盆踊り、子供向けの遊び等の文化体験の機会を主導するとともに、レクチャー・シリーズを通じて、茶の湯や盆栽の実演、日本語講座及びJETやカケハシ・プログラムの参加者が日本における経験に係る講演も実施し、日本関連資料の配付・説明も行った。本年度は参加者数が過去最高となったのみならず、総領事による現地主要紙への寄稿記事やメディアによる紹介、SNS等の様々な広報や日頃のアウトリーチの成果を受け、ダイバーシティに溢れるナッシュビルらしいイベントともなった。本祭りは、今秋、地元「ナッシュビル・シーン」誌の記者が選ぶ「最も家族向けの祭り」に選出され、日本及び日本文化の紹介、親日感の醸成にも大きく貢献した。

112 テネシー日米協会年次総会(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年6月16日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市内
- 関係機関 テネシー州知事室、テネシー日米協会(JAST)、JETRO、日系企業、州内大学他
- 訴求対象 テネシー州政府関係者、日米協会関係者他
- 開催規模 約120名
- 概要・効果

テネシー州副知事はじめ日米協会関係者等約120名が集まったJASTの年次総会において、総領事より「変化と継続」をテーマに総括基調スピーチ、首席領事より東京オリンピック・パラリンピックの準備状況を説明した。

冒頭、ヘンリー副知事が、日テネシー関係、特に経済関係の現状を説明し、さらに総領事館の役割、日米協会の活動等に謝意を示した。

総領事の総括基調スピーチでは、世界各地の情勢の変化を概観した上で、トランプ新政権の下での日米関係が、変化に対処しつつ盤石のスタートを切り、日米同盟関係は、価値観の共有と信頼の下、更なる強化が図られていることについて発信を行った。日・テネシー州関係については、安全保障、経済、人的結びつきを柱とする日米関係のモデルケースとなっていることを、日米安保関係を支える防衛装備・技術の両国防衛産業間の協力を議論する日米(防衛)技術フォーラム(これまでに28回開催)や、約190社の日系企業が5万人以上の雇用を創出していること、また、日米協会の多大な協力の下、ナッシュビル桜祭りが米国南部最大の日本文化祭りに成長したことに触れつつ説明し、また、日米協会の活動に深甚なる謝意を表明した。

その他、ナッシュビルのスポーツ産業(NFL・NHL)と現地に本社を置く日系企業が、夫々にブランド力を発揮し相互利益を得ていることを紹介するパネル討論、日テネシー経済関係の現状と今後、州内のコミュニティレベルにおける日本との関係強化についてのパネル討論がなされ、テネシー州における日米関係の様々な側面が紹介される機会となった。



113 ハガティ次期駐日大使就任祝賀・歓送レセプション (ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年7月31日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市内
(公邸)
- 関係機関 州政府、テネシー日米協会
- 訴求対象 州知事以下の州政府要人、日本との関係の深い米国人、
日系企業代表に加え、ハガティ大使の友人として多くの
現地における名士
- 開催規模 約100名

■概要・効果

テネシー州出身であり、同州経済開発長官も務めたハガティ駐日大使の就任を受け、現地有力者等を招き、ハガティ次期駐日大使就任祝賀・歓送レセプションを実施したところ、対日関心の更なる掘り起こし、和食、日本酒、日本産ワインの紹介に役立った。

ハガティ次期駐日大使夫妻及びご家族、ハズラム・テネシー州知事夫妻、経済開発長官、労働長官、退役軍人長官等の賓客、日系企業代表、友人を含め客側100名の出席を得た本レセプションの際の総領事挨拶の要約版をハガティ大使の赴任にあわせて現地主要紙「テネシアン紙」に投稿したところ、同記事が掲載され、一般市民に対しても日米関係全般と日・テネシー関係に関する発信・アピールにも繋がった。



114 第4回ノックスビル・アジア・フェスト(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2017年8月27日

■実施場所 テネシー州ノックスビル市

■関係機関 ノックスビル市、アジア・フェスト実行委員会

■訴求対象 一般市民、学生他

■開催規模 約3万名

■概要・効果

州東部のノックスビル市在住の邦人が中心となり開始した、アジア文化を紹介する行事。4回目を迎えた本年は、市長をはじめとした、市・郡政府の関係者も開会式に参加するなど、約3万人(過去最多)の集客となった。日本をはじめとし、中国、韓国、フィリピン、インド、タイ等様々なアジア諸国が参加し、ブースや屋台を出展すると共に、ステージにおいて民族舞踊や楽曲が披露された。

日系企業が大口スポンサーを務めたことから、ステージ近くを日系企業ブースや当館のブースが占め、また、開会の挨拶では、直前に姉妹都市である室蘭市を訪問した市長や日系企業代表者、補習校関係者、姉妹都市交流関係者が挨拶したほか、総領事からのメッセージも読み上げられ、総領事からのメッセージには観衆から拍手が寄せられるなど、アジアの祭典であるも、地域経済・社会に大きく貢献している日本の存在を一般市民にアピールする機会となった。



115 レキシントン夏祭り(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年9月9日
- 実施場所 ケンタッキー州レキシントン市
- 関係機関 ケンタッキー日米協会
- 訴求対象 一般市民、学生他
- 開催規模 約1万名



■概要・効果

経済面を中心とした対日関心は高いものの、日本文化に直接触れる機会が少ないケンタッキー州レキシントン市及びその近郊の一般市民や学生などに対して、総合的な日本文化を紹介する行事。第9回目となった本年は、約1万人の市民の参加を得た。

ステージでは、和太鼓、日本の楽曲を中心としたジャズ演奏、琴の演奏等に加えコスプレコンテストも行われた。また、会場では、武道デモンストレーション、書道や折り紙ワークショップ、日本観光誘致などを実施するブースが出展され、総領事館は、一般市民が日本の伝統的な玩具に実際に触れる機会を創出する他、「にぽにか」等各種広報資料を配付すると同時に、ポスター等を展示することを通じて、日本紹介を実施。会場では、おにぎり等家庭的な料理から、焼き鳥、日本のお菓子、日本酒等幅広く日本食を紹介することにも注力がなされ、日本食の屋台の前には行列ができるなど、高い反響を得た。さらに、ステージ近くにはレキシントン近郊に工場をもつトヨタが新型カムリを展示するなど、スポンサー・日系企業をアピールする工夫もなされ、あらゆる側面から一般市民に日本を紹介する機会となった。



116 第1回メンフィス・ジャパン・フェスティバル (ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年9月24日
- 実施場所 テネシー州メンフィス市メンフィス植物園
- 関係機関 テネシー日米協会 (JAST)
- 訴求対象 シェルビー郡、メンフィス市関係者、一般市民、学生他
- 開催規模 約6千名
- 概要・効果

メンフィス市長室及びシェルビー郡長室の強力な支援の下、テネシー州経済開発省が最大の、また、ブラザーやNKCアメリカ等メンフィス日本企業がそれぞれ大口スポンサーとなった総合的な日本文化紹介行事。当日は事前の見込みを大きく上回る6千名近い参加者を得た。セレモニーでは、シェルビー郡長、不在のメンフィス市長代理として参加した同市前市議会議長、パールJAST名誉会長、総領事が挨拶。シェルビー郡長及びメンフィス市長が署名した、当日を「日本友好の日」とする旨の宣が読み上げられた。総領事からは、会場となったメンフィス植物園(日本庭園あり)の長年にわたる日米友好への貢献に対する在外公館長表彰も実施した。フェスティバルでは、和太鼓演奏、文楽、コスプレ・コンテスト等のステージ行事に加え、空手道等の武術紹介や浴衣の着付け、折り紙ワークショップ、玩具の金魚釣り、習字、碁等、様々な日本文化の体験の機会を提供するとともに、「カルチャー・キャンプ」と題して文楽、生け花、メンフィス大学教員によるミニ日本語講座、日本庭園ツアー等、幅広く日本文化紹介を行った。

本事業は、州西部における日本コミュニティによる経済・社会貢献をアピールするとともに、メンフィス及びアーカンソー州・ミシシッピ州を含む隣接地域における日米経済関係を今後盛り上げることに期待も込めて企画がなされた。第1回ではあったが、地域自治体の熱意、州政府の関心の高さ、日本への期待の高さといった要素、及び日本語学科を有するメンフィス大学の存在、約50年前に建築された日本庭園「静寂園」を有する植物園、交通の要衝という立地条件等のメリットを活かし、幅広くグラスルーツ発信を行う機会となった。



117 月見祭り(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年10月8日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市チークウッド植物園
- 関係機関 チークウッド植物園
- 訴求対象 一般市民、学生他
- 開催規模 約300名
- 概要・効果

茶道や琴、日本舞踊を含む伝統文化からヨーヨー釣り、習字や紙芝居まで、日本文化の様々な側面の紹介を通じ、現地の一般市民に幅広く日本文化の魅力を発信し、対日理解を促進するとともに、チークウッド植物園内にある日本庭園の認知度を高め、在留邦人と米国人の交流を深めることを目的とした総合的文化事業。3年目となった本年は、あいにく、ハリケーンの襲来を受け、当日、一時は豪雨に見舞われたものの、約300名の参加を得た。

当日は、雨天のため日本庭園ガイドツアーや天文観測が中止されたものの、茶道のデモンストレーション及びレクチャー、日本舞踊、紙芝居、琴の演奏等は、時間を調整しつつ屋内にて実施し、茶席(薄茶サンプルも配布)は満席となった。更に、チークウッドの依頼にて、総領事と先方代表の挨拶も実施。書道、月見や日本の秋をイメージする飾りを施した内輪作り、俳句コーナー、ヨーヨー釣りなど、雨天でも文化体験を楽しむことができるキッズコーナーを充実させた。更に日本の月見を紹介すべく、ススキや月見団子、ウサギの折り紙等が入り口とメイン会場に飾られ、月見団子に手を伸ばす来客者の姿も見られた。会場では、日本食料品店が月見団子やたこやき等を販売し、文化紹介に加え日本食紹介にも繋がった。春の桜祭り・秋のお月見祭りとして本祭りを確立することで、地域において日本の四季折々の風習に触れてもらう機会を創出することにより、日本に対する持続的な関心を惹起する効果をもたらす行事となった。



118 ニューオーリンズ・ジャパン・フェスト(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年10月14日
- 実施場所 ルイジアナ州ニューオーリンズ市
ニューオーリンズ美術館 (NOMA)
- 関係機関 ニューオーリンズ日本人会、NOMA
- 訴求対象 一般市民、学生他
- 開催規模 約3,520名
- 概要・効果

武道を含む多様な伝統文化からポップカルチャーまで、日本文化の様々な側面及び魅力をニューオーリンズの一般市民に発信し、対日理解を促進する総合的な日本文化紹介事業。和太鼓の演奏を合図に始まったセレモニーでは、NOMA代表者と総領事がオープニングの挨拶を行い、約3,520名の参加を得た。

和太鼓演奏、空手、剣道、居合道、合気道、柔道などの武道デモンストレーション、盆踊り、書道や折り紙ワークショップ、コスプレ・ファッション・ショー、着付けデモンストレーション、鎧試着などを実施。また、JETAA(MidSouth)支部と協力し、一般市民が日本の伝統的な玩具に実際に触れる機会を創出する他、日本の昔話の紹介、JETプログラムの広報及び各種広報資料の配布も実施した。

共催者始め、ニューオーリンズ日本協会や日本庭園協会等の親日的組織が一丸となり、一人でも多くの市民に日本文化に触れる機会を設け、親日感を醸成するという目標のために時間と協力を惜しまず、また、日本語補習校の保護者もテント出展参加。日米両国のコミュニティが交流する機会となると同時に、参加者にとっては、伝統文化からポップカルチャー、武道のパフォーマンス、太鼓の演奏、NOMA内の日本ギャラリーツアー及び隣接する市立公園敷地内に所在する日本庭園のガイドツアー、盆踊り等、日本文化の多様な側面に触れ、体験することができると同時に、ニューオーリンズ風アレンジされた日本の屋台の食べ物を満喫する機会となった。



119 メンフィス・ロータリー・クラブにおける講演 (ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年11月7日
- 実施場所 テネシー州メンフィス市
- 関係機関 メンフィス・ロータリー・クラブ
- 訴求対象 メンフィス市長、ロータリー・メンバー、企業関係者他
- 開催規模 約200名
- 概要・効果

キング牧師暗殺事件につながる歴史的教会を会場として、メンフィス市長を始めとする来賓及びロータリー・クラブ会員計約200名の聴衆に対し、「日米関係とテネシー：過去・現在・将来」と題する講演を行った。日米関係の概要及び歴史をテネシー州出身者(アンドリュー・ジャクソン元大統領、



コーデル・ハル元国務長官)の役割等に言及しつつ説明。また、1980年代に日本の製造業が戦略的に米国への進出を図った際に、アレクサンダー知事の尽力で日産が初めてナッシュビル郊外に工場を開設し、これが現在の日・テネシー関係を築く礎となったことを紹介しつつ説明。

現在は、約190社の日系企業がテネシーに進出し、5万人もの直接雇用と大きな経済的・社会的貢献をしていること、メンフィス地域でも53社が7,500人の雇用をもたらしているが、メンフィスでは自動車産業に加え、多様な企業がビジネスを展開しているという特徴を説明。日米関係の将来は大きな可能性があるが、日・テネシー関係においては、ハワード・ベーカー元大使、アレクサンダー連邦上院議員や現ハズラム知事の役割は極めて大きなものがあり、ハガティ新駐日大使もテネシー出身で、このような人々の作ってきた過去、現在を将来につなげていくことが重要であり、大きな可能性を秘めている旨強調した。

講演の一部がNBC系テレビニュース(夕刻)で放送された他、「メンフィス・ビジネス・ジャーナル紙」でも報道された。講演の2日前に、総領事による投稿記事がメンフィス地域における主要紙である「メンフィス・コマーシャル・アピール紙」に掲載されたことも重なり、一般市民にもテネシー州における日米関係について広く発信を行う機会となった。

120 桜植樹イベント(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年12月2日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市
(リバーサイドパーク)
- 関係機関 テネシー日米協会、桜祭り
実行委員会、ナッシュビル市
美化委員会
- 訴求対象 市議会議員、学生、一般市民等
- 開催規模 約140名

■概要・効果

【概要】

総領事館の移設に伴い始まった「10年間で1,000本の桜を植樹する」という取組の最終年として、過去最多の140名弱の市民ボランティアが参加し、合計58本の桜の幼木を植樹。

【効果】

今年は、家族連れに加え、ナッシュビル警察学校の訓練生や地元大学の学生グループ等、団体での参加も多く、初対面でもお互いを助け合う姿があちらこちらで見られた。幼い子供達もスコップを手に苗木に土をかけ、相手を問わず植え終わった幼木に無事の成長を祈る言葉を掛けあう姿には、日米の友好の印である桜を通じて、市民交流が広がる様子がかがわれ、集大成の年に相応しい友好的で温かい雰囲気にあふれる行事となった。



121 第4回ハワード・ベーカー記念講演(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年12月15日
- 実施場所 テネシー州ノックスビル市
(テネシー大学トヨタ講堂)
- 関係機関 ナッシュビル総領事館、
テネシー大学
- 訴求対象 大使経験者、連邦検事、
州議会議員、自治体首長、
大学関係者等
- 開催規模 約90名



■概要・効果

【概要】

現地において尊敬の念をもって語られる故ハワード・ベーカー大使の「冠」の付く場所、講演会であり、同大使に続くテネシー出身駐日大使となったハガティ大使を講師に迎えて開催。ハガティ大使の講演では、経済面に限らず、北朝鮮や中国をめぐる安全保障を含めた日米協力の現状と日米同盟の重要性について現役米国大使の視点から包括的な説明が行われた。講演終了後は、参加者との間で多岐にわたる質の高い質疑応答が行われた。

【効果】

ハガティ大使による講演ということで、地元の期待も高かったが、参加者からは素晴らしい講演会だったとの声が聞かれるとともに、テネシー大学とナッシュビル総領事館の共催にて毎年開催している本「ハワード・ベーカー記念講演」の評価を大きく高めることとなった。

122 ケンタッキー日米協会新年会(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2018年1月19日
- 実施場所 ケンタッキー州フランクフォート市(州知事公邸)
- 関係機関 ケンタッキー州知事室、ケンタッキー日米協会
- 訴求対象 州政府関係者、地方自治体関係者、企業関係者、一般市民
- 開催規模 約200名
- 概要・効果

【概要】

ケンタッキー州知事公邸において、ベヴィン知事夫妻主催にて開催されたケンタッキー日米協会(JASK)新年会。JASKの最大行事として例年行われているもの。JASK会長、トヨタ・ケンタッキー新社長、知事と共に鏡開きを行い、会場では、日系人を含むジャズバンドによる演奏がなされた他、寿司カウンター及ぶバーボン・カウンターが設けられ、和洋食が振る舞われた。

【効果】

本新年会は、ベヴィン州知事が就任後最初の州知事公邸行事として開催した行事であり、毎年、州知事公邸にて開催されている。日米協会の一大行事に州政府が協力し、ケンタッキー州内の日米関係の強化に繋がることに加え、日本食や日本酒等の魅力を州政府と共に発信する機会ともなった。



123 おいしいジャパン(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2018年1月20日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市
(メンフィス植物園)
- 関係機関 メンフィス大学、メンフィス
植物園、メンフィス日本商工会
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約700名



■概要・効果

【概要】

メンフィス大学日本語プログラム関係者とメンフィス日本商工会関係者が中心となって、カジュアルな日本食の魅力をグラスルーツレベルで発信するイベントであり、今回で5回目を迎えたところ。会場の一角では、多くの見学者が見守る中、茶道のデモンストレーションが行われたほか、地元の米国人女子大生によるコスプレでのダンス披露も行われ、多くの参加者の喝采を浴びていた。

【効果】

毎年、参加者が増えてきており、参加者のほとんどは地元米国人。地元では、毎年一回の恒例イベントとして認知されつつある。大変アットホームな雰囲気イベントであり、グラスルーツレベルでの日本への親近感の醸成にとって、大変効果的なイベント。

また、現地の日系企業及び日系商工会がスポンサーとして協力するとともに、参加者抽選会に多くの景品を出すなど、日本食の魅力の発信に加え、現地日系企業の地元へのアピールにも繋がる良い機会ともなっていた。

124 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年1月23日～24日

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市、
クラークスビル市
(ヴァンダービルト大学、
テネシー州立大学、
オースティンピー州立大学)



■関係機関 官邸国際広報室

■訴求対象 米国人学生、一般市民等

■開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

藤崎元駐米大使を団長に、現役大学生、起業家、中国人留学生というバラエティに富んだチームメンバーで、大学生から企業関係者等、幅広い聴衆に対し、日米関係と日本の魅力について、多角的に発信した。また、派遣団はハズラム・テネシー州知事を表敬し、幅広い分野における日米同盟の重要性について議論を行った。



【効果】

今般の派遣団訪問に当たり、藤崎元大使による現地主要紙「テネシアン」への寄稿記事が掲載されるとともに、藤崎前大使は、現地WKRN(ABC系)によるインタビューを受け、日テネシー経済関係、北朝鮮情勢を含む日米同盟、日本からナッシュビルへの直行便就航への希望等、多岐にわたる分野について発言され、同インタビュー内容は、土曜日夕刻及び日曜日夜に30分の番組内で5分30秒以上放送されるなど、非常に高い対外広報効果を得られた。

125 ヤング・プロフェッショナルの集い(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年2月9日

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市
(公邸)

■関係機関 JETAA

■訴求対象 元JET、若手プロフェッショナル 等

■開催規模 約35名

■概要・効果

【概要】

直近のJET帰国者や元JET、ナッシュビル近郊在住の若手のプロフェッショナルを招き、意見交換等を実施。餅つきも行った。

【効果】

元JET等と親交があるものの、これまで必ずしも日本に関わりをもつ機会がなかった若手と意見交換を行い、餅つき体験や日本食紹介をし、対日関心醸成及び今後のネットワークの構築・拡大の足がかりをつくる機会となった。



126 経済広報センターシンポジウム兼テネシー日米協会年次総会 (ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2018年3月9日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市
- 関係機関 経済広報センター、
テネシー日米協会
- 訴求対象 自治体関係者、企業関係者、
一般市民 等
- 開催規模 約100名



■概要・効果

【概要】

テネシー日米協会の年次総会と経済広報センターのシンポジウムを合同で開催。

テネシー州東部で大規模な事業を展開するデンソーが基調講演を行ったほか、ラマー・アレクサンダー連邦上院議員、テネシー州経済開発長官、ナッシュビル総領事などが挨拶を行い、日テネシー関係の重要性についてそれぞれの視点から発言した。

【効果】

アレクサンダー連邦上院議員がスピーチを行い、テネシー州知事当時の日系企業誘致活動の苦労話を披露しつつ、日・テネシー関係の重要性を力説、また、デンソーは、米国での活動の歴史と今後の展望について、プレゼンテーションと質疑応答の双方で丁寧で詳細な説明を行うなど、日系企業が米国及びテネシー州内で大きく貢献している点についてしっかりとした発信が行われた。

⑫127 日米双方向投資促進セミナー(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2018年3月23日
- 実施場所 ケンタッキー州ルイビル市
- 関係機関 JETROニューヨーク、
ケンタッキー日米協会、
ケンタッキー州経済開発庁
- 訴求対象 自治体関係者、企業関係者、
一般市民 等
- 開催規模 約90名



■概要・効果

【概要】

総領事館、JETROニューヨーク事務所、ケンタッキー日米協会の共催で、日米双方向の投資を促進するためのセミナーを開催。ケンタッキー州経済開発長官から日系企業の貢献について謝意が述べられたほか、経産省、JETRO、現地日系企業から日系企業の米国への投資と貢献について詳細なプレゼンが行われた。併せて、投資先としての日本の魅力について、日本で活動する米国企業及び神奈川県から説明が行われた。

【効果】

JETROによるプレゼンテーションでの、アンケート調査に基づく日系企業動向の具体的な数字や企業の生の声が特に参加者の関心を引いていた。また、投資先としての日本について、具体的な日本の状況について発信されるなど、親日感醸成にとっても良い機会となった。

128 ミシシッピ桜祭り(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2018年3月25日
- 実施場所 ミシシッピ州テュペロ市
- 関係機関 テュペロ市、リー郡、ミシシッピ日米協会
- 訴求対象 一般市民、企業関係者、自治体関係者 等



- 開催規模 約600名

■概要・効果

【概要】

経済関係が中心となっていたミシシッピ州において、2015年の桜

の植樹を記念して行われた第1回目の桜祭りに引き続き、一般市民が日本文化に直接触れる機会を醸成し、日本文化の多様性と魅力を紹介する総合的な日本文化紹介事業として開催。合気道などの日本のスポーツから日本の歌のパフォーマンス、折り紙・習字体験コーナー、餅つき、着ぐるみ相撲等を実施した。今年は初の試みとして、浴衣の着付けも行い、本年1月に任命された在テュペロ名誉領事も紹介。

【効果】

3年目となった本事業は、去年の倍近い約600名が参加。関係者・組織が連携して、内外の発信・広報を行ったことにより、本祭りに対する理解が進んだものと思料。また、今年はテュペロ市長に加え、市議会議長を含む議員や同市関係者5名の参加を得るなど、地方自治体の積極的な関与・協力を得ることができており、日系企業も社内にてイベント案内を広く行うなど、関係者の関心・熱意と対日理解の促進に繋がっている。



129 地元経済関係者とのダイアログ(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2018年3月28日

■実施場所 テネシー州メンフィス市

■関係機関 JETROニューヨーク、
メンフィス商工会議所、メンフィス市等

■訴求対象 自治体関係者、企業関係者等

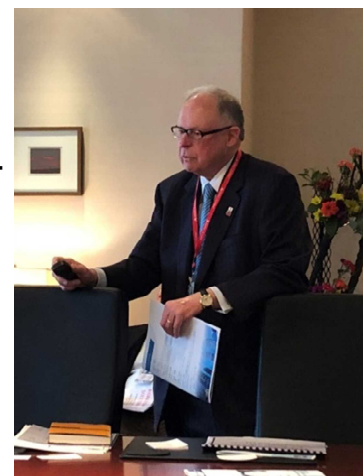
■開催規模 約25名



■概要・効果

【概要】

進出日系企業の抱えている課題が人材確保、人材引き留め、であるというジェトロの日系企業調査の結果を起点として、人材育成への取組、米国人にとって魅力ある職場の条件、日米のマネージメントの違いなどに関して活発な意見交換が行われた。



【効果】

メンフィス商工会議所、テネシー州経済開発庁、テネシー日米協会、など関係機関・団体のキーパーソンに、日系企業の貢献や抱えている課題について発信し、日系企業の活動への理解を深めてもらう機会となった。また、ダイアログ終了後は、メンフィス市長主催のレセプションが行われ、現地関連機関とメンフィス進出日系企業とのコミュニケーションの機会とすることができた。

130 管轄地域内の「桜祭り」支援(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2017年4月9日ほか
- 実施場所 ペンシルバニア州フィラデルフィア市フェアマウント公園内ほか
- 関係機関 フィラデルフィア日米協会、国際交流基金ほか
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 1万5千名ほか

■概要・効果

管轄地域内にて行われる桜祭りに対して、ニューヨーク総領事・大使を始めとする館員の出席による支援及び在外公館文化事業(共催)としての支援等を実施。

フィラデルフィア市における桜祭り(写真上)では同市長が自ら子供向けに紙芝居を実施したほか、ニューヨーク市内ブルックリン植物園における桜祭り(同植物園主催)は2日間で合計約8万1千人が参加。

各行事とも、規模に差はあるも、地元に着した日本文化等発信イベントとなっている。



131 ストーニーブルック校日本エッセイコンテスト (ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2017年4月22日(表彰式)
- 実施場所 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校日本センター
- 関係機関 同校日本センター、キヤノンUSA
- 訴求対象 一般市民(高校生、大学生)
- 開催規模 応募作品220点
- 概要・効果



2005年から開催し今年で12回目。ストーニーブルック校日本センターと、同地近郊に本社を置くキヤノンUSAが実施。毎年、日本文学やアニメなどの日本文化体験、日本への旅行や日本人との交流などを題材に英語でエッセイを募集し、毎年多数の応募がある。キヤノンUSAが賞金・賞品を提供。キヤノンUSA及び総領事は名誉審査員。入賞者を対象に総領事公邸にて昼食会を開催。NY州ロングアイランドにおける日本への理解・関心を高め、日系企業の草の根活動を支援。

132 Japan Day @ Central Park(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2017年5月14日
- 実施場所 ニューヨーク市セントラルパーク内
- 関係機関 Japan Day Inc.、国際交流基金
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約6万名
- 概要・効果



日本文化の紹介、ニューヨーク市への感謝の表明、在留邦人や日系米国人等の草の根交流・連帯強化という目的で2007年から毎年実施。Japan Run(6.4kmのランニングレース)とJapan Day Festivalによって構成。同Festivalでは日本に関連するステージパフォーマンスを行うほか、会場内にアクティビティテント(日本文化紹介、日本の技術紹介など)及びフードテント(お好み焼き、おにぎり等試食)を設置。現地最大規模の日本文化紹介・発信イベントとして定着。



133 NY州政府・州議会へのPR(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2017年6月11日～13日(3日間)
- 実施場所 オルバニー(ニューヨーク州州都)
- 関係機関 カワサキレールカー、日立、清水建設、三菱商事等日系企業13社
- 訴求対象 ニューヨーク州政府幹部、
ニューヨーク州上下両院議長・議員
- 開催規模 約140名

■概要・効果

ニューヨーク州副知事、ニューヨーク州上下両院議長等の要路を日系企業幹部と共に個別に訪問(写真左)するとともに、両院の議場をそれぞれ訪問し、日系企業全体のこれまでのニューヨーク州での雇用及び投資といった経済的な貢献を全体的にPR。さらに、日系企業幹部とニューヨーク州議会議員等を招いたレセプションを開催(写真右)し、各社による具体的な地域への経済的貢献をPR、各議員にこれまでの貢献を再確認させ、感謝の意が示されたとともに、引き続きの関係深化を求める声が相次いだ。



134 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2017年10月3日～6日(4日間)

■実施場所 ①ニューヨーク州バッファロー
②ニュージャージー州イーストオレンジ
③ニュージャージー州プリンストン
④ニューヨーク州ニューヨーク市
⑤ニューヨーク州ウェストチェスター郡

■関係機関 官邸国際広報室
①バッファロー歴史協会、シティオーナーズ高校
②シートンホール大学
③プリンストン大学
④タウンゼンドハリス高校
⑤マーシー大学

■訴求対象 一般市民、高校生、大学生

■開催規模 約20～110名

■概要・効果

「歩こうアメリカ、語ろうニッポン」事業で訪米中の谷口内閣官房参与ほかによる講演会。政治・外交といった普段の生活からは距離のある話題ではなく、多くの一般市民が親しみを持てる話題を通じて、日本の魅力の発信、日米関係の重要性等を発信することで、対日理解の促進、親日感の醸成に大きく寄与した。総領事館は、講演受け入れ機関のアレンジ及び広報等の面で協力。



135 日本語教師会会合(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2017年10月29日

■実施場所 ペンシルバニア州
ハヴァフォード

■関係機関 ハヴァフォード大学

■訴求対象 デラウェアバレー周辺
(ペンシルバニア、ニュージャージー、デラウェア各州)
に所在する大学の日本語教師

■開催規模 約25名

■概要・効果

【概要】

ニューヨーク総領事館広報センター所長による、日米関係についての講演。

【効果】

大学の教育現場で活躍されている日本語教師の方々に対して、現地における総領事館の役割、日米関係について説明するとともに、日本紹介を行うに際しては総領事館からの支援の用意があることを伝え、草の根レベルでのネットワークづくりを行うことができた。



136 カケハシプロジェクト(派遣事業)(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2017年11月2日、9日、14日
2018年2月22日、26日

■実施場所 ニューヨーク総領事館

■関係機関 JICE

■訴求対象 カケハシプロジェクトで訪米中の高校生
(神奈川県立弥栄高校、
埼玉県立和光国際高校、
東京都順天高校)

■開催規模 計75名

■概要・効果

カケハシプロジェクトで訪米中の我が国高校生に対し、総領事館広報センター員から総領事館業務を説明するとともに、日系企業の現地における雇用創出といった貢献、日米の政治・外交・経済面でのつながりの重要性を説明。

併せて、米国とはどのような国かを講演することを通じ、滞在期間中に同高校生らが米国人高校生とどのような関係を築くか、米国の高校生と交流する際の留意点等について参考となる情報を提供することで、我が国の若い世代を代表する「高校生大使・外交官」としての自覚を身につけさせ、米国の同世代の若者に対し親日感を醸成する一助となった。

(写真は11月14日の学生による報告会のもの)



137 カーニー・デラウェア州知事の日系企業視察
(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2018年1月11日

■実施場所 デラウェア州ウィルミントン市

■関係機関 フジフィルムホールディングス
アメリカ社、フジフィルム・
イメージング・カラランツ社

■訴求対象 デラウェア州知事、州経済
開発部局

■開催規模 5名

■概要・効果

【概要】

ジョン・カーニー(John Carney)デラウェア州知事(民)が、デラウェア州ウィルミントン市に立地するフジフィルム・イメージング・カラランツ社を視察するタイミングに合わせ、総領事及び館員も同社を訪問し、同知事と日デラウェア関係について意見交換等を実施するとともに、同社よりビジネス概要及び地域活動等について説明を実施、同知事による同社の工場視察に総領事及び館員も同行した。

【効果】

デラウェア州内の経済再活性化が重要な課題となっているカーニー知事に対し、フジフィルム・イメージング・カラランツ社による同州内の雇用による貢献を直接伝え、また、総領事より同州内に位置する日系企業全体の登録企業数等を説明し、同知事に日系ビジネスコミュニティの重要性を認識させた。さらに、同州と姉妹都市関係にある宮城県が昨年姉妹都市関係20周年イベントを同州内で実施するなど良好な関係が続いていることにも触れつつ、同知事に訪日することを懇願、同知事の訪日に弾みをつけた。



138 ニューヨーク総領事館広報センター長のウエストバージニア州における講演(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2018年1月31日～2月2日

■実施場所

ウエストバージニア州ハンティントン、
グレンビル、ベサニ

■関係機関

マーシャル大学、グレンビル大学、
ベサニ大学

■訴求対象 大学生及び市民

■開催規模 約240名

■概要・効果

【概要】

ウエストバージニア州の3都市を回り、各都市所在の大学で、学生及び市民を対象に、「ハロー・ジャパン」と題する講演を実施し、日米関係(日本企業の米国経済への貢献や北朝鮮の脅威への対応等)、少子高齢化対策への取組(先方希望による)等につき説明・質疑応答を行った。

【効果】

普段頻繁に足を運ぶことができない遠隔地であり、かつ日本との接触が比較的少ない米国人学生・市民に対して我が国への理解を深めてもらう講演を行うこと自体非常に限界効用が高かった。さらに、長年にわたり教鞭を執ってきた日本語教員、JETプログラムに参加した米国人、国際交流基金が関与して派遣されている日米草の根コーディネーターや若手日本語教員等、日頃から日本を紹介する取組を行い、地道に日本ファン確保に貢献している人々とタイアップし、各地での講演を成功させることにより、総領事館と遠隔地の草の根ネットワークの強化をはかることもできた。



139 リチャード・ジョン・ベイヤー氏に対する叙勲伝達式 (ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2018年2月3日
- 実施場所 ニューヨーク州バッファロー市
- 関係機関 なし
- 訴求対象 リチャード・ジョン・ベイヤー氏
と親交の深い米国人
- 開催規模 約85名
- 概要・効果

【概要】

2017年秋の叙勲にて旭日双光章を受章したリチャード・ジョン・ベイヤー氏(元覆面プロレスラー「ザ・デストロイヤー」氏)に対する叙勲伝達式を、同氏の地元に近いバッファロー市内で開催。在バッファロー名誉総領事であるポール・ジョセフ・ケスラー氏の司会により式典を進行し、総領事からの祝辞・勲記勲章伝達、来賓であるマイケル・ランズンホファー・ニューヨーク州上院議員及びデニス・デパオロ氏(プロレス時にベイヤー氏とタッグを組んでいたデパオロ氏の子息)から祝辞及びベイヤー氏本人・ベイヤー氏の子息令嬢から挨拶があった。次いでレセプションに移り、同氏の功績を称えた。

【効果】

総領事が本件伝達式実施に先立って懇談したバッファロー市長を始め、同市内ではベイヤー氏の日本での活躍及び対日功績はあまり知られていないようであったところ、同地選出の州議会議員を含む関係者各位に同氏の対日貢献について知らしめることができ、同地における良好な対日感情の醸成に繋がる結果となった。



140 JETAANY主催JET30周年記念ガラパーティー
(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2018年2月3日

■実施場所
ニューヨーク州ブルックリン

■関係機関
JETAANY主催
自治体国際化協会(クレア)
NY事務所共催



■訴求対象 JETAANY(JET・OBの集まり)

■開催規模 約80名

■概要・効果

【概要】

JETプログラムが2016年に30周年を迎えたことを受け、JETAANY支部がニューヨーク周辺のみならず全米各地のJETAA会員が参加する記念パーティーを開催した。

当日は、歴代JETAANY会長を始め約70名のJET経験者が集まり旧交を温めた他、NY太鼓愛好会による演奏、JET経験者による日本の思い出紹介、豆まき等が行われた。総領事館からは佐藤広報センター長が出席しJETを通じた日本での経験を米国内で広く宣伝してほしいとスピーチを行い、JETAANY会長より、日本のファン代表として米国内で日本のすばらしさを伝える友好大使として行動することがJET・OBの使命であると述べた。

【効果】

JET経験者や日本関係者の人脈形成、JET参加者たちの日本への関心の喚起・維持促進を図り、もって知日派の育成に努めることができた。



141 ニューヨーク市立大学ハンター校における日本文化紹介
(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2018年2月16日
- 実施場所 ニューヨーク州ニューヨーク市
- 関係機関 ニューヨーク市立大学
ハンター校
- 訴求対象 ニューヨーク都市圏にて日本文化に関心を持つ大学生及び一般市民
- 開催規模 約110名



■概要・効果

【概要】

2017年(平成29年)度在外公館文化事業として、ニューヨーク市立大学日本語・日本文化科との共催で、「殺陣」のレクチャー、デモンストレーション及びワークショップを実施。講演/公演は、藝道殺陣波濤流NYの香純恭代表に依頼し、日本の時代劇には必須の殺陣について、その歴史等を知ってもらうとともに、パフォーマンスアートとしても確立しうるものであることを紹介し、もって現地若年層における親日層及び知日層の拡大を図った。総領事館からは担当領事が出席し挨拶。

【効果】

同校は日本語・日本文化科のほか、演劇学科など今回の事業と親和性のある学科がほかにもあり、これまで日本文化に関心のなかった学生に対しても訴求した。会場内で実施したアンケートにおける満足度調査でも98%の参加者が内容に満足したとの結果であった。また、会場内で聴取したところ、同代表ほか出演者6名が全員女性である中でサムライパフォーマンスを実施したことに驚きの声があったが、固定概念を打破する意味でも有意義であった。

142 対日理解促進交流プログラム(カケハシプロジェクト) (ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2018年2月19日～27日

■実施場所 ニューヨーク州
ニューヨーク市

■関係機関 ベイサイド高校

■訴求対象 クイーンズ地区在住の高校生

■開催規模 高校生21名

■概要・効果

【概要】

ニューヨーク市クイーンズ地区にある
ベイサイド高校の生徒21名を「対日理解促進交流プログラム(カケハシプロジェクト)」にて日本に招へいし、ホームステイ、歴史文化視察、学校交流を実施。

【効果】

同地区は、アジア系を中心に多民族が居住する地域。本件事業を通じ、日本の真の姿に対する理解を深めるとともに、親日感の醸成に寄与した。本件招へいについては、学校側で校内ニュースレターに特集記事を掲載し、5千名を超える学校関係者に配布予定。また、校内でも今後訪日の報告会実施を検討中。



143 高橋総領事・大使のピッツバーグにおける講演
(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2018年2月22日

■実施場所 ペンシルベニア州
ピッツバーグ市

■関係機関 ペンシルベニア州日米協会
(三菱電機パワープロダクツ)

■訴求対象 ピッツバーグ都市圏にて日本
文化に関心を持つ大学生及び
一般市民

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

ピッツバーグ市を中心に活動するペンシルベニア日米協会が毎年数回三菱電機パワープロダクツ(MEPPI)の資金協力を得て実施するMEPPI JAPAN LECTURE SERIESに総領事が講師として出講し、US-Japan Collaborationとして、ピッツバーグ市を始めとするペンシルバニア州と日本との文化的な関わり、姉妹都市等、日米経済関係の現状(日系企業の貢献度)、北朝鮮情勢等について講演を行った。

【効果】

ペンシルバニア日米協会担当者によれば、本講演会シリーズは、毎回の出席者が30名~40名程度で推移していたところ、今回は70名の定員に達し、キャンセル待ちが生じるなど、大盛況であった。経済関係では、ペンシルバニア州に本拠を置く日系企業がいかに雇用を創出しているかという内容についても講演し、米国において日本が果たしている役割の理解促進に及び親日感情の増進につながった。



144 高校生日本語スピーチコンテスト(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2018年3月2日
- 実施場所 ペンシルベニア州
ピッツバーグ市
- 関係機関 ペンシルベニア日米協会及び
ピッツバーグ大学
- 訴求対象 ピッツバーグ都市圏にて日本
文化及び日本語に関心を持つ
大学生及び高校生等
- 開催規模 約90名



■概要・効果

【概要】

2017年(平成29年)度在外公館文化事業として、日本語を学ぶ高校生を対象に、スピーチコンテスト及びポスターコンテストを実施(ペンシルバニア州日米協会等と共催)。スピーチコンテストはレベル別に個室にて審査を行い、優秀生徒は壇上にてスピーチを行う。ポスターコンテストは日本語の授業が提供されていない高校等の生徒が、独自に日本について調べた結果を発表するもの。また、合わせて日本文化紹介のためのブース(浴衣体験、書道体験など)を設ける。総領事館から賞品を提供し、担当領事がポスターコンテスト審査員として出席するとともに挨拶を行った。

【効果】

高校生の日本文化に対する理解を促進し、日本語及び日本文化への学習意欲の向上を図り、もって知日派の育成に努めることができるほか、本イベントを毎年1回継続的に実施することは、同地域における日本語教育の維持に一定の役割を果たしている。

145 “Enjoy My Japan” グローバルキャンペーン キックオフイベント (ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2018年3月13日
- 実施場所 ニューヨーク州ニューヨーク市
タイムズスクエア
トムソン・ロイター本部ビル
- 関係機関 日本政府観光局(JNTO)
- 訴求対象 メディア関係者及び
旅行業界関係者
- 開催規模 約150名

■概要・効果

【概要】

訪日外国人旅行者数及び同旅行消費額に関する政府目標(それぞれ、2020年までに4000万人及び8兆円)の達成に向け、「外国旅行には積極的であるにもかかわらず、訪日観光に関心が無い層」に対して訪日需要を掘り起こす必要があるとの観点から、観光庁及びJNTOは、2018年2月より欧米豪において、日本の多様なアクティビティの魅力を発信するキャンペーンを開始したところ、ニューヨークにおいても、JNTO主催で、本キャンペーンの開始を広く周知することを目的としたキックオフイベントを実施。本イベントでは、総領事・大使による来賓挨拶、ホストを務めるJNTO松山理事長による本キャンペーンに関するプレゼンテーションの後に、現地在住の著名人による訪日観光トークショー等が行われた。

【効果】

現地においてソーシャルメディアで大きな発信力を持つブロガーを含めた多数のメディア関係者や旅行業界関係者に対し、日本の観光魅力をアピールすることを通じて、訪日無関心層へ効果的に情報発信を行い、日本への興味を高めることに貢献した。



■実施時期 2018年3月14日～3月17日

■実施場所 ニューヨーク州ニューヨーク市
グランドセントラル駅構内

■関係機関 日本政府観光局(JNTO)

■訴求対象 地元住民(通勤客)

■開催規模 約10万名(延べ人数、推計)

■概要・効果

【概要】

訪日観光促進を目的として、通勤客が多数行き交うターミナル駅であるグランドセントラル駅構内において、JNTOが2012年より毎年テーマを決めて主催しており、今回で7回目の開催。今回のテーマは「トリックアート」であり、日本の観光名所や文化をモチーフとした各種トリックアートを会場内に展示し、来場者に撮影してもらおうとともに、その写真をソーシャルメディアに投稿してもらおうことにより、日本の魅力を効果的に周知することが狙い。本イベントは、総領事館を含む各団体の後援の下で開催され、初日に行われた開会式では、メディア関係者等を前にして総領事・大使が来賓挨拶を行った。また、会場では、日本の伝統文化、ハイテク商品等を紹介するため企業・団体がブースを出展し、日本の魅力を総合的にPRすることを通じて、我が国への米国人観光客の観光需要喚起を実施した。

【効果】

多くの来場者が出展ブースの内容を楽しむとともに、会場内で写真を撮影する姿が見られた。幅広い層の来場者に多角的に訪日観光の魅力を伝えることにより、訪日観光に対する認知及び関心の向上に寄与した。



①47 アニメ祭り発起人に対する在外公館長表彰 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2017年4月7日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
(於:ジョージ・ブラウン・コンベンションセンター)

■関係機関 アニメ祭り実行委員会

■訴求対象 一般市民、ヒューストン市関係者

■開催規模 5万名以上

■概要・効果

【概要】

総領事がアニメ祭りオープニングセレモニーに招待された機会を捉え、同祭りの発起人・会長であるジョン・レイ、デニス・レイ夫妻の功績をたたえるため、在外公館長表彰を実施。

【効果】

今年で11回目を数える同祭りは日本の総合的なアニメの祭典として、ヒューストンのみならず全米各州からも参加者があり、参加者数の伸び率は北米で最も高く、急激に成長。日本のポップカルチャーをヒューストン、テキサスだけではなく、全米に強く発信できる催しともなっている。また、本年は、ターナー・ヒューストン市長が、リボンカッティングセレモニーに参加、本イベント開催日を「セーラームーンの日」と認定するなど、ヒューストン市からの関心も強まった。



148 日本庭園開園25周年記念式典(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2017年5月2日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
ハーマンパーク内日本庭園
- 関係機関 ハーマンパーク管理事務所、
ヒューストン市
- 訴求対象 ヒューストン市関係者、
日米交流関係者
- 開催規模 約150名



■概要・効果

【概要】

日米両国民の友好・友情のシンボルとしての位置付けの下、ヒューストン市及び日系コミュニティの協力を得て開園した日本庭園が25周年を迎える機会を捉え、冠木門と枯山水の建設が進められ、これらの完成と開園25周年を記念して今回の式典が開催。

【効果】

クリスティー・ヒューストン市議会議員(急用により欠席となったターナー・ヒューストン市長の代理出席)から、日米友好の証である日本庭園が25周年の節目を迎えたことを嬉しく思うとともに、関係各位に感謝する旨の挨拶があり、本年5月1日から7日を日本庭園ウィークとする旨のターナー市長による宣言書が総領事に手交。ヒューストン市が所有・管理している公園の中で国の名前を冠した施設を設けているのは、日本のみ。ヒューストン市が同庭園を日本との友好のシンボルとして重視していることや日米友好関係を再確認する機会となった。

149 ジャパン・フェスティバル（ヒューストン総領事館）

■実施時期 2017年5月6日～7日

■実施場所

テキサス州ヒューストン市
ハーマンパーク

■関係機関

ジャパン・フェスティバルInc.
ヒューストン市日本商工会等

■訴求対象

一般市民、学生、日本関心層

■開催規模 約3万名

■概要・効果

【概要】

2日間で3万人以上が集まる
ジャパン・フェスティバルで

我が国文化を紹介することにより、知日家・親日家に対日理解・関心を一層深めてもらうことに加え、これまで日本文化に馴染みのなかった現地一般市民に対しても日本文化の魅力を紹介し、知日家・親日家層の育成及び拡大を目的とする。

【効果】

総領事館ブース(こけし作り、にぽにか配付)は高い人気を博し常に人だかりができた。また、神楽踊り公演やヒューストン市日本商工会による縁日も非常に好評であった。

また、本年は初めてヒューストン市長がオープニングセレモニーにて挨拶を行うなど現地の日本への関心の高まりを感じることができた。



150 アジア・太平洋月間における日本文化紹介 (ヒューストン総領事館)

■実施時期 2017年5月

■実施場所

NASA(ジョンソンスペースセンター)
Asia Society、
総領事館多目的ルーム等

■関係機関

NASA(ジョンソンスペース)センター
Asia Society 等

■訴求対象

日本関心層、一般市民

■開催規模 計500名

■概要・効果

【概要】

アジア・太平洋月間である5月に、各種団体のアジア・太平洋イベントやアジア・フェスティバルにおいて日本文化を紹介しており、現地を代表するNASA内のアジア・太平洋イベントにも総領事館ブースを出展したり、NASA内の保育所に通う子ども達を総領事館多目的ルームに招待し、日本文化を紹介する。

【効果】

各イベントにおいて、簡単なクラフトや折り紙を実施したところ、非常に好評であった。特に、NASAについては現地に日本人宇宙飛行士が多くいることから日本に対する関心が高く、総領事館ブースに足をとめて日本について質問したり、次の夏休みは日本に行きたいと話す参加者も多かった。また、NASA内の保育所に通う子ども達には、日本語の歌、ラジオ体操など、楽しみながら日本を体験してもらったところ、子どものみならず保護者からも非常に高い評価を受けた。



151 七夕祭り(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2017年7月7日

■実施場所

テキサス州ヒューストン市子ども博物館

■関係機関

ヒューストン市子ども博物館

ヒューストン日米協会

■訴求対象

日本関心層、一般市民

■開催規模 約500名

■概要・効果

【概要】

ヒューストン子ども博物館という子ども連れの家族に人気の博物館との共催にて、短冊作成、笹の飾り付け、紙芝居、盆踊り体験等日本の七夕にまつわる様々な日本文化紹介事業を行うとともに、ポストカードを用いたスタンプラリーを実施し、完成したポストカードを友人や家族・親戚に送り、七夕について広めてもらう。

【効果】

相当数の一般市民が七夕飾りや七夕の物語を目にし、日本に対する理解を深めたと思われる。今年は博物館奥にステージを設け、紙芝居(七夕の物語)、現地日本紹介グループであるショーイング・ジャパンによる日本舞踊の披露、盆踊り(炭坑節、ポケモン音頭)など、1時間ごとにイベントを実施したところ、七夕イベント参加者のみならず、多くの来場者が足を止めてイベントに見入っており、非常に効果的であった。また、ポストカードも非常に好評で、遠方に住む家族や友人に七夕の経験を共有する内容のものが多く見られ、日本への理解を深めることができた。



①52 千葉市・ヒューストン市姉妹都市提携45周年記念答礼レセプション(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2017年10月11日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市役所内レガシーホール
- 関係機関 千葉市
- 訴求対象 ヒューストン市関係者、日米交流関係者
- 開催規模 約120名

■概要・効果

【概要】

10月9日から12日まで、熊谷千葉市長を団長とする千葉市公式訪問団がヒューストン市との姉妹都市提携45周年を記念して現地を訪問。訪問の締めくくりとして、また、関係者間の意見交換促進のため、総領事館と同市共催でレセプションを開催。熊谷市長から、千葉市の魅力、国家戦略特区としての活動状況、2020オリンピック・パラリンピックなどを紹介。

【効果】

今次訪問では、ハリケーン後の復旧段階にあるヒューストン市に対し、千葉市からのお見舞い金やメッセージの寄せ書きを熊谷市長からターナー市長に直接手交し、さらには、青少年交流の受入校を訪問するなど姉妹都市関係における強い絆を確認できた。また、レセプションには姉妹都市交流に関わった関係者が一堂に会し、姉妹都市交流に関して意見交換をするなど、今後の更なる関係強化に向けた良い機会となった。



153 日本人バレエダンサーに対する在外公館長表彰
(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2017年11月2日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市
ハーマンパーク内ミラーアウトドアシアター

■関係機関 特になし

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

ヒューストンバレエの一員として活躍する傍ら、東日本大震災チャリティ公演のプロデューサーや日本の昔話である「鶴の恩返し」をベースとした全幕創作バレエ作品「Tsuru」への出演、ヒューストン市・千葉市姉妹都市提携45周年記念公演などを実施したバレエダンサーの楠崎なお氏に対し、ハリケーン・ハービーの影響で延期となっていた「Tsuru」公演が行われた機会を捉え、公演終了後のカーテンコールの中、総領事がステージ上において、楠崎氏の功績について述べた後、楠崎氏に在外公館長表彰状を手交。

【効果】

同氏の活躍により、現地の人々の日本に対する理解と関心が大きく高められたこと、及び姉妹都市交流を始めとした草の根レベルの日米友好関係が強化されており、今回の表彰においても、会場から大きな拍手が沸き上がり、ヒューストン市民も楠崎氏の功績を讃えた。



154 ヒューストン日本商工会創立50周年記念行事
(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2017年11月11日
- 実施場所 テキサス州ヒューストン市
ヒューストン大学内ヒルトンホテルレセプションホール
- 関係機関 ヒューストン日本商工会
- 訴求対象 ヒューストンの地元政財界要人、日米交流関係者
- 開催規模 約200名

■概要・効果

【概要】

地元への謝意表明を目的として開催されたヒューストン日本商工会創立50周年記念レセプションにおいて総領事の祝辞後、同会の功績を評するとして、同会会長に在外公館長表彰状を手交。その足取り等についても紹介、日本企業のプレゼンスの重要性と今後の更なる関係強化への期待を出席者が共有。なお、総領事館館員は、実行委員の一人として準備過程から協力。

【効果】

同レセプションにはターナー・ヒューストン市長を始め地元政財界等の要人等が出席し、また、ニューヨークを拠点に活躍するバイオリニスト五嶋龍氏と地元音楽家との共演となったコンサートも開催し、売り上げをヒューストン大学に寄付。さらに、同商工会が今夏のハリケーンハービーによる被害に対し義援金10万ドルを拠出し、本件イベントの機会にあわせて、災害に強い街作りへの研究支援のために基金10万ドル拠出をしたことを受け、地元関係者が同会の重要性を認識する貴重な機会となった。また、日本政府と経済関係者が連携して地元関係者との関係促進を行っていることをアピールする機会ともなった。



155 講師派遣事業「日米関係」(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年1月29日～31日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市、ダラス市

■関係機関

- (1)ヒューストン大学、(2)ライス大学、
- (3)南メソジスト大学タワーセンター

■訴求対象

各大学講師、学生、各地日系関連団体関係者、日本関心層

■開催規模 (1)約50名、(2)約70名、(3)約80名

■概要・効果

【概要】

阿川尚之・同志社大学特別客員教授が、「Japan-U.S. Relation in the Changing World-North Korea, China and America First」をテーマに、変化の激しい現代において米国、東アジア、太平洋地域をはじめ各地で生じている変化、日本が直面している課題(超高齢化社会、福祉、東アジア関係等)、日米関係、日米安全保障などについて講演を行った。

【効果】

聴衆は熱心に講演に聞き入り、講師のユーモアあふれる話しぶりに笑うなど、非常に良い雰囲気での講演会となった。日米関係や日本の立場について、北朝鮮問題、中国との関係といった時宜を捉えたトピックに落とし込んで講演いただいたことで、聴衆の関心を惹くことができ、かつ、日米関係の重要性について理解を得られた。

156 ヒューストン市日本語スピーチコンテスト(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年2月10日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市

■関係機関

ヒューストン市内高校、大学
ヒューストン市日米協会
テキサス州日本語教師会
ヒューストン市日本商工会

■訴求対象

高校生、大学生、その両親

■開催規模 80名

■概要・効果

【概要】

ヒューストン市で日本語を学ぶ学生が日頃の日本語学習の成果を披露するスピーチコンテスト。中学生、高校生、大学生から広く参加者を募り、詩の暗唱部門、俳句部門、大学生部門及び日本語フリースピーチ2部門の合計5部門において日本語能力を競う。

【効果】

日本語教育の振興、日米の文化交流促進の観点から重要なイベントであり、将来の親日派育成に向け、日本への関心と理解を高めることができた。さらに、今年は姉妹都市である千葉市から入賞賞品の寄付を受けたり、その他米日協会から寄付を受けた自治体グッズをラッフルの賞品にするなど、姉妹都市や日本の各都市を身近に感じられる工夫を行ったところ、参加者に大変好評であった。



157 JETプログラム帰国歓迎レセプション(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年2月11日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市

■関係機関

JETAA TEXOMA
(テキサス州&オクラホマ州支部)
ヒューストン市日本商工会、日本人会

■訴求対象

JETプログラム帰国者、企業関係者等

■開催規模 44名

■概要・効果

【概要】

総領事からのスピーチの後の歓談を挟み、帰国JET代表による挨拶、JETAA会長による挨拶及び写真撮影を行い、再度歓談に移った。今年度は、6名の帰国JETをはじめとする44名が参加し、活発なネットワーキングが行われた。

【効果】

JETプログラムから帰国後の米国人青年の日本とのつながりを奨励するとともに、現地での日本関連コミュニティにおける人脈構築を支援した。



158 講師派遣事業「日米安保」(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年2月27日～3月1日

■実施場所 テキサス州サンアントニオ市

■関係機関

テキサス大学サンアントニオ校東亜学院

■訴求対象

各大学講師、学生、
日系関連団体関係者、日本関心層

■開催規模 100名

■概要・効果

【概要】

番匠幸一郎・丸紅株式会社顧問が、

「The Inseparable Bond Japan-U.S. Security Relations-Past, Present & Future」をテーマに、自衛隊のイラク派遣や災害復旧活動、東日本大震災の際のトモダチ作戦について、ご自身の経験を交えて説明。北朝鮮、中国の軍事力増強、南シナ海問題、ロシアとの関係、インド太平洋戦略等、最後に最近の日米関係及び今後の日米協力関係の展望について講演した。

【効果】

姉妹都市である熊本市にまつわるエピソードや、テキサス出身の米軍関係者(ニミッツ提督、ウォルシュ太平洋司令官)を紹介いただいたことで、聴衆の関心を特に惹きつけることができ、かつ、日米関係の重要性について理解を促進できたものと思われる。また、通常であれば東亜学院の幹部でも十分な接点を有していない様子のROTCや退役軍人等に対して情報発信することができたことについても、非常に有意義であった。



159 在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業(JUMP)
(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年2月28日

■実施場所 テキサス州サンアントニオ市

■関係機関

サンアントニオ駐在自衛隊関係者
サンアントニオ日米協会関係者等



■訴求対象

在日米軍駐在経験者、
サンアントニオ駐在自衛隊関係者
サンアントニオ日米協会関係者等

■開催規模 66名

■概要・効果

【概要】

講師派遣のスキームにより、陸上自衛隊西部方面総監陸将を務められた番匠幸一郎・丸紅株式会社顧問が、米軍基地を擁するサンアントニオを訪問する機会を捉え、在日米軍経験者、同地で語学研修中の自衛隊関係者、サンアントニオ日米協会関係者らを招待。冒頭、番匠顧問及びバートン元第7艦隊司令官が挨拶をし、トモダチ作戦や日米同盟の強固さ、今後の日米友好関係の展望について述べた。

【効果】

番匠顧問にゆかりのある参加者が非常に多く参加し、大変和やかな雰囲気の中で歓談が行われた。参加者からは、日本勤務時代を振り返ると共に、日米関係の重要性を再認識する大変有意義な機会であったと感謝する声が多く聞かれてた。また、レセプション会場に日本酒試飲カウンターを設け、宮城県、福島県、熊本県(サンアントニオと熊本市が姉妹都市)の日本酒を提供したところ、非常に好評であった。



160 テキサス州日本語スピーチコンテスト(ヒューストン総領事館)

■実施時期 2018年3月10日

■実施場所 テキサス州ヒューストン市

■関係機関

ヒューストン市内高校、大学
ヒューストン市日米協会
テキサス州日本語教師会
ヒューストン市日本商工会
JETAA TEXOMA

■訴求対象

高校生、大学生、その両親

■開催規模 約130名

■概要・効果

【概要】

テキサス州で日本語を学ぶ学生が日頃の日本語学習の成果を披露するスピーチコンテスト(ヒューストン、オースティン、サンアントニオ、ダラスの各地区大会の入賞者上位2名が対象)。中学生、高校生、大学生のみならず一般から広く参加者を募り、詩の暗唱部門、俳句部門、大学生部門、日本語フリースピーチ2部門及びオープン部門の合計6部門において日本語能力を競う。

【効果】

日本語教育の振興、日米の文化交流促進の観点から重要なイベントであり、将来の親日派育成に向け、日本への関心と理解を高めることができた。更に、今年は出場資格に制限のないオープン部門の参加者は昨年の3倍となり、日本への留学経験者(学生・社会人共に)や補習校生徒など、多種多様な参加者を得ることができ、非常に盛り上がった。



161 アニメ祭りにおける日本文化紹介（ヒューストン総領事館）

■実施時期 2018年3月30日、31日

■実施場所

テキサス州ヒューストン市
ジョージ・ブラウン・コンベンションセンター

■関係機関

アニメ祭り実行委員会

■訴求対象

日本関心層、一般市民

■開催規模 5万名以上

■概要・効果

【概要】

今回で12回目を迎えるアニメ祭りで我が国文化を紹介することにより、知日家・親日家に対日理解・関心を一層深めてもらうことに加え、これまでアニメ以外の日本文化に馴染みのなかった層に対しても日本文化の魅力を紹介し、知日家・親日家層の育成及び拡大を目的とする。

【効果】

総領事館ブースで実施したオリジナルこけし作成ワークショップは非常に好評で、作成したこけしを手に、伝統的なこけしやこけしに関する説明パネルの前で写真を撮る参加者が多くみられ、若者の日本の伝統工芸に対する理解促進について大変効果的であったと思料。また、総領事館パネルでは学校生活をテーマに、実際の学校生活とアニメの中の学校生活の異同について説明し、クイズ大会を実施するなど楽しみながら日本への理解を深めることができた。



162 在日米軍経験者とのネットワーク構築強化事業 (ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年3月25日
- 実施場所 ボストン総領事公邸
- 関係機関 米海軍大学
- 訴求対象 在日米軍経験者(含むトモダチ作戦参加軍人)
- 開催規模 約75名
- 概要・効果

在日米軍経験者の陸海空の米軍幹部候補生が多数在籍する米海軍大学の協力を得て、ネットワーク構築強化事業を実施。ジェフリー・ハーレー海軍少将・米海軍大学校長、知日派として知られるジェームズ・ケリー海軍少将・元在日米軍海軍司令官他を来賓に迎え、米海軍大学に在籍する米軍幹部候補生及び家族と総領事及び館員との交流を深めた。現地フレッチャースクールに留学中の防衛省及び海上幕僚監部幹部候補生も参加。イベントでは東日本大震災後にトモダチ作戦に参加した軍属がスピーチし、同作戦は日本勤務時の最も過酷な任務であったが、自衛隊との共同行動を通じ、最も日米同盟の絆の強固さを実感したと述べた。

米原子力空母ジョージ・ワシントンの横須賀入港の実現、在日米軍と横須賀市の災害時救援活動覚書締結等、多数の功績と傑出したリーダーシップを讃えられ、離日時に外務大臣から感謝状を送られたジェームス・ケリー海軍少将・元在日米軍海軍司令官。現在も日本の和紙で作った名刺を使い、日本語で「ジェイミー・ケリー」と刷り込んでいる。日本勤務時の経験は楽しいものばかりでなく、在日米海軍軍属が日本人を傷つける事故を起こした、ケリー司令官にとり辛く胸が痛む事件も。ケリー少将は、それらを乗り越え日本における在日米軍の信頼を高めるため努力した経験を語った。



163 ボストン日本祭り(ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年4月30日
- 実施場所 マサチューセッツ州ボストン市・ボストンコモン
- 関係機関 ボストン日本祭り実行委員会、ボストン日本商業会、ボストン日本人会、ボストン日本協会、昭和ボストン、ニューイングランドJET同窓会米海軍大学、国際交流基金
- 訴求対象 ボストン周辺の一一般市民
- 開催規模 のべ約6万名
- 概要・効果

日本からアメリカへのさくら寄贈100周年に当たる2012年に開始され、毎年ボストン市内で実施されている日本祭り。開始6年目を迎えて着実にボストン市民の間で定着してきており、2017年には日本食その他のブース100以上の出展に加え、大小2つのステージでは雅楽のパフォーマンスやコスプレコンテスト、ワークショップコーナーでは茶道、書道や折り紙などの紹介などが行われ、来場者約6万人を集めるなど、ニューイングランド最大規模の日本祭りとなった。

総領事館は共催者として会場費等の一部負担するほか、ワークショップコーナーの運営を担当しパフォーマーとの調整や、風呂敷の使い方に関するデモンストレーションなどを行った。

ボストン市の中心にあるボストンコモンにおいて大規模な日本祭りを開催することで、知日層のみならず現地一般市民に広く日本文化を紹介する大きな機会となっている。また、イベントに向けた準備過程においては、日本人、米国人双方を含めた現地日本関連コミュニティが一致団結し、友好関係を高める効果があった。



164 日米大学野球(ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年7月12日～17日(6日間)
- 実施場所 マサチューセッツ州、ニューハンプシャー州、コネチカット州各地
- 関係機関 US Baseball、Future Collegiate Baseball League of New England、全日本大学野球連盟
- 訴求対象 ニューイングランド周辺の一般市民
- 開催規模 のべ約3千名

■概要・効果

隔年で開催されている日米大学野球選手権大会がニューイングランド地域(マサチューセッツ州、ニューハンプシャー州及びコネチカット州)にて実施された。

総領事館はホームページ等を通じた現地市民及び邦人に対する案内、国歌斉唱を行った現地在住歌手の実施団体への紹介などを実施したほか、本拠となったウースター大学スタジアムでの試合では総領事が始球式を行い、スポーツを通じた日米友好親善をアピールした。



165 ニューポート黒船祭り(ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年7月14日～16日(3日間)
- 実施場所 ロードアイランド州ニューポート市内各所
- 関係機関 ロードアイランド州日米協会
- 訴求対象 ロードアイランド州及びボストン周辺の一般市民
- 開催規模 のべ約1万名
- 概要・効果

「黒船艦隊」を率いて江戸湾に来航したペリー提督の出身地であるロードアイランド州ニューポート市において、同提督の偉業とその後の日米交流を祝うために1984年以降毎年夏に実施されているイベントで、今年は第34回目となった。

市内中心部において大太鼓演奏等の日本伝統楽器による演奏、日本伝統武道のデモンストレーション、折り紙・書道ワークショップ、茶道・生花デモンストレーション等の多彩な事業やロードアイランド州日米協会主催のガラ・ディナーが開催され、総領事館は一般市民が多く訪れる「the Arts and Craft Fair」における日本文化紹介を共催した。

黒船と縁のある下田市(ニューポート市と姉妹都市)及び函館市から両市町を団長とする訪問団が出席した他、今年は本イベントに合わせて自衛隊練習艦隊がニューポートに寄港し、音楽隊による演奏や、関係者約200名を招いた艦上レセプションが実施され、友好ムードを盛り上げた。



166 ジョン万次郎祭り(ボストン総領事館)

■実施時期 2017年10月7日

■実施場所 マサチューセッツ州フェアヘブン市内各所

■関係機関 万次郎ホイットフィールド友好協会

■訴求対象 フェアヘブン/ニューベッドフォード市及びボストン周辺の一
般市民

■開催規模 のべ約4千名

■概要・効果

日本人として初めて米国に居住したジョン万次郎と同人を支援したホイットフィールド船長の交流を記念し、土佐清水市(ジョン万次郎の故郷でフェアヘブン・ニューベッドフォード市と姉妹都市)と隔年で開催されている行事で、総領事館と共催で市内各所で茶道、生け花、和太鼓や尺八等のデモンストレーションなどが行われた。

本年は土佐清水・フェアヘブン/ニューベッドフォード姉妹都市提携30周年に当たり、今次万次郎フェスティバルに参加するため、泥谷市長を団長とする土佐清水使節団が来訪したほか、万次郎が帰国時に上陸した縁のある沖縄・万次郎友好協会が日本からフェアヘブンを訪問した。

フェスティバル翌日にニューベッドフォード捕鯨博物館において開催された友好晩餐会(万次郎ホイットフィールド友好協会主催)の場では、同捕鯨博物館と土佐清水市ジョン万次郎資料館との間の協力協定が署名された。



167 ノースイースタン大学における総領事講義(ボストン総領事館)

■実施時期 2017年10月12日

■実施場所 マサチューセッツ州ボストン市ノースイースタン大学

■関係機関 ノースイースタン大学ワールドランゲージセンター日本語プログラム

■訴求対象 ノースイースタン大学日本語クラス受講学生

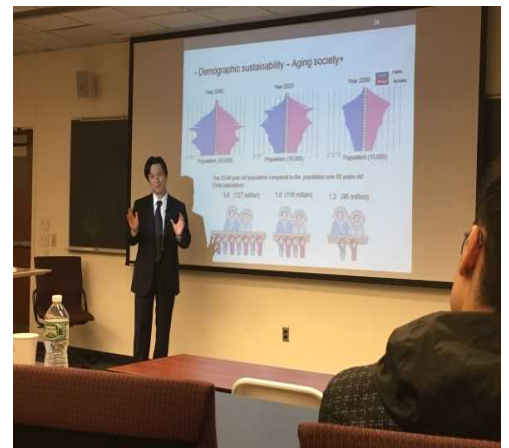
■開催規模 約50名

■概要・効果

総領事が「Japan Now: Our Challenges, Our Opportunities, and Our Future」と題する講義を行い、日本社会・経済の現状、課題、強み等について講義を実施した。

質疑応答では、日本の政治・経済、高齢化、交通インフラ、エネルギー政策、日米関係、安全保障上の課題について、多数の質問がなされた。

日本に関心を持つ学生に対して、総領事自らが日本の現状や課題を具体的データや事例を用いて説明したことで、学生達の現在の日本に対する理解を深めることができた。



168 Japan Innovation Night(ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年11月2日
- 実施場所 マサチューセッツ州ケンブリッジ市
ケンブリッジ・イノベーション・センター(CIC)
- 関係機関 CIC、CICベンチャーカフェ、日本貿易振興機構(ジェトロ)
- 訴求対象 ボストン周辺の起業およびイノベーション・コミュニティー
関係者(ベンチャー企業、起業家、大企業、起業支援組織関係者、
個人投資家、ベンチャーキャピタル、コンサルタント等)
- 開催規模 678名
- 概要・効果

ボストンの起業支援システム(エコシステム)の中心地CICにて日本のイノベーションの現状を紹介するイベントを開催(CICベンチャーカフェ主催、総領事館協力)。

イベントでは、①ミレニアム世代による日本のイノベーション紹介、②女性社会起業家による日本の現状発表、③ボストン進出日系大企業4社によるパネル・ディスカッション(ボストン周辺ベンチャー企業に何を求めるか)を実施。併催したネットワーキングでは、日系ベンチャー企業によるデモテーブル、ジェトロによる対日投資促進情報テーブルを設置。ボストン総領事館はパネリスト選定への協力、事前広報、総領事によるパネル及びネットワーキングでの冒頭挨拶等を行った。

予想を遙かに上回る678名が参加。日本のイノベーションについて広く知ってもらうことができた。また、パネル・ディスカッションに参加した日系企業には、パネル後、ベンチャー企業やコンサルタント等からコンタクトが相次ぎ、将来的なビジネス連携につながるものとなった。



- 実施時期 2017年11月18日
- 実施場所 マサチューセッツ州ケンブリッジ市ハーバード大学
- 関係機関 日本学術振興会(JSPS)(共催)、ハーバード大学ライシャワー日本研究所、Branchfood、海外日本人研究者ネットワーク(UJA)(後援)
- 訴求対象 ボストン周辺の科学技術分野研究者、ライフサイエンス産業関係者、食品等企業関係者等
- 開催規模 約150名
- 概要・効果

学術都市ボストンと日本のアカデミアの交流強化及び日本の科学技術力の発信のために2016年度から開催。2016年度は少子高齢化、2017年度は食をテーマとした。

冒頭、総領事、平田JSPSワシントン連絡センター長、JSPSとゆかりのあるエリオット・ハーバード大学副学長、ヘンシュ同大学教授が挨拶し、オオエMIT教授の司会のもとで、ベスター・ハーバード大学ライシャワー日本研究所所長、アダモウィクス・EchoCEO、山下キヤノングローバル研究所研究主幹、イスラム・ワイオミング大学准教授、村井コーネル大学助教の和食・

肥満・食品包装・農業などの食に関連する多角的な講演が行われた。パネル・ディスカッションではオオエ教授がモデレーターとなり、石井MIT教授、バークマン・タフツ大学フレッチャー校教授、エステップ・ヴェリタス・ジェネティクスCSO、パウエル・ウッズホール海洋研究所リサーチ・スペシャリスト、アブダ・ブランチフード創設者及び総領事が食の政策的課題について産業界・学術界・科学技術外交・デザイン等それぞれの専門分野の視点から議論を行った。

参加者はドイル・ハーバード大学教授などの研究者、企業関係者など日米の約150人。総領事館はJSPSとイベントを共催し、ボストン周辺の講演者の選定、参加者の広報等主体的に運営に携わった。



170 講師派遣事業「日米関係」(ボストン総領事館)

- 実施時期 2018年2月5日
- 実施場所 コネチカット州ニューヘイブン市
- 関係機関 イェール大学
- 訴求対象 イェール大学国際関係専攻学生、同大教授、有識者
- 開催規模 約50名



■概要・効果

【概要】

阿川尚之・同志社大学特別客員教授が、「Japan-U.S. Relation in the Changing World-North Korea, China and America First」をテーマに、変化の激しい現代において米国、東アジア、太平洋地域をはじめ各地で生じている変化、日本が直面している課題（超高齢化社会、福祉、東アジア関係等）、日米関係、日米安全保障などについて講演を実施。

【効果】

トランプ政権下における日米関係について、将来のオピニオンリーダーとしての高い潜在力を有する現地大学（イェール大学）学生及び有識者に対してインプットするとともに活発な議論を喚起することができた。

171) Kawaii Konにおける日本紹介(ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年4月7日～9日(3日間)
- 実施場所 ハワイ・コンベンションセンター
- 関係機関 Kawaii Kon実行委員会
- 訴求対象 アニメ・漫画 愛好家
- 開催規模 約1千名
(全体の来場者数は1万名以上)



■概要・効果

ハワイ州最大のアニメ関連イベント「カワイイ・コン」に総領事館ブースを設置、来場者の日本に関する様々な質問に対応した。参加者からは、日本へ旅行に行ってみたいのだが、どのようなプランがいいか、日本語・茶道に興味があるのだけれど、どこで習えるか等、多様な問い合わせがあり、ひとつひとつ丁寧に対応したことに対し、感謝され、対日理解の促進・訪日意欲の喚起につながった。若年層・青年層へのアウトリーチも強化する機会となった。



172) ボーイスカウト・メンバーによる総領事館訪問 (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年8月4日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 ボーイスカウト・オブ・アメリカ・アロハ支部
- 訴求対象 小・中・高校生のボーイスカウト少年
- 開催規模 約60名
- 概要・効果

在日米軍勤務経験者が幹部として関わっている現地のボーイスカウトグループを招き、日本にまつわるクイズ、JNTO観光ビデオ上映、紙芝居、総領事館の役割や日ハワイ関係についてのプレゼンテーションを行った。若年層・青年層への対日関心・訪日意欲の喚起につながり、今後もこのような地域コミュニティとの連携を強化できる取組を行っていく。



173 山形県産米「つや姫」・山形牛・山形日本酒PRレセプション (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年11月3日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 山形県
- 訴求対象 バイヤー、レストラン、お弁当等販売業
- 開催規模 約95名
- 概要・効果



現地の食品関係者約60名を招待し、「つや姫」、山形牛、山形県産日本酒についてのプレゼンテーションを山形県の生産者及び山形県庁担当者が行い、それらを使ったメニューを含むランチ・バフェの提供を行った。併せて山形県の伝統工芸品及び木製家具の展示と山形県の観光DVDの上映を行った。また、花笠音頭を参加者と共に踊り、和やかな演出となった。つや姫のカリフォルニア米との違いをよく理解してもらうとともに、山形牛への関心が寄せられた。

174 JETROサービス産業ミッション・ネットワーキング・レセプション (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年11月6日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 JETRO LA、JETRO本部
- 訴求対象 現地のビジネスパートナー
- 開催規模 約40名
- 概要・効果



飲食及びITの日本企業8社が訪れ、ホノルルにおけるビジネス環境について調査・視察を行った。セミナーの際に館員もプレゼンを行い、また、ビジネスパートナーとなり得る弁護士、会計士、コンサルタント、銀行関係者、人材派遣業者、不動産業者、日本人商工会議所関係者及び州政府ビジネス関係部局の関係者を招いてネットワーキングのためのレセプションを開催。現地のビジネス環境を熟知する最前線の専門家の意見を直に聞くことができたとして、参加企業から好評を得た。



①75 広島ハワイ次世代ビジネスリーダー・プログラム歓迎レセプション (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年11月13日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 ホノルル日本人商工会議所、
広島県
- 訴求対象 広島とハワイの次世代
ビジネスリーダー
- 開催規模 36名
- 概要・効果

【概要】

友好都市であるハワイと広島の次世代ビジネスリーダー各10名がハワイで交流し、共にビジネス・リーダーシップ研修を受けた。

【効果】

この交流を支援するため、総領事館がホノルル日本人商工会議所と共催で歓迎レセプションを開催。両者の絆を深めるのに貢献した。



176 「歩こうアメリカ、語ろうニッポン」 in ハワイ(ホノルル総領事館)

- 実施時期 2018年1月26日
- 実施場所 ハワイ州ホノルル市
- 関係機関 イゲ・ハワイ州知事、プナホウ高校、イオラニ高校、ハワイ大学
- 訴求対象 州知事、有識者、米軍、大学生、高校生
- 開催規模 450名程度
- 概要・効果

【概要】

官邸国際広報室主導の「歩こうアメリカ、語ろうニッポン」をハワイで実施。藤崎一郎日米協会会長(元駐米大使)が率いる一般から選ばれた3名の訪問団により、女性の働き方や若者の就職活動事情、留学生受入体制など日本についてのプレゼンを計4か所で行った。また、総領事公邸においても同様の講演会を行い、その後総領事主催レセプションを催したところ、現地有識者との懇談の場となった。さらに、ハワイ州イゲ知事(日系3世)にも表敬訪問を行った。

【効果】

参加した日本語を学習している学生達にとって、日本の今の姿を日本から来た講演者の生の声として聞く機会となった本事業の反響は大きく、イオラニ高校では、昼休み中の任意参加であったにも関わらず、予定の50名を大幅に上回る300名が当日会場に集まった。藤崎元大使による日本を取り巻く世界情勢についてのクイズ(学生対象)はどの会場でも盛り上がりを見せ、オバマ前大統領の出身校であるプナホウ高校では、10問中9問正解という最高得点を出した生徒もいた。優秀な生徒が多く集まる現地のトップスクールであるイオラニ高校およびプナホウ高校、また、日本との交流が活発なハワイ大学において情報発信できたことは、対日理解促進の効果があり、未来の日ハワイ関係の架け橋となりうる人材の育成につながる結果となった。成人の参加者からも、日本について新しいことを知るきっかけとなり、大変良かった、という声もあがった。本年は、ハワイにおける日系移民150周年であり、これについても各訪問先で広報することができた。



177 講師派遣事業「日米安保」(ホノルル総領事館)

■実施時期 2018年2月26日

■実施場所 ハワイ州ホノルル市
(東西センター)

■関係機関 総領事館と東西センターの共催
パシフィックフォーラムCSIS、
ハワイ大学日本研究センター、
ハワイ日米協会が後援

■訴求対象 ハワイ州在住の一般市民

■開催規模 約65名

■概要・効果

【概要】

講師派遣事業で来訪した番匠幸一郎丸紅顧問(元陸将)を講師に日米安全保障関係に関する講演を実施。特に安全保障に関心のある現地の有識者、軍関係者、外交団等の出席を得た。

【効果】

陸上自衛隊にてイラク派遣部隊の指揮を執り、東日本大震災の際の「トモダチ作戦」にて日米調整を担うなど、日米共同オペレーションの前線にて活躍した番匠氏より、実体験を交えた講義を行い、日米安全保障関係の深化や広がりについて理解を得ることができた。さらに、インド太平洋地域における多国間協力の重要性について訴えることができた。

質疑応答も活発に行われ、北朝鮮や中国への対応、韓国との協力関係、国内における米軍・自衛隊への批判についてどう思うか等の質問が寄せられたが、ひとつひとつ丁寧に応答したことにより、国際社会における日本の立ち位置等についてポジティブなイメージを広めることができた。

会場アンケートの結果、約3割の参加者は総領事館開催のイベントに初めて出席したと回答し、新たなアウトリーチ対象の強化にもつながった。また、今後も同様のイベント開催を望む声や、日米関係の重要性を支持するコメントもあった。



178 第24回ホノルルフェスティバル・キックオフ・レセプション (ホノルル総領事館)

- 実施時期 2018年3月8日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 ホノルルフェスティバル財団

■訴求対象

ハワイ州知事、ホノルル市長、
日系団体代表、現地有識者、
各国総領事(韓国、ニュージーランド及び
フィリピン)等

- 開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

ホノルルフェスティバルは、日系旅行会社JTBが中心となって設立したホノルルフェスティバル財団が主催する、環太平洋地域諸国の文化交流を目的とした現地最大の行事である(本年は13万人が来場)。歴代の在ホノルル総領事は、同フェスティバル実行委員会の名誉会員を務めており、例年、3日間の行事の前日に、公邸において、関係者の親睦を深めることを目的に、ホノルルフェスティバル財団とともにキックオフ・レセプションを共催している。

【効果】

現地を代表する要人に対し、本年のハワイ日系移民150周年記念事業の取組について発信できる場となった(ホノルルフェスティバルも認定事業のひとつ)。ハワイ州知事及びホノルル市長の両者はいずれも現地における日系人の功績を称え、150周年という歴史的な節目をともに迎えられることの喜びを挨拶中に述べていた。寿司、すき焼き、日本酒等も共催の財団と協力の上提供し、日本の食文化の紹介にもつながった。日本伝統芸術国際交流協会所属のさくらこまち和楽団による琴、三味線、太鼓、笛の演奏は、日本の伝統芸能に親しみをもってもらえる機会となり、来場者も歌をくちずさむ等し、会場は和やかな雰囲気となった。



179 第24回ホノルルフェスティバルにおける「ハワイ日系人の歩み」写真展及び日本映画上映会の開催（ホノルル総領事館）

- 実施時期 2018年3月9日～11日
- 実施場所 ハワイ・コンベンション・センター
- 関係機関

ホノルルフェスティバル財団
二世ベテランレガシー（写真展共催）
国際交流基金（映画上映会共催）

■訴求対象

一般市民（ハワイ州に限らず、米本土や海外からの来場者も多数あり）

- 開催規模 フェスティバル全体約13万名
- 写真展来場者数 約1,500名（3日間）
- 映画上映会来場者数 約1,200名（2日間）

■概要・効果

【概要】

ホノルルフェスティバルは、日系旅行会社JTBが中心となって設立したホノルルフェスティバル財団が主催する、環太平洋地域諸国の文化交流を目的とした現地最大の行事である。総領事館は、国際交流基金の映画事業を用いて例年開催している日本映画上映会の他に、本年のハワイ日系移民150周年を記念し、「ハワイ日系人の歩み」写真展を開催した。1868年（明治元年）に日本から初めて移民が渡った土地がハワイであり、現代まで、日本の文化や価値観がどのように現地において受け継がれてきたかを描写する内容の写真展となっており、今後ハワイ州各地で開催予定。

【効果】

写真展に関し、来場者からは「大変勉強になった」「素晴らしい 教育的機会をありがとう」「次回は、家族・友人にも見てもらいたいので、また一緒に来たい」「自分は日系人だが自身のルーツについて学べて良かった」等のコメントが寄せられた。ハワイのみならず、米国社会全体における現地日系移民の功績は大きく、これを発信し、150周年についても広く知らしめる機会となった。日本映画上映会では、「人生、いろどり」、「ぶどうのなみだ」等、日本の美しい自然が描かれた作品が上映され、「日本へ行ってみたいくなった」等のコメントがあり、訪日誘致にもつながった。



180 米軍ファミリーナイト・レセプション(ホノルル総領事館)

- 実施時期 2018年3月23日
- 実施場所 ハワイ州ホノルル市
- 関係機関 特になし
- 訴求対象 米軍人及びその家族
- 開催規模 134名
- 概要・効果

【概要】

「在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業」の一貫として、平素からの日米安全保障協力に対する謝意を表明し、日本文化の体験を通じた知日層の拡大・強化を図るため、若手米軍士官及びその家族を招いての「米軍ファミリーナイト」レセプションを開催。3度目の開催と

なる本年は、ひな祭りと端午の節句をテーマに、公邸にはひな人形及び五月人形を飾り、子供を中心に新聞紙での兜や刀作りを体験してもらった。また、琉球太鼓、琴、三味線といった日本の楽器のデモンストレーション及び体験演奏、表千家ハワイ支部による茶道の実演及び体験、ハワイ日本文化センターによるオリジナルうちわ作成、浴衣・法被等の試着、自衛隊連絡官による居合道及び剣道の実演及び体験、製麺会社Sun Noodleによるラーメンの実演提供、日本のケーキショップKulu Kuluによるクレームブリュレの実演提供等のブースを用意し、出席者が思い思いに日本文化を楽しんだ。さらに、出席者に折り紙で手裏剣を作成し、最後に忍者に扮した総領事館館員及び自衛隊連絡官が登場し、子供たちに大人気であった。

【効果】 出席者の多くは、現在現地の米軍各司令部で戦略立案や日本等他国との調整を担当する若手士官であり、今後戦略決定に責任を持つ者となっていくことが期待されるどころ、日本への親しみを更に感じてもらい、総領事館とのネットワークを強化する良い機会となった。

また、家族全員で日本文化を楽しめるイベントとしたことにより、出席者からは、いつも家族で日本駐在の思い出を大切に懐かしんでいるので、家族全員で楽しい時間を過ごすことができた等の御礼メールが届いた。米軍人は通常家族とともに赴任するため家族のサポートは必須であり、家族を含めて日本への関心を高める上で有意義なイベントとなった。



181 日本映画上映会(ポートランド領事事務所)

■実施時期(8日間)

2018年2月17日、18日、19日、24日、25日、27日、28日、3月3日

■実施場所 オレゴン州ポートランド市内

■関係機関 ノースウェスト・フィルムセンター

■訴求対象 ポートランド市在住の日本映画に関心を有する一般米国人

■開催規模 約1,730名

■概要・効果

【概要】

ポートランド・インターナショナル・フィルム・フェスティバル開催における日本映画(「OH LUCY!: オー・ルーシー」、 「LO OVER THE WALL: 夜明け告げるルーのうた」、 「HER LOVE BOILS BATHWATER: 湯を沸かすほど熱い愛」及び「The THIRD MURDER: 三度目の殺人」)を上映。

また、会場出入口にテーブルを設置し、総領事館バナーの展示や「にぽにか」及び日本各地観光パンフレット等の配布。

【効果】

今回上映した日本映画2作品が人気があったことからアンコール上映となり、当初の予想以上に参加人数が増えた。

日本映画の素晴らしさを参加者に伝えることや、日本文化への興味・関心と理解向上、さらには領事事務所ブースによる対日観光促進を促した。



182 在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業(JUMP) (マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年6月13日
- 実施場所 フロリダ州ジャクソンビル市米国海軍航空基地内レストラン
- 関係機関 米国海軍第4艦隊
- 訴求対象 在日米軍駐在経験者、州政府高官、州議会議員等
- 開催規模 約170名

■概要・効果

総領事から在日米軍駐在経験者に対して「在日米軍経験者は日米同盟の基盤の一つとして極めて重要であり、日米友好の証である。」ことを伝えるとともに、日本に対する印象や日本の思い出話等を聴取することに努めた。

多くの参加者は、本事業が日本勤務の経験を思い出し、日米関係の重要性を再認識する大変有意義な機会であったと評価し、謝意を述べた。

なお、レセプション会場に日本酒試飲カウンターを設けたところ、日本に駐在歴のある者にとって日本酒は身近なものであることを確認できた。



183 ビリラキス下院議員主催のパスコ郡商工会メンバーとの意見交換(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年7月17日
- 実施場所 フロリダ州パスコ郡ウェズリー・チャペル
- 関係機関 パスコ郡商工会
- 訴求対象 ビリラキス連邦下院議員(共、12区)、パスコ郡商工会等ビジネス関係者
- 開催規模 28名

■概要・効果

ビリラキス連邦下院議員がフロリダ州中央西部の地元選挙区で開催したパスコ郡商工会との会合に、総領事が出席し、日米・フロリダ州経済関係、日本企業の投資誘致、インフラビジネス参画、日本の投資環境等につき、ブリーフ及び意見交換を行い、対日理解の促進を図った。

また、具体的な対日進出を計画するIT企業を、会合後JETROアトランタ事務所に紹介した。

184 タンパ空港向け三菱重工の車両荷揚げ記念式典(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年7月17日
- 実施場所 フロリダ州タンパ港(タンパ市)
- 関係機関 三菱重工、タンパ港湾局、タンパ国際空港等
- 訴求対象 実施場所周辺の政治家、一般市民等
- 開催規模 約200名
- 概要・効果

三菱重工がタンパ国際空港に供与する鉄道車両の陸揚げ式典が開催され、フロリダ州知事等とともに総領事が挨拶を行った。

事後広報として、地元紙に対して同趣旨の投書を行い、オンライン記事及び紙面への掲載を実現した。総領事館フェイスブックでも同趣旨のメッセージを掲載した。



185 海上自衛隊遠洋練習航海エバーグレイズ寄港 (マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年7月21日～23日(3日間)
- 実施場所 フロリダ州エバーグレイズ港(フォートローダーデール市)
- 関係機関 米軍南方司令部等
- 訴求対象 地元政治家、地元市民
- 開催規模 約360名(艦上レセプション、日米音楽隊合同コンサート)



■概要・効果

フォートローダーデール市長を始めとする複数の地元地方議員及び米南方軍外交顧問を始めとする複数のミリタリー高官を招待し、総領事館主催で入港歓迎式を実施。

地元の手厚い歓迎を受ける様子は地元メディアに取り上げられた。艦上レセプションにおいては、日本食を始め日本文化披露(茶道及び書道)及び音楽隊の演奏等日本のプレゼンスをアピールし、日米の友好関係をより強固なものにすることができた。

日米音楽隊合同コンサート(於:森上博物館・日本庭園)及び地元主催レセプション(於:フォートローダーデール・ヨットクラブ)も実施し、草の根レベルの交流・理解も促進。



186 エクスぺリエンス・アジア2017における日本文化紹介事業 (マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年10月14日
- 実施場所 フロリダ州タラハシー市
Bloxham & Lewis Parks
- 関係機関 Japanese Community of Tallahassee
- 訴求対象 地元市民
- 開催規模 約1,300名
- 概要・効果

Asian Coalition of Tallahasseeの主催で毎年開催されている「アジア祭」において日本ブースを出展し、日本語による名前書き、七夕飾り作成、浴衣の試着、御輿の展示、日本関連資料の展示・配布、折り紙のデモンストレーション・展示等による日本文化紹介。特設舞台においては、和太鼓及び尺八奏者による演奏を披露するほか、盆踊り、よさこいソーラン節の実演。アジアの中の日本としての存在をアピールすると同時に、対日理解の更なる促進を図った。



187 オーランド日本祭(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年11月5日
- 実施場所 フロリダ州キシミー市レイクフロント公園
- 関係機関 オーランド日本人会
- 訴求対象 地元市民
- 開催規模 約5千名
- 概要・効果

総領事館ブースを出店し、折り紙や習字コーナー等を設け日本文化紹介を実施、観光資料を含む各種広報資料を用いた日本事情の紹介やJET等の広報も実施。特設ステージでは、津軽三味線、和太鼓、日本舞踊、コスプレコンテスト、居合い抜きのデモンストレーション等各種の日本文化紹介イベントを実施。州最大の日本祭として、17回目を迎え、地元によく受け入れられている。



188 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(マイアミ総領事館)

■実施時期 2017年11月27日～28日(2日間)

■実施場所 フロリダ州タンパ市及び
ペンサコーラ市

■関係機関 官邸国際広報室、
南フロリダ大学、
西フロリダ大学、
日米協会等

■訴求対象 大学生を始めとする
地元市民、地元政治家、
地元ビジネス関係者、
軍関係者等

■開催規模 計300名

■概要・効果

【概要】

タンパ市においては、タンパベイタイムス編集長との意見交換会、タンパ商工会及び市長との意見交換・昼食会、南フロリダ大学での3回の講演、米軍関係者・大学関係者との意見交換・夕食会を実施。ペンサコーラ市においては、市長との懇談会、西フロリダ大学での講演、Sasakawa USA及び日米協会との共催で、軍関係者を主対象とした講演・レセプションを実施。

【効果】

いずれも、日本の強み・魅力をアピールし、草の根レベルの日米交流を図った。



189) パームビーチ・ユダヤ映画祭における映画「杉原千畝」上映
(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年2月5日

■実施場所 フロリダ州パームビーチ市

■関係機関 パームビーチ・ユダヤ映画祭実行委員会、
AJCパームビーチ

■訴求対象 ユダヤ系を中心とする一般市民

■開催規模 約70名

■概要・効果

【概要】

パームビーチ・ユダヤ映画祭における映画「杉原千畝」上映会に出席し、上映前に壇上でAJCパームビーチ支部長とともに挨拶を行った。その後、杉原領事から査証発給を受けた聴衆1名と短時間懇談した。

【効果】

フロリダ州南東部3郡は、全米で三番目にユダヤ系人口の多い都市部とされている。現地での本件映画上映に参加して総領事からの挨拶や一般市民との交流を行うことで、主にユダヤ系米国人に対して対日イメージ向上に貢献した。



190 タンパ空港向け三菱重工の車両走行開始記念式典 (マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年2月7日、8日

■実施場所 フロリダ州タンパ国際空港の
主要ターミナルにあるSkyConnect駅
プラットフォーム及びレンタカー施設

■関係機関 タンパ国際空港

■訴求対象 タンパ市関係者、空港関係者、
三菱重工関係者、
地元プレス関係者等

■開催規模 式典約200名(7日)
レセプション約1千名(8日)

■概要・効果

【概要】

2月7日、タンパ国際空港において三菱重工(Mitsubishi Heavy Industries America, Inc.)製無人旅客輸送(Automated People Mover)車両(SkyConnect)の初運行を記念する式典を開催。スコット・フロリダ州知事、タンパ市関係者、空港関係者、三菱重工関係者及び地元プレス関係者等約200名が出席。式典は、要人の挨拶の後、スコット州知事及び在マイアミ総領事らがテープカットを行い、一部参加者がレンタカー施設まで試乗した。

翌8日にはレセプションが開催され、タンパ国際空港関係者、航空局理事会の元メンバー、地元政府関係者等約1千名の出席者に対し、参列した在マイアミ総領事等が挨拶を行った。

【効果】

在マイアミ総領事から、日米両国は友好、同盟関係、相互に利益をもたらす経済関係によって結ばれていること、日本企業の技術・信頼性、地元の雇用への日本企業の貢献等をアピールした。



191 フロリダ国際大学 Cool Japan イベント(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年2月25日
- 実施場所 フロリダ州マイアミ市
- 関係機関 フロリダ国際大学
国際交流基金
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約400名



■概要・効果

【概要】

フロリダ国際大学が主催するクールジャパンイベントに出席し、首席領事が開会式で挨拶を行った。特設ステージでは空手デモンストレーションなど各種出し物を披露された他、日本の伝統的な各種屋台が出展されるなど、日本祭の夜店が再現された。

【効果】

一般米国人に対して日本文化の理解促進及び対日イメージ向上に貢献した。

192 華道レクチャー・デモンストレーション(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年2月25日
- 実施場所 フロリダ州デルレイビーチ市
- 関係機関 オールド・スクール・スクエア、
南フロリダ日米協会、
デルレイ市姉妹都市委員会
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約170名
- 概要・効果



【概要】

オールド・スクール・スクエアにおいて、現地一般市民を対象として、三堀千栄子・草月流師範により、趣の異なる10作品を解説しながら作成するレクチャー・デモンストレーションを行った。その後、同会場にて、一部参加者を対象とした交流会を開催した。

【効果】

現地一般市民が直接知りうる機会が少ない華道について、日本人専門家による本格的なレクチャー・デモンストレーションを行い、華道及び日本文化に対する理解促進に貢献した。

193 日米合弁企業オープニング式典(マイアミ総領事館)

■実施時期 2018年3月2日

■実施場所 フロリダ州ジャクソンビル市

■関係機関 CYBERDYNE
(日本の医療ベンチャー)
Brooks Rehabilitation
(米国のリハビリテーション医療グループ)



■訴求対象 地元ビジネス関係者、
病院関係者

■開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

3月2日、日本の医療ベンチャーCYBERDYNEと米国のリハビリテーション医療グループBrooks Rehabilitationによる米国における合弁事業のオープニング式典がジャクソンビルにて挙行され、ジャクソンビル市長ほか約100名(日本側から、CYBERDYNE社長、JETROアトランタ事務所長等)が参列した。

来賓等挨拶、CYBERDYNEによるプレゼンテーションの後、日本酒と和食を振る舞ったミニレセプションが実施された。

【効果】

地元ビジネス関係者を中心に、日本の医療ベンチャーによるジャクソンビル進出に伴う米国企業との合弁についてアピールした。

194 アジア・カルチャー・フェスティバルにおける日本文化紹介 (マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年3月3日、4日
- 実施場所 フロリダ州ホームステッド市
- 関係機関 マイアミ・デード郡、
アジア系米国人評議会、
南フロリダ・タイ・アメリカン協会
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約1,800名



■概要・効果

【概要】

フロリダ州南部地区で最大のアジア系イベントに総領事館が日本ブースを出展し、生け花インターナショナルによる生け花デモンストレーション及びワークショップ、現地高校及びマイアミ補習校のボランティアによる習字(名前書き)及び折り紙のデモンストレーション、広報資料の配付、各種照会対応、JETプログラムの広報、また、特設ステージでは、和太鼓演奏を実施した。

【効果】

現地における最大のアジア系イベントである本フェスティバルに参加し、和太鼓、生け花、折り紙、習字等の日本文化紹介を行い、アジア各国との競争の中で日本のプレゼンスをアピールすると同時に、対日理解の促進に貢献した。また、カヴァ郡議会議員を司会者に迎えての式典において、主催者から総領事等が感謝状表を授与されるなどアジア系団体との関係強化に貢献した。

195 日米グラスルーツ・ビジネス・パートナーシップ・フォーラム (マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年3月5日
- 実施場所 フロリダ州ペンサコーラ市
- 関係機関 JETRO
- 訴求対象 地元ビジネス関係者
- 開催規模 42名

■ 概要・効果

【概要】

3月5日、ペンサコーラ市長の臨席も得て、地元ビジネス関係者を対象として、JETRO アトランタ事務所長等によるキーノートスピーチ、CYBERDYNE(日本の医療ベンチャー)、Brooks Rehabilitation(米国のリハビリテーション医療グループ)、Hitachi Cable(ペンサコーラ進出日系企業)関係者等によるプレゼンテーション等を実施。

【効果】

地元ビジネス関係者に対して、対日ビジネス促進にかかるJETRO事業、対米進出済みの日系企業等の成功事例等を説明し、特に米国の中小企業による対日ビジネスにかかる理解促進を図った。



196 着物レクチャー・デモンストレーション(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2018年3月25日
- 実施場所 フロリダ州マイアミビーチ市
- 関係機関 マイアミビーチ市ボタニカルガーデン
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約200名



■ 概要・効果

【概要】

マイアミビーチ市のボタニカルガーデンで例年春に開催されるジャパンスプリングフェスティバルにおいて、屋内会場の一角を貸切り、フロリダ在住の着物デザイナー浅井広海氏を講師に迎えて、着付けの実演を交えた着物に関するレクチャーを行ったほか、10人のボランティアモデルによる「日本の結婚式」をテーマとしたファッションショー風のデモンストレーションを行い、多様な種類の着物の魅力を披露した。

【効果】

現地では着物が日本の伝統的衣装であることは知っていても実際に着物を見る機会はほとんどなく、その基本的な理解に乏しいところ、着物及び日本文化に対する理解促進に貢献した。

197 第28回アリゾナ日本語弁論大会(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年4月9日
- 実施場所 アリゾナ州スコッツデール サワロー高校
- 関係機関 アリゾナ州日本語教授会、国際交流基金
- 訴求対象 日本語履修学生、生徒家族・友人、日本語教師
- 開催規模 約150名
- 概要・効果

日本語を母国語としない高校生、大学生による日本語スピーチコンテストをアリゾナ州日本語教授会と共催。過去の成績優秀者には世界で著名なギタリスト(元メガデスのマーティ・フリードマン)がおり、日本語学習者以外にもイベントの名が知られている。

アリゾナ州の日本語履修学生の日本語能力向上を図るとともに、在留邦人、日系人の少ない同地における日本語普及促進及び親日家の育成を図った。



198 在日米軍経験者レセプション(沖縄県本土復帰45周年記念) (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年5月12日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 米軍関係機関、沖縄県人会
- 訴求対象 在日米軍経験者及びその家族、
沖縄県人会関係者
- 開催規模 約90名
- 概要・効果

日本との友好親善の促進。沖縄本土復帰に係る展示物や琉球祭り太鼓の披露、沖縄料理及び郷土酒の提供を通じ、対日理解を深めた。



①99 ロサンゼルス交響楽団年次晩餐会における日本文化紹介 (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年6月2日
- 実施場所 市内ミュージックセンター内
ドロシー・チャンドラー・パビリオン
- 関係機関 ロサンゼルス交響楽団支援国際委員会
- 訴求対象 現地日米企業関係者、文化芸術関係者、
LAフィル関係者他
- 開催規模 約300名

■ 概要・効果

LAフィルを支える篤志家などが集まるLAフィルボランティア組織の一つである国際委員会が毎年ある国をテーマとしてその国の総領事館の協力を得て開催。第65回を数える今年には日本がテーマであり、日本の多様な魅力をアピールするために当総領事館が協力することとしたもの。現地の富裕層等に対し、日系人による室内楽演奏や、米国人による尺八演奏、琉球舞踊のパフォーマンスの他、オリンピック等についてのビデオ上映など、日本の伝統文化及び現代性を広く広報することができた。



200 焼酎PRイベント(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年8月3日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 ジェトロロサンゼルス
- 訴求対象 現地レストラン関係者、メディア等
- 開催規模 約200名
- 概要・効果

これまで焼酎になじみのなかったゲストに美味しい飲み方や料理との組み合わせを紹介することができ、自分の店で扱いたいと商談を進めるレストラン関係者も少なくなく、出展者、ゲスト双方にとって良い機会となった。本イベントについては、翌日のNHKニュースの他、現地情報誌においても数多く報じられた。



201 LA七夕フェスティバルの開催(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年8月18日～22日(5日間)
- 実施場所 リトル・トーキョー地区
- 関係機関 LA七夕フェスティバル実行委員会
- 訴求対象 地域コミュニティ、地元自治体、地域選出議員等
- 開催規模 約150団体
- 概要・効果

現地最大の日系人による祭典である二世週祭に合わせて実施された。

総領事館も館員が制作したKAZARIを出展したほか、総領事が名誉委員長に就任し、表彰式に参加。

本年度で9回目となるが、南カリフォルニアの各種日系団体や日系企業のほか、ロサンゼルス市役所、地元選出議員事務所、地元小学校等がKAZARIコンテストに出展するなど、地域に定着したイベントとなっている。



202 在日米軍経験者レセプション(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年9月7日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 米軍関係者・退役軍人関係団体
- 訴求対象 在日米軍経験者及びその家族
- 開催規模 約130名
- 概要・効果

日本との友好親善の促進。家族とともに日本文化プログラムや日本食・日本酒を楽しむ対日理解を一層深めた。



203 米国ユダヤ協会(AJC)若手リーダーとの夕食会 (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年9月18日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 米国ユダヤ協会の若手会員団体(ACCESS)
- 訴求対象 米国ユダヤ協会会員ら
- 開催規模 約40名
- 概要・効果

現地ユダヤ系団体である米国ユダヤ協会(AJC)の現地で活躍する25~40歳の若手リーダーら35名を迎え、総領事が、日本とユダヤ人との繋がり、日米関係等について講演を行った。

多くの参加者が日本に深く興味を抱いており、質疑応答コーナーでも多くの質問がなされるなど、有意義な講演会及びイベントとなった。



204 JETプログラム帰国歓迎レセプション(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月12日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 JETプログラム南カリフォルニア & アリゾナ同窓会
- 訴求対象 JETプログラム帰国者、企業関係者等
- 開催規模 約70名
- 概要・効果

JETプログラムから帰国後の米国人青年の日本とのつながりを奨励するとともに、現地での日本関連コミュニティにおける人脈構築を支援。



205 福島県知事による復興セミナー(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月18日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 福島県
- 訴求対象 ロサンゼルス郡及びロサンゼルス市震災担当者等
- 開催規模 約100名
- 概要・効果

南カリフォルニアにはサンアンドレアス断層があり、大地震の発生可能性が高いと言われていることから震災復興は非常に関心の高いテーマであり、現地震災関係当局や被災経験エリアの議員、企業等、幅広い分野からの出席があった。質疑応答においても内堀福島県知事から丁寧な回答がなされ、出席者からも有意義なセミナーだったとの意見を得た。



206 サンディエゴ・ティファナ日本協会による在サンディエゴ名誉総領事の表彰(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月19日
- 実施場所 サンディエゴ日本友好庭園
- 関係機関 サンディエゴ・ティファナ日本協会
- 訴求対象 企業関係者、有識者、文化芸術関係者等
- 開催規模 約70名
- 概要・効果

カリフォルニア州サンディエゴの日本関連コミュニティにおける日米交流ネットワークの強化。メキシコのティファナから在ティファナ名誉総領事も出席。



207 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月23日、24日
- 実施場所 ロサンゼルス市内南カリフォルニア大学、オレンジ郡カリフォルニア大学アーバイン校
- 関係機関 官邸国際広報室、南カリフォルニア大学大学院・アジアソサエティ、カリフォルニア大学アーバイン校
- 訴求対象 大学生・大学院生及び教授陣
- 開催規模 約200名
- 概要・効果

「歩こうアメリカ、語ろうニッポン」事業で現地を訪問した大島正太郎元駐韓大使を団長とする同事業団員が、アジアソサエティとの共催により、南カリフォルニア大学で、また、カリフォルニア大学アーバイン校との共催により同大学で講演を行った。アジアソサエティ関係者及び、両大学教授、日本語学習者や日本関連に関心の高い学生・大学院生等に対し、日本の外交政策、高齢化社会での取組、茶道、地方都市への観光誘致等について発信することができた。



208 姉妹都市記念イベント(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月24日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 姉妹都市関係者
- 訴求対象 姉妹都市活動関係者及び市議会・市関係者
- 開催規模 約100名
- 概要・効果

総領事公邸で開催された姉妹都市友好を記念したレセプションにおいての日本の外交政策、高齢化社会での取組、茶道、地方都市への観光誘致等についての講演と質疑応答を通じ、姉妹都市関係をはじめとするグラスルーツ交流の重要性を発信することができた。



209 名古屋及び中部3県の観光誘致促進レセプション (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年11月1日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 名古屋市、名古屋ロサンゼルス姉妹都市協会
- 訴求対象 ロサンゼルスの米系旅行会社、VIPら
- 開催規模 約60名
- 概要・効果

米系旅行会社やVIPを対象とした観光誘致イベント。

外国人にとって馴染みの薄い名古屋の認知度向上を目的とし、名古屋メシや伝統工芸品、侍・城、コスプレといった名古屋の文化を総合的に紹介。

多くのゲストからイベントのプログラムや食事についての賞賛の声があり、米国人観光客誘致拡大に向けて期待の持てる有意義なセミナー及びレセプションとなった。



210 日・アルメニア外交関係樹立25周年記念コンサートへの協力 (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年11月18日
- 実施場所 ロサンゼルス・シティ・カレッジ
- 関係機関 井上知香氏(日本人サクソ奏者)、
全米日本人女子学生協会(AAJUW)
- 訴求対象 アルメニア系米国人、
グレンデール市関係者
- 開催規模 約150名
- 概要・効果



現地在住の日本人サクソ奏者が、友人であるアルメニア人音楽家と協力してコンサートを実施。

総領事館は後援名義を行い、総領事挨拶を実施。2名のグレンデール市議会議員も参加。

211 ジャパン・ハウス・ロサンゼルス・アップデート・イベント (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年11月28日
- 実施場所 全米日系人博物館
- 関係機関 ジャパン・ハウス
- 訴求対象 文化芸術・企業関係者、日本研究者
- 開催規模 約180名
- 概要・効果

ジャパン・ハウスの開館を前に、ジャパン・ハウスの概要を幅広い層に対し紹介することにより、今後の連携・パートナーシップを構築。



212 グレンデール市日本庭園・茶室修復計画 (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年8月8～11日、
2018年1月16～22日
- 実施場所 グレンデール市ブランド公園内
日本庭園・茶室
- 関係機関 グレンデール市、国土交通省、
国際交流基金、
フレンズ・オブ・ショーセイアン
- 訴求対象 グレンデール市民、
グレンデール市関係者
- 開催規模



■ 概要・効果

【概要】

同庭園は、平日市民に開放されているほか、週末は結婚式等のイベントに利用されており、市民の身近な存在。

2017年8月には、日本から外務省、国土交通省、公益財団法人都市緑化機構、日本庭園専門家、国際交流基金からなる合同視察団を派遣され、修復計画を策定。

2018年1月には、日本から日本庭園専門家約10名が派遣され、グレンデール市関係者等とともに修復計画に従い修復を実施。また、茶室については、平成30年度中に修復すべく、関係者と調整中。

【効果】

日本庭園修復の様子は、グレンデール市のコミュニティテレビで繰り返し放映されたほか、2月27日には、グレンデール市議会が日本側の協力に感謝するとして、市議会の冒頭において総領事に対し、感謝状の伝達式が行われるなど、現地において日本の貢献が広く発信された。

213 ジャパン・ハウス ロサンゼルス企画展内覧会及び一部先行開館 記念レセプション、関連講演会等（ロサンゼルス総領事館）

- 実施時期 2018年1月18日～19日
- 実施場所 ジャパン・ハウス ロサンゼルス、
ロウズ・ハリウッド・ホテル、
ファッション専門学校等
- 関係機関 ジャパン・ハウス ロサンゼルス
- 訴求対象 現地政府関係者、日米企業
関係者、文化芸術関係者、
報道関係者等
- 開催規模 計750名



■概要・効果

【概要】

ジャパン・ハウス ロサンゼルスの第1回企画展につき招待客及びメディアを対象に内覧会を実施するとともに関連講演会を開催した。本邦からは、堀井巖外務大臣政務官が出席。現地政府関係者や日米企業関係者等のレセプション出席を得てジャパン・ハウスを広く紹介した。

【効果】

2017年12月のショップ開店に続き、2018年1月にギャラリーがオープンしたタイミングでソフト・オープニング記念行事を開催することにより、2018年夏に予定されるグランド・オープニングに向けて幅広い層の期待感を高めることができた。

214 講師派遣事業「アジア太平洋地域の貿易秩序と日本の貿易戦略」(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2018年2月8日
- 実施場所 カリフォルニア州
ロサンゼルス市内シンクタンク
- 関係機関 パシフィック・カウンシル及び
ジャパン・ハウス
ロサンゼルスとの共催
- 訴求対象 有識者・研究者、
日米企業関係者等
- 開催規模 約40名



■ 概要・効果

【概要】

渡邊頼純慶應大学教授による日本の貿易政策やアジア太平洋の通商秩序に関する講演。

【効果】

日系企業が多数存在する現地において、日米経済関係の歩みを振り返るとともに、TPPが米国にとって有益な協定であり、米国内でのTPPの認知度を高める必要性をアピールすることができた。

215 学校訪問(ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年2月21日、23日

■実施場所 カリフォルニア州
グレンデール市(21日)
アリゾナ州
フェニックス市(23日)

■関係機関 グレンデール市
ヴァーデュゴウッドランド小学校、
フェニックス市ワシントン高校

■訴求対象 小中高生、学校関係者

■開催規模 グレンデール 約170名
フェニックス 約80名

■概要・効果

【概要】

日本に関するプレゼンテーションを行った後、剣玉デュオ「ずーまだんけ」によるパフォーマンス及び剣玉のワークショップを実施した。

【効果】

生徒が日本の生活・文化について学ぶとともに、実際に玩具を使って体験することで、日本の伝統に親しみ、アクロバティックなパフォーマンスを楽しむことで日本の現代文化を理解することができた。日本に関する知識を若年層に広め、親日家・知日家を育てることに貢献した。



216 カケハシ・プロジェクト訪米上智大学学生団による報告会 (ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年2月23日

■実施場所 カリフォルニア州
ロサンゼルス市内
ロヨラ・メリーマウント大学

■関係機関 共催：ロヨラ・メリーマウント
大学及びYFU
(Youth for Understandings)との共催

■訴求対象 学生、教授陣、訪米プログラ
ム受け入れ側関係者等

■開催規模 約40名

■概要・効果

【概要】

訪米プログラムで学んだことを参加学生が報告するとともに、ロヨラ・メリーマウント大学との交流を行った。

【効果】

日本側学生がアメリカにおける「多様性」をテーマに、プログラムで学んだ知識と各人の気づきを報告するとともに、米側学生と日米の違いや共通の課題について活発なディスカッションを行い、深い相互理解が促進された。



217 アリゾナ祭り(ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2018年2月24日～25日

■実施場所 アリゾナ州フェニックス市

■関係機関 アリゾナ祭り実行委員会

■訴求対象 一般市民

■開催規模 約8万名



■概要・効果

【概要】

例年8万人を集める日本文化祭。
総領事館ブース出展や剣玉パフォーマンス公演を実施した。

【効果】

日本の伝統文化からポップカルチャー、
食などを総合的に集めた日本祭り。

在留邦人・日系人が多くないアリゾナ州において、草の根交流を促進する大きな効果があった。



218 講師派遣事業「日米安保」(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2018年3月1日、2日
- 実施場所 カリフォルニア州
ロサンゼルス市内日米協会
及びサンディエゴ市内大学
- 関係機関
日米協会との共催、ジャパン・ハウス・
ロサンゼルス及びカリフォルニア大学
サンディエゴ校との共催
- 訴求対象 有識者・研究者、学生、
米軍関係者等
- 開催規模 ロサンゼルス 約150名
サンディエゴ 約50名
- 概要・効果



【概要】

東アジアの安全保障環境及び日米同盟に関する講演。

【効果】

日米関係の歴史を振り返り、東アジアの安全保障環境、日米同盟の更なる強化の重要性、及び現在の日本の安全保障政策について、正しい情報を、ビジネス、経済界、学生・研究者、米軍関係者等幅広い層に発信することができた。

219 ジャパニーズ・フード・フェスティバル(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2018年3月2日、3日
- 実施場所 カリフォルニア州ロサンゼルス市内
- 関係機関 日本食文化振興協会、
米国日系レストラン協会、
ジャパン・ハウス・ロサンゼルス
- 訴求対象 一般市民、日本食に興味を持つ層
- 開催規模 約5千名

■概要・効果

【概要】

映像内で和食を観せることに長けたフード・スタイリストによるレクチャー・ワークショップ。

【効果】

日本食に興味を持つ一般市民に向け、寿司や天ぷらだけでなく和食の魅力を伝え、更には日本食の海外販路開拓及び訪日観光プロモーションも行った。



220 第6回ジャパン・ボウル・オブ・カリフォルニア (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2018年3月10日
- 実施場所 カリフォルニア州ロサンゼルス市内大学
- 関係機関 南カリフォルニア日米協会
国際交流基金
- 訴求対象 日本語学習中の高校生、教諭・
学校関係者、保護者等
- 開催規模 約100名

■概要・効果

【概要】

日本語を学んでいる高校生を対象とした日本の知識を競うアカデミックな学校対抗大会。

【効果】

参加高校生の日本語学習意欲をさらに高め、対日関心を一層深める効果があった。



221 第5回ハンテントン・ビーチ桜祭り(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2018年3月18日
- 実施場所 カリフォルニア州
ハンテントン・ビーチ市
- 関係機関 ハンテントン・ビーチ
姉妹都市協会
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約1万名



■概要・効果

【概要】

ハンテントン・ビーチ市の姉妹都市協会が例年開催する日本文化祭。桜の木を有する公園を会場に、日本の音楽や踊りのパフォーマンス、武道のデモンストレーション、工芸等の展示、飲食物の販売等が行われ、姉妹都市愛知県安城市からの訪問団も参加する。

【効果】

ハンテントン・ビーチ及び近隣市民・家族連れが幅広く日本文化に親しみ、市民交流を深めることができた。